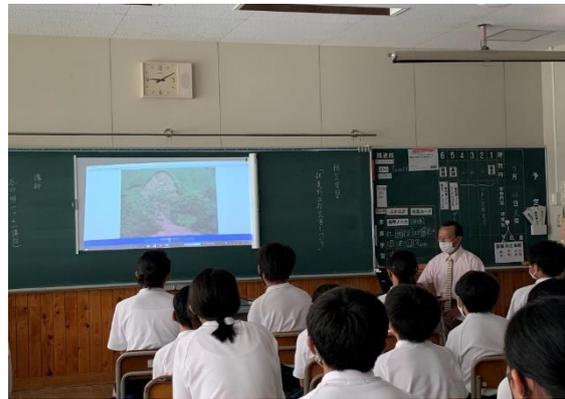




令和3年度

# 学社融合推進協議会活動報告集



令和4年3月  
田辺市教育委員会

## はじめに

今年度も昨年度と同様、日常生活の様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新しい生活様式への変更を余儀なくされています。特に、昨年末から今年にかけてはオミクロン株が猛威を振るい、市主催の多くの行事が中止、若しくは延期の措置を取らざるを得ませんでした。

同様に、それぞれの学社融合推進協議会においても活動が制限され、運営に関して苦慮する場面が多々見られました。

しかし、昨年度は学社融合推進協議会の会議を書面開催としたり、大半の活動を中止にしたりしていましたが、今年度については活動を停滞させることなく、実施可能な方法を探り、工夫しながら取組を進めていただいている様子を伺うことができました。

ある中学校の学社融合推進協議会では、かつて台風による災害で甚大な被害を被った出来事を風化させないため、防災学習を充実させる取組を計画し、実施しました。

活動当日は、災害が起きた現地で当時の様子を地域の方から教えていただいたり、教室で画像を見ながら当時の区長さんから話を伺ったり、生徒と推進協議会委員が一緒になって学習するといった新たな取組を展開しました。

コロナ禍で、何もしないという選択ではなく、生徒の健全育成や地域の活性化にとって大切だと思うことは、どのような状況であっても実施していくという学社融合推進協議会の意気込みと行動力が伝わってくる実践であると感じました。

他の学社融合推進協議会でも、アイデアを出し合い、工夫を凝らし、今までの取組を実施可能なものに作り替え、活動しているといった報告を多く受けました。

コロナ禍で、日常の活動が制限される状況にあっても、学校と地域の繋がりが見られ、協働する姿に逞しさを感じました。

また、今年度の田辺市学社融合研修会については、コロナウイルスの感染が落ち着いた時期に対策を講じた上で開催しました。昨年度と同じ形態で開催しましたが、各学社融合推進協議会が次のステージに移行する際の参考になるよう、学社融合についての理論と広がりのある実践の両方を備えた研修を計画しました。

出席者からは、「講義を受けて、この地域で育って良かったと思える子ども、地域に貢献したいと考える子どもを、学校と地域が協力・連携して育てたいと思った。学社融合推進協議会を、より実効性のあるものにしていきたい。」といった感想をいただき、開催できたことに喜びを感じました。開催に際し、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

今後も、全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和4年3月

田辺市教育委員会 教育長 佐 武 正 章

## 目 次

### [小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
三里小学校	47
本宮小学校	49

### [中学校]

東陽中学校	51
明洋中学校	53
高雄中学校	55
新庄中学校	57
衣笠中学校	59
上秋津中学校	61
秋津川中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
龍神中学校	69
中辺路中学校	71
近野中学校	73
大塔中学校	75
本宮中学校	77

### [幼稚園]

新庄幼稚園	79
三栖幼稚園	81
上秋津幼稚園	83
中芳養幼稚園	85

# [学社融合推進協議会活動報告集]



令和3年11月

学社融合研修会 4会場の様子

学校・園名	田辺市立田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援してくれる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などを中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組を行っている。			
目 標	<b>【学校】</b> ・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれさせることで、地域に誇りを持つ子どもを育てる。 ・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。 ・地域の人々や仲間との活動を通して、児童のコミュニケーション能力を育てる。		
	<b>【地域】</b> ・地域と子どもたちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子どもの双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもたちに自分も地域の一員である自覚を持たせる。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>		<b>支援者及び支援組織</b>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>熊楠学（地域学習コーディネーター）</li> <li>田辺観光ボランティアガイド</li> <li>地域の方々</li> <li>保護者</li> </ul>	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
<b>学校</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域から学ぶ内容は児童にとって新鮮で未知なことが多く大変有意義である。</li> <li>職員にとっても地域や他の専門分野を知るよい機会となっている。</li> <li>テレビ会議システムの活用など、感染防止に努めながら新しい学習方法に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も新型コロナウイルス感染拡大により、従来の学社融合の取組が大きな制約を受け、多くの活動が中止や縮小を余儀なくされた。来年度以降も感染対策と学社融合の充実をどう両立させていくかが課題である。</li> </ul>	
<b>公民館（地域）</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、例年行っている学社融合の活動が行えなかったり、制限されたりする部分もあったが、地域と学校とが協力し、感染対策を十分に行った上で、活動を行うことができた。</li> <li>昨年行った活動をそのまま行うのではなく、新たな形を取り入れて活動を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスが今後どのようなようになっていくか予測ができない状況だが、感染対策を行いつつ、徐々にできることを増やしていく必要がある。</li> <li>ただ行事を行うのではなく、どうすれば子どもが地域に興味を持ち、地域の方が学校に入っていくやすくなるのか工夫する必要がある。</li> </ul>	

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「コロナ禍における学校行事の在り方について」</li> <li>・ゲストティーチャーを招いてのクラブ活動は、講師先生に高齢者が多いことや、飲食を伴い、接触を必要とする活動があるため中止とする。その間は、校内の教職員が代替の活動を行う。</li> <li>・修学旅行を県内に変更したことで故郷和歌山の魅力を再発見でき、良かった。</li> <li>・運動会は様々な工夫があり、例年より2週後、午前中開催にしたことも適切であった。</li> <li>・公民館との共催行事である地域作品展は、2年ぶりの開催で、盛況だった。</li> <li>・校区内、近隣地域で感染流行の兆しが見られたときは、交流のある行事は最小限にし、中止・縮小を考え、感染状況が落ち着けば、十分な感染拡大防止対策を行い、実施することとした。</li> <li>○「子どもの安全、家庭教育の重要性について」</li> <li>・低学年の交通安全マナーが気になる。交通量の多い箇所は、特に気を付けてほしい。</li> <li>・車の送り迎えが多い。特に雨の日、正門付近は混雑している。今の時代仕方がないのか。</li> <li>・携帯やゲームについては、家庭でどのようなルールがあるのか。価値観の多様化が見られる。</li> <li>・子どもへの指導を繰り返し、お便りを通して保護者へのお知らせ、呼びかけを行った。</li> <li>○「教員の多忙解消について」</li> <li>・朝、学校の開門は何時か。夜遅くの訪問や電話があるのか。地域がどう関わればいいのか。できることがあるのか。ICT環境を整えば、学校から情報（HP等）を発信すればどうか。</li> <li>・教職員が、業務改善について取り組むことの理解・協力を保護者に伝えていくこととした。</li> </ul>	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「リモート町たんけん」                      例年、2年生は生活科の学習で町たんけんを実施しているが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域に出かけて学習することができなかった。そこで、昨年同様にテレビ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って、地域の数軒のお店と学校をつなぎ、校外へ出かずに学習を行った。公民館主事がリポーター兼カメラマンとして校区内の文房具店や美容院等に出向き店内の様子を撮影した。児童は学校からパソコン画面やスクリーン越しにインタビューをした。子どもたちは、新しい形での学習に興味を持ち、集中して取り組んだ。また、今後ICTを使った学習への可能性を探ることができた。</li> </ul>	
<b>【児童が育ったこと（成果）】</b> リモート町たんけんにより、地域で働く人の大変さや仕事における工夫を知り、働くことの大切さを実感することができた。また、学校の近くに様々な店があることを知って、地域への愛着を育むことができた。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「第12回 大人も子どもも地域作品展」                      昨年は新型コロナウイルスの影響で、規模を小さくしての公民館ロビー展示会だったが、今年度は感染症対策を十分に行い、例年と同じ規模で作品展を開催した。地域の方の作品や小学生全児童の作品を展示し、地域の方と子どもたちとの交流の場になった。</li> </ul>	

学校・園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部、南部公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきた。しかし、今年度も、コロナウイルス感染症予防のため、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中学校及び地域との地震津波避難合同訓練、公民館主催行事（ウォークラリー大会）などが中止となった。そのような中ではあるが、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。			
目 標	学校・園・地域 ○自分たちが住む地域のよさを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。 ○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。 ○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館） ○地域の良さを伝えることで、子どもたちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
田辺第二小学校学社融合推進協議会 ↓ 東部・南部公民館 東陽中学校 幼稚園 保育所 育友会 ↓ 地域の力を生かした教育活動		東部公民館 南部公民館 田辺市防災まちづくり課 ファミールヴィラ自治会 交通安全指導委員会東部小隊 闘雞神社 神楽神社 地域にお住まいの皆様方	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	○コロナ禍のなかではあったが、感染予防を徹底したり、綿密に打ち合わせをしたりすることで、各学年ともに工夫して地域学習に取り組むことができた。 ○子どもたちに身に付けさせたい力（問題解決の力・共に学ぶ力・表現する力）を明確にして、学習や活動をさせることができた。 ○地域の自然や社会【人々・歴史・施設・文化・動植物】と関わる中で、問題を発見し、追求する力や仲間と協力し活動する力等を高めることができた。	◇これまでは、発表会を開いて、学んだことを地域に発信することができていたが、今年度も、地域の方を学校に招くことができなかった。ただし、見学や体験学習でお世話になった施設や地域の方々には、お礼の手紙や新聞、ポスターにまとめたものを送り届けるようにした。 ◇子どもたちが、地域の一人として主体的に活動できるような取組を行いたい。	
公民館（地域）	○コロナ禍のなかではあったが「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催することができた。そこで地域ぐるみで子どもたちを安全に育てる為にどのような取組を進めていくかを話し合い、情報や課題を共有することができた。 ○公民館主事で作成した「東部・南部地域避難所マップ」を、防災学習の際に使っていただき、児童が学校や自宅以外の場所から近い避難場所を知ってもらったと思う。	◇地域での防災学習や訓練、または地区懇談会などの参加人数が年々減少してきている。今後も保護者世代の参加を促すように働きかけていきたい。また、学校と地域、子どもと地域の人間関係を構築できる機会を増やしていきたい。その中で、学校や保護者の負担にはならないように、公民館と地域が学校を支えていくことが重要である。	

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

**『児童の見守り活動について』**

○登下校時に児童が巻き込まれる痛ましい事故が起きているが、本校も通学路には道幅が狭く危険な箇所も多く、また交通量も多い。毎朝校門で子どもたちを見守っている学校長をはじめ、毎月登校指導している育友会、交通安全指導員、民生児童委員の方々とともに、これからも地域で子どもたちの安全を守っていくことについて共通理解を図った。

**『運動場の芝生再生に向けて』**

○7年前の新校舎建築にともない芝生化した運動場だが、今ではトラックの中央部分はずいぶん芝生がなくなってしまっている。そこで、なんとか元のような美しい芝生のグラウンドにしようと、ポット苗を1000個作り、子どもたちの手で7月下旬に植え付けをした。今後は育友会、地域とも連携して、芝生を管理していく必要性について協議した。



**特徴的な協働活動**

**発見!町の仕事名人【3年生】**



アセロラフーズ



幸屋



三浦量店

3年生は、10月に地域の仕事名人の方々（北本商店、幸屋、三浦量店、碓井商店、七福堂、アセロラフーズ）を訪れた。仕事の内容や技術についてはもちろんのこと、仕事への思いや地域に対する願い等についても学び、地域の良さや特徴に気づき、それらを支える人々の工夫や努力について知ることができた。また、帰校後は、質問して分かったことや発見したことを、グループごとに模造紙にまとめ発表会を開いた。最後に、感謝の気持ちをまとめ、それぞれの仕事名人に届けることができた。

【児童の感想より】  
 アセロラフーズでは、ジャムやシロップ、黒酢を作っていることが分かりました。機械を使って一日に2000本もシロップを作れるのがすごいと思いました。ジャムをおいしいと言ってくれるように、また、黒酢を飲んでくれた方が健康になるように、一生懸命作っているという言葉が心に残りました。



碓井商店



七福堂



北本商店

**暮らしを見つめて【5年生】**

5年生は、地域の障害者の方や社会福祉協議会の方から、障害者の生活や福祉について学んだり、持続可能な社会やみんなにとってやさしい町作りについて考えたりすることができた。



【児童の感想より】  
 肢体障害のことを知って、障害をかかえている人は人一倍の努力をしていることを知りました。義足をしているから苦労もあるが、マイペースで楽しく生活して「幸せは自分で決める」という言葉が心に残りました。小さな事でもいいので、障害をかかえた方や高齢者の方など、たくさんの人々を支えてあげたいです。

**地域の方々との心のつながりを大切に**

扇ヶ浜公園のトリムコースで実施した校内持久走記録会では、顔を真っ赤にして一生懸命に走る子どもたちに、大勢の地域の方々からご声援をいただいた。また、合唱部が「銀座ミュージックストリート」で歌った時や校内バスピン大会でも、地域の方々からのあたたかい声援が子どもたちの励みになった。これからも、地域の方々との心のつながりを大切に、連携して子どもたちの学びや愛郷心を育てていきたい。



学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター「天神町の教育を進める会」、天神児童館「西部エンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種の事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化が進行する中、高齢化や少子化などの問題も含んでおり、地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切にし、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。			
目 標	①子どもの教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。 ④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。 ⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 		<b>支援者及び支援組織</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>西部公民館</li> <li>西部地区自主防災連絡協議会</li> <li>西部町内会連絡協議会</li> <li>西部老人クラブ連合会</li> <li>校区協議会</li> <li>天神児童館</li> <li>西部子どもエンパワーメント支援事業</li> <li>西部センター</li> <li>民生委員</li> <li>スポーツ推進委員</li> </ul>	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b> 本年度も新型コロナへの対応から、感染状況に応じて、実施の判断を行ってきた。その中で、昨年度とは違い、このような状況の中でもどのようにすれば実施できるのか、できる方向を探ることができた。また、児童についても、限られた状況の中で精いっぱい取り組む姿が見られた。		<b>課題</b> 感染症対応・ボランティアの高齢化によって、多くの取組が未再開や継続困難の状況である。その一方で、学力・学習状況調査によると本校の児童の実態は、対話力・目標に向かって進む力は高い傾向にある一方で、新しい発想をする力や自己有用感が低い傾向にあり、取組の方向性についての検討が急務である。このような機会だからこそ、児童の実態について協議会で協議し、学校・地域が共に育てる児童像を設定し、共に育てていくことができるような活動を再構築したい。	
学 校	本年度も新型コロナの影響により多くの事業が実施できず、世代を超えた交流を図ることはできなかった。しかし、学校のホームページや公民館だよりで、学校の取組を地域の方々に発信することに努めた。		
公民館（地域）	コロナ禍であるからできない、やらないではなく、コロナ禍であってもできることを見つけ出し、実践していきたい。事業に協力していただいている方々の高齢化や健康上の理由もある中、新たな人材の発掘をはじめ事業そのものの見直しも必要な時期が来ている。		

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b> （12月総会より） ○児童の状況について共有した ・登校時のあいさつが大変良くなっている ・授業を見ても落ち着いている ・児童館でも落ち着いている ○地域から見た本校の状況について協議した ・通学路の環境が心配である  （2月総会での協議内容：予定） ○学力・学習状況調査、学校評価をもとにした、本校児童の実態分析 ○児童に付けたい力の共有 ○児童に付けたい力の共有に基づいた、取組の再構築	
<b>特徴的な協働活動</b>	
（3年）天神崎学習 天神崎の生き物について現地を観察し、説明を受ける（地域を知る）	（2年）町探検 自分たちに関わりのある場所を訪問し、見学する（地域と繋がる）
（5年）天神崎学習 ナショナルトラストの観点から天神崎について学習し、その大切さを地域に知らせる（地域を知る・地域に広げる）	（3年）交通指導員について 交通指導員の仕事について学習する（地域と繋がる）
<b>出前授業</b> 感染症対策として、実際に現地で学ぶ代わりにゲストティーチャーとして来校いただき、説明を聞いたり体験を行ったりした。（知る）	
<b>学校ホームページの開設</b> 今年度は、感染拡大の状況に応じて、行事については中止、児童のみ、保護者のみ等と、開催の規模に制限を設けた。このようなことから、学校の情報を学校だより、公民館報だけでなく、ホームページを開設し、保護者や地域の方に、いつでも何度でも見ていただけるようにした。	
<b>地域の方の声</b> 10月下旬に、学校に通のはがきが届きました。地域の匿名の方からのお便りでした。学社融合推進協議会でも、朝の見守り活動時のあいさつについて、評価をいただきました。日々の何気ない日常ですが、この日常が地域の方を元気づけることができたと知り、大変うれしく思いました。このような小さなつながりも大切にしていきたい。 “杖つきて 舗道を行けば おはようの 子らの挨拶 コロナ禍飛ばす” 	

学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b>			
<p>芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、児童の健全育成を図る取組を行っている。その内容は、地域と学校が連携したもの、育友会・家庭と学校が連携したもの、公民館と学校が連携したもの、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室などとなり、いずれも話し合いを大切にしながら、学校・地域・家庭・公民館が一体となって進めている。また、「芳養地域人材バンク」を活用することで、地域の教育力を授業に生かしている。「芳養地域人材バンク」とは、芳養公民館と学校が共に募集をしているもので、登録していただいた方には、スクールパートナーとして生活科や国語科、書写、総合的な学習の時間などの授業に参加していただいている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。</li> <li>・保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切に作る心を育てる。</li> <li>・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。</li> <li>・地域の方々や学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。</li> </ul>		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b>		<b>支援者及び支援組織</b>	
<pre> graph TD     A[芳養小学校学社融合推進協議会 (会長1名・副会長1名・委員4名)] --- B[芳養共育コミュニティ本部]     A --- C[芳養人材バンク]     A --- D[公民館]     A --- E[学校]     A --- F[家庭]     A --- G[地域]     </pre>		<p>「芳養共育コミュニティ本部」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳養公民館</li> <li>・芳養地域人材バンク登録者</li> <li>・育友会</li> <li>・地域の方々</li> </ul>	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールパートナーに来ていただくことで、授業やふれあい教室への興味関心が高まっている。また、専門的な指導の機会を得ることができるとともに、地域の方々とのコミュニケーションを学ぶ、よい機会にもなっている。</li> <li>・ふれあい教室の感想文を見ると、スクールパートナーの皆さんへの感謝の言葉がたくさんつづられていた。地域の方々に支えられていることに感謝する心を育てる取組となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止により、ヒマワリの種植え、よもぎだんご作り、おいもの蒸しパン作り、ひじきご飯作り、梅ジュース作りなど、食事や人と密接にかかわる活動は本年度も実施できなかった。今後も状況を見ながら検討を要する。</li> <li>・放課後のふれあい教室では、協力者の高齢化によって、活動を休止しているものも出てきている。公民館と協力しながら、次の人材確保を進めていくことが今後の課題となっている。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業や放課後のふれあい教室の活動に対して、地域の方々に積極的に参加・協力をしていただいている。</li> <li>・地域の方々が、地域の子どもたちを大切に育てていこうという意識を持ってもらうことに繋がっている。</li> <li>・子どもたちや学校の様子を知ることができ、地域の方々の交流も深まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により活動ができていない内容については、スムーズに再開ができるように準備をしておきたい。</li> <li>・学校の授業やふれあい教室における活動に対して、より多くの地域の方々や保護者の方々に協力していただけるよう周知していきたい。</li> </ul>	

<b>今年度の取組内容</b>		
<b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>		
<p>令和3年6月10日（木）午前10時～学社融合推進協議会          令和3年7月8日（木）午後7時30分～芳養共育コミュニティ本部会議が開催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り活動では、月に1回立っているが、声掛けすると返ってくる返事がうれしいなどの意見が出された。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防の観点から、民生委員さんの家庭訪問でも玄関先だけの話になったり、子どもクラブ関係でもスポーツの試合が減るなどの現状が報告された。</li> <li>・子どもクラブからは、夜間照明の修理と体育館の照明の改修工事が終われば、夜間も活動ができると、早期の実現を希望する声も聴かれた。</li> <li>・学校や児童センターや保育所など、子どもに関わる施設では、手洗いやマスクの徹底、毎朝の検温、分散参観日、屋内行事の中止など様々な対策について意見を交換し、コミュニティとしても万全の態勢で臨み、ワクチン接種についても風評被害にならないように気を付けていくことで共通理解できた。</li> <li>・公民館行事やふれあい教室は、地域の皆さんの協力を得ながら、できる活動を進めていきたいということになった。</li> </ul>		
<b>特徴的な協働活動</b>		
<p>令和3年度第1回芳養ふれあい教室 実行委員・講師合同会議が4月12日（月）午後2時から芳養公民館にて行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の開催教室について、昨年同様の5教室（かきかた、花アレンジ、中国語、俳句、読み聞かせ）で、新型コロナウイルスの状況を見て教室を再開していくこととなった。接触が避けられないスポーツや飲食を伴う活動は、新型コロナウイルスの状況が収まるまでは差し控えることになった。</li> <li>・5月から10月のふれあい教室は、参加者の募集はしたものの、結局実施できなかった。11月からは後期の募集をかけて、5教室で実施することができた。</li> </ul>		
<p>・かきかた教室では、スクールパートナーの方に硬筆と毛筆の指導をしていただいた。3年生の書き方でも、毛筆の指導で何度か協力をお願いした。</p>	<p>・婦人会の方々を中心に、ふれあい教室で花アレンジ教室を開催していただいている。毎回趣向を凝らした内容で楽しく花アレンジを学ぶことができた。</p>	<p>・俳句教室では、身近な題材を中心に俳句の指導をしていただいた。市民俳句大会への参加者も多く、ふれあい教室との相乗効果が出ている。</p>
<p>・読み聞かせ教室は、1・2年生に読み聞かせを実施していただいた。参加者は大変楽しみにしており、毎回忘れずに参加していた。</p>	<p>・中国語教室では、2年生以上を対象に中国語を指導していただいた。語学に興味を持っている児童が多く、毎年参加している子どもが多い。</p>	<p>年末には、スクールパートナーの方々やふれあい教室の協力者の皆さんで、開催教室周辺の大掃除をしてくださった。</p>

**学社融合推進協議会活動報告書** 協議会名：大坊小学校学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b>			
<p>本校区は大坊・団栗の2地区からなり、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、喜びと感謝の中に新施設での学校生活がスタートした。同時に「学社融合推進協議会」の3つの専門部会がそれぞれの取組を計画・実践する中で、地域は学校を核としてこれまで以上に深い繋がりができてきている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とし実践的な取組や活動を進めていく。</p> <p>具体的目標                  目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」                  目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」                  目標3：小学校を活用した「地域力の向上」</p>	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大坊小学校育友会</li> <li>・大坊小中学校校区協議会</li> <li>・大坊区</li> <li>・団栗区</li> <li>・地域老人会（白楽会）</li> <li>・両区青年団</li> <li>・大坊女性会</li> </ul>	
学社融合推進協議会親部	学習支援部	<p>目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」                  取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援</p>	
	環境整備部	<p>目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」                  取組の柱 ①環境整備 ②登下校の安全対策</p>	
	地域活性化部	<p>目標3：小学校を活用した「地域力の向上」                  取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放</p>	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
学 校	成果	課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区の学社融合推進協議会において、学校、保護者、地域の三者が一体となって学校運営の目指す方向を協議していったことは大きな成果であった。</li> <li>・授業や学校行事に参画していただける方々が新たに増え、人材活用のネットワークが広がった。</li> <li>・運動会の準備や畑の畝作りに青年団が参加してくれ「何でもします。」という力強い言葉をいただき嬉しかった。</li> <li>・保護者による読み聞かせ会を始めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組を日常的に行っているながら毎年見直し、発展させていくことが大切だと考えている。</li> <li>・その日限りでなく、子どもたちと地域の方との関係が続くような活動やふれあう時間を工夫する。</li> <li>・コロナウイルス感染症でできていない活動を見直して、できることから行っていく。</li> <li>・スムーズな運営のため全職員が専門部会を担当している。計画したことを実行していくために地域の方と連絡をしっかりとっていくことが必要である。</li> <li>・家庭や地域を巻き込んだ読書活動を展開するためにどうしたらいいか協議していきたい。</li> </ul>	
公 民 館 （ 地 域 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動を通して、地域の方々が子どもたちや学校の様子を知ることができた。</li> <li>・地域の各種団体を中心に地域が一体となって子どもたちを育てると意識が高まっている。</li> <li>・学校と地域の交流だけでなく、地域の方々同士の交流も深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組内容を振り返り、多くの地域の方々や保護者の方々が行事や活動に協力をしていただくことができる体制を維持していきたい。</li> <li>・学校と地域が今後も協力し合い、地域や保護者の方々とのつながりをさらに深められるように取り組んでいきたい。</li> </ul>	

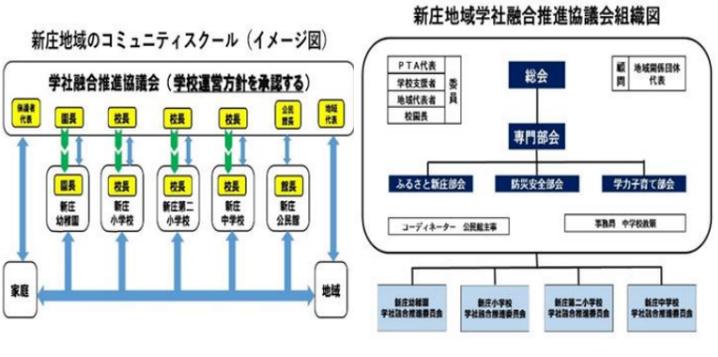
<b>今年度の取組内容</b>		
<b>会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)</b>		
<p>4/14 全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校がともに考え、協力してよりよい大坊・団栗地区にしていきたい。</li> <li>・今年度は、コロナウイルス感染予防に気を付けながら、できることを行っていきたい。</li> <li>・運動会は、コロナウイルス感染症の様子をみて開催の仕方を考える。</li> </ul> <p>5/11 専門部会で今年度の活動計画を立てる。</p> <p>(学習支援部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習の講師について</li> <li>・家での読書を保護者に啓発する。</li> <li>・司書以外にも保護者による読み聞かせ会を企画する。</li> <li>・10/20の会議・・・保護者による読み聞かせの具体化</li> <li>・12/14・・・保護者による読み聞かせ(2名) 「ぎょうざのひ」「クリスマスったらクリスマス」</li> </ul> <p>(環境整備部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習園の整備(5/15)・花いっぱい運動・下校時の安全対策</li> </ul> <p>(地域活性化部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・密にならない人数で、多目的ホールの利用(1月に交流会の予定)</li> </ul>		
<b>特徴的な協働活動</b>		
<p>※「未来の大坊・団栗を守る」～5・6年生ふるさと学習より～</p> <p>大坊・団栗は、梅やミカンを栽培している農家が多い所です。10年ほど前から、イノシシが来るようになりました。5・6年生のお父さんたちが中心になって「次の世代まで、農業と地域を守っていききたい。」という思いをもって、3年前に「ないがしろ団」を結成してイノシシ等の捕獲に取り組んでいます。5・6年生は、お父さんたちから教えて頂いた「ないがしろ団」の活動や地域を守っていかうという思いを学習発表会でみんなに伝えました。</p>		
		
<p>わなの説明と実演</p>		<p>ないがしろ団についての説明・質疑</p>
<p>【学習発表会での児童の発表より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後継者となる僕たち次の世代が当たり前前に農業をできるように、畑を守るためにイノシシなどの害獣の捕獲駆除をしていると聞いて、未来のことを考えて活動している「ないがしろ団」がかっこいいと思いました。ぼくも将来、みかんづくりだけではなく、「ないがしろ団」の活動に参加し、この大坊・団栗でいつまでも農業ができるようにしたいです。</li> </ul>		<p>学習発表会を見に来てくださった「ないがしろ団」のお父さんたちは、「学校に来て話した甲斐があったよ。」とか「泣きそうになったよ。」と感想を聞かせてくれました。</p>
<p>※保護者による読み聞かせ会～学習支援部の取組～</p> <p>本に興味を持ってもらうために話し合っ、読み聞かせ会をしていくことになりました。12月14日(火)に2人の方が1冊ずつ全校児童に読んでくれました。</p>		
<p>【保護者の感想】</p> <p>ハードルが高かった読み聞かせですが、子どもたちに本を読んでもらうと、真剣に耳を傾けて聞いてくれて、私も読んでいるうちにすっかりお話に入り込んでいました。心癒やされる時間を過ごせました。</p>		

学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 稲成地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。この事業に取り組んだことで、地域の学校教育に関する理解や関心が一層高まり、事業終了後も授業支援や各種のボランティア活動にも積極的な支援をしてくれている。			
目 標	学校・園・地域	〈学校の目標〉 ①学習支援ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実させる。 ②図書ボランティア活動を活発にし、児童の読書意欲を喚起するとともに図書室を地域コミュニティの場として活用する。 ③交通安全ボランティアを募り、より安全な登下校指導体制を構築する。 〈地域の目標〉 ①学校教育に関わることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。 ②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。 ③地域別の「共育ミニ集会」に参加することで、地域コミュニティ充実の機会とする。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織	
<p>稲成小学校学社融合推進協議会 ↔ 校長 田辺市教育委員会</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲成校区協議会</li> <li>・稲成公民館運営協力委員会</li> <li>・稲成町内会</li> <li>・むつみ町内会</li> <li>・稲成愛郷会</li> <li>・稲小いわき会</li> <li>・稲成小学校育友会</li> <li>・民生児童委員会</li> </ul>	
育友会 公民館 稲成・むつみ町内会 稲成愛郷会 稲小いわき会		学習支援ボランティア 図書ボランティア 交通安全ボランティア 環境整備ボランティア	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公民館や地域と合同での活動に多くの制限があった。その中で、リスクを回避して取り組める内容を精査しながら行った。また、地域と公民館長さん、主事さんをはじめ、町内会からも協力を得て、児童の教育や安全のため、連携することができた。学校や児童の様子についても理解していただくことができた。また、公民館報に学校の行事を載せていただき、様子を地域の方々に知っていただくことができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいスクールの再開</li> <li>・通学路の安全標識の設置</li> <li>・民生児童委員さんや地域の方との登下校の見守り</li> <li>・クラブ活動への指導や協力</li> <li>・校内持久走記録会</li> <li>・ふるさと学習、社会見学</li> </ul>	・感染症拡大防止のため、行事を実施するかどうかの判断が難しく、協力依頼をしにくい面があった。 ・行事のいくつかを再開することができたが、コミュニティ運動会やふるさと祭りなど大規模な行事を2年間行っておらず、取組を校内で継承することが重要である。 ・校内持久走を稲成地域で行ったことで、地域の方も児童も相互にパワーをいただくことができた。コロナ禍において実施できる内容を工夫しながら、取組を進めなくてはならない。	
公民館（地域）	今年度はコロナ禍の影響もあり、コミュニティ運動会等の大きな行事は中止となった。 5・6年生の総合学習において、地域の方々から稲荷神社や稲成地域の歴史について教えていただき、学習発表会でその成果を発表することができた。	コロナ禍であるからできない、やらないではなく、コロナ禍であってもできることを見つけ出し、地域の活性化に努めていきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
令和3年度 稲成ふれあいスクール事業計画 6月 野球教室 7月 自然観察教室 10月 コロナ禍の防災体験 12月 リース作り 1月 工作教室 2月 ニューススポーツ教室 昨年度は全く実施できず、今年は、計画の段階で内容を厳選して立案した。しかし、今年度も思うように実施できていない状況になった。 協議会では、毛筆教室やICT教室などを開いてはどうかという意見が出た。 地域人材を発掘し、安全面や子どもが楽しめる内容を考えた上での運営を来年度以降積極的に支援していきたい。 また、防災面では、避難所での生活について体験活動を通して学んでいるが、地震が多くなっている昨今、その必要性を強く感じる。あらゆる機会を生かし、地域ぐるみで取組を進めていく必要がある。	
特徴的な協働活動	
5年生の子どもたちは、11月2日（火曜日）の5,6限に稲荷神社にて、稲荷神社のことについて指導を受けた。講師は、稲荷神社総代、稲成町内会長、稲成公民館主事であった。 子どもたちは、学んだことをもとに内容をまとめ、11月末の学習発表会で保護者・6年生の児童に向けてグループごとに発表した。	
5年生の子どもたちの感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲成町の地名が、神社に関わる地名になっていることを初めて知りました。昔は米のとれる量や殿様の城の大きさが強さが分かることも知り、びっくりしました。</li> <li>・神社にお願いすることを、私は「健康でありますように。合格できますように。」と思っていましたが、基本は「食べ物を確保できますように。」と知りました。</li> <li>・南方熊楠が、稲荷神社の自然(森)を守ったことを知り、南方熊楠についてもっと調べて学習発表会で発表しようと思いました。</li> <li>・貴重なお札を見せてもらったり、班で考えた質問に答えてくれたりして、稲荷神社のことを詳しく知ることができました。</li> <li>・稲荷神社でしている祭りは、獅子舞とお田植え祭だと知りました。この2つは、作物がとれた感謝の祭りだと学びました。</li> </ul>	

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、毎年「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら様々な教育活動に取り組んでいるが、昨年から続く新型コロナウイルスの影響で、合同作品展以外の上記行事の開催を見合わせた。現在446名の児童が通学しており、登下校の見守り活動や、地域の「ラジオ体操」など、地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子どもたちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子どもたちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。</p>			
目 標	<p><b>学校・園・地域</b></p> <p>【学校】                  様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して                  ・地域の伝統や文化とその地域に住む人々を大切に、感謝する心を養う。                  ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。                  ・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。</p> <p>【地域】                  ・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<pre>                 graph TD                 A[会津小 学社融合推進協議会] --&gt; B[学 校]                 A --&gt; C[公 民 館]                 B --&gt; D[家 庭]                 C --&gt; E[地 域]                 </pre>		会津小育友会 会津小校区協議会 秋津公民館 万呂公民館 会津スポーツクラブ	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学 校	本来計画をしていた学習ができない中であつたが、「地域学習」では地域を教材とし、地域の歴史や防災について学ぶことができた。これらの学習を通じ、調べ、体験し、発表する力が身につく、課題を追求する力や工夫しながら表現する力を育成することができた。 子どもたちにとっては、地域住人から学ぶことで、ふるさとのおよさや課題に気づき、地域への愛着心を深めることにつながった。	目標に掲げている『様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して』にあたる活動（地域の文化に触れることや高齢者を含む地域の方々との交流等）が、昨年に続きあまりできなかった。従来の取組が来年度にうまく引き継がれるよう、教職員間で情報を共有しながら来年度もできることから取り組んでいきたい。また、地域の人材活用も積極的にすすめていきたい。	
公 民 館 （ 地 域 ）	学校の作品展には地域の方の作品を、公民館の展示会には子どもたちの作品を展示することで、作品の発表を通して互いの刺激になるとともに、地域と学校との交流の機会となった。 また、秋津・万呂の地域の歴史を子どもたちに教えることで、自己への学びを深めるとともに、郷土愛を持ってもらうきっかけづくりとなった。	コロナ禍でも、交流やイベントを行うことはできたものの、例年に比べ機会が減っているため、慣例にとられることなく新たな形を模索しながら、少しずつ再開していきたい。 また、学校が地域に直接アポイントメントを取る場面があり、今後は公民館の人材バンクを元に、公民館がコーディネーターとして機能していけるようにしたい。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>令和3年度会津小学校学社融合推進協議会を令和3年5月28日に開催し、会議の中では主に人材の活用の在り方について協議した。</p> <p>かねてから家庭科のミシンの授業やその他の学校の活動で、地域の方の力を借りることができないかと考えており、公民館が把握している人材を活用させていただくことにした。公民館では地域の方の力を地域で発揮していただく「人材バンク」の設立に取り組み、現在1団体と6名の方に登録をいただいている。</p> <p>今年は感染症予防の観点から、ミシンの授業の手伝いには至らなかったが、人材バンクを設立したことで、今後の活用に展望ももてる。特に万呂地区は人口が多いので地域の人材の発掘に期待ができる。来年度以降も人材バンクの登録者を増やし、地域と連携して多様な人材が指導に携わることができる体制づくりを進め、地域と連携した協働的な学びを進めながら、地域全体で子どもを育む意識の醸成に努めていきたい。</p> <p>また、現在町内会および校区協の組織である「万呂学童見守ろうかい」が、「シニアパトロール」として子どもの登下校の見守り活動を行っているが、メンバーの方の高齢化に伴い負担が増えていることや、なり手不足の解消に向けた取組についても課題となっている。</p>	
特徴的な協働活動	
<p><b>3年 地域学習 ～大すき わたしたちの町～</b></p> <p>公民館主事、地域の方、町内会長をゲストティーチャーに招き、「自分たちのチキをもっと知ろう」をテーマに学んだ。</p> <p>公民館主事からは、児童が興味を持ちやすいように「秋津と万呂ではどっちが人口多い？」「秋津と万呂には橋がいくつある？」など、クイズ形式で学んだ。地域の施設、自然や地理について詳しく知ったことを「万呂・秋津ハンドブック」としてまとめた。</p> <p>町の人口の変遷や地域の信仰の拠所である須佐神社の話から地域の歴史を学び、公民館やシニアパトロールの活動の話から地域の住民のために様々な活動をしてきていることへの知識や理解を深め、感謝の気持ちを育むことができた。</p> <p>この学習を通じ、児童は「もっと町について詳しく知りたい。」「町のことを家族にも知らせたい。」など地域への愛着心を一層深めることができた。</p>	<p>【地域学習の様子】</p>
<p><b>5年 防災学習 ～自分の命は自分で守る～</b></p> <p>地域の方に協力をいただき、水害・土砂災害を想定した防災授業を行った。学校周辺のハザードマップで水害地域を確認したり、洪水や土砂災害のシミュレーション動画を見て災害の恐ろしさを再確認したりすることができた。日頃の備えの確認や、気象情報などで避難のタイミングを図るなど「自分の命は自分で守る」ことの大切さについて学んだ。</p> <p>この学習のあと、町内会の協力を得て、タウンウォッチングをし、いくつかのグループに分かれて校区の危険箇所点検を行い、防災マップづくりに取り組む予定である。</p>	<p>【防災学習の様子】</p>
<p>～児童の感想より～</p> <p>◇私は地しんのおそろしさを自分の思っていた以上に知りました。地しんだけで水害が起きるし、土砂災害も起きて本当に危ないなと思いました。もし地しんが起きたらどうするかを知ったので、冷静に判断することに決めました。</p> <p>◇「自分の命は自分で守る」ことがとても大切だということが分かりました。特に津波の時の「想定にとられるな。」ということを教わり、津波のこわさについて知れて少し安心しました。</p>	

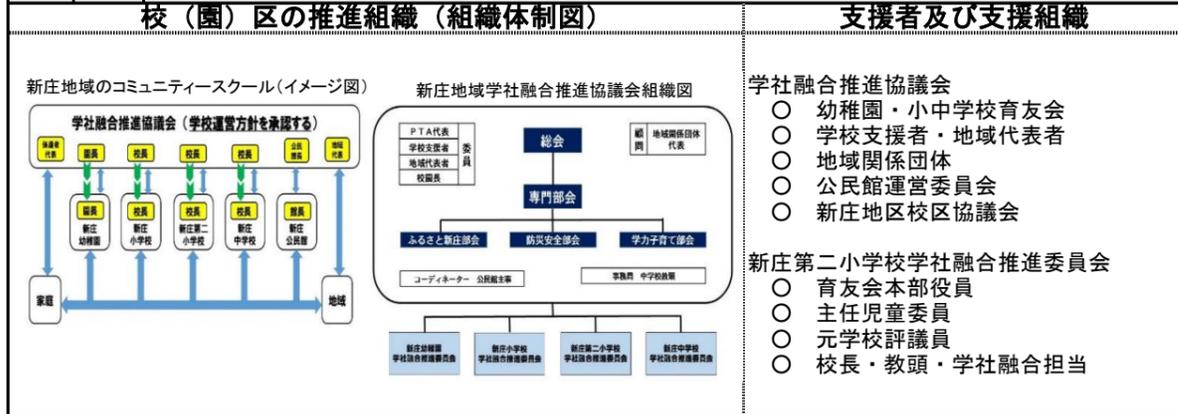
学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めている。			
目 標	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。  本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 		<b>支援者及び支援組織</b> 学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部 ○ その他関係機関  ○ 新庄地区老人会 ○ 真寿会 ○ ふたば福祉会 ○ 南紀のぞみ会 ○ 社会福祉協議会	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校 ・活動形式ではなく、講義形式の内容が中心だったが、地域の方から直接、専門的な技術や知識に触れることができ、子どもたちは学習をより深めることができた。 ・新型コロナウイルス感染予防のため、昨年度実施できなかった活動の中で、今年度いくつか再開させることができた。	学校 ・昨年度に続き、新型コロナウイルス感染予防のため、多くの取組が中止・規模縮小となった。そのため十分な取組ができたとは言いがたい。 ・地域の方々に、学校や子どもたちの様子を知らせてもらう機会が大幅に減っている。	公民館（地域） ・昨年度に引き続き、積極的な活動が難しい1年であったが、いくつかの取組は実施することができた。 ・子どもたちが地域の方から伝統行事や特産品について学ぶことで、地域についての関心を少しは高められた。	公民館（地域） ・学校で行っている学習や、子どもたちに教えたことを把握し、地域から適した人材を紹介できるようなネットワークを構築していく必要がある。

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
学社融合推進協議会では、各園、学校の取組について承認していただき、今年度のメンバーで、「ふるさと新庄部会」「防災安全部会」「学力子育て部会」に分かれ、活動計画等を立てた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いつも通り活動を実施することが難しかったが、状況を見ながら各学校や幼稚園が学社融合推進協議会のメンバーに行事等の案内を出し、可能な範囲で子どもたちの様子を見てもらい、課題の共有を図った。今年度は、各学校の研究授業や講師招聘研などにも参加していただき、児童だけでなく、教師の力量アップにも関わっていただいた。地域の方々と共に行う授業や行事についても、お祭りに関することや地域の産業に関わること、また災害に関する事など実施することができた。教育講演会では、保護者の子育てに関わる講演会を行うことができ、日頃の悩みなどについて考えたり、振り返ったりすることができた。このように、新庄地域の各園・校の取組について共有し、交流することを大切にしてきた。	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<b>「森林学習」（5年生・2学期）</b> 森を中心とした自然環境の価値や魅力を体感するために、2日間にわたって学習をし、未来のふるさとの姿について考えた。 1日目は、校内で「森林の公的機能を学ぶ」をテーマに学習した。今と昔で変わった山や川などの自然環境や、昔の山と人との関係などについて学んだ。 2日目は、午前中に中辺路町近露で植林を体験した。山にくわで穴を開け、ウバメガシの苗を1人5本ずつ植えた。午後からは、地域の製材所を見学したり、木工体験をしたりした。	
	
<b>「農業体験」</b> ○梅収穫体験（5年生・1学期） ○みかん収穫体験（4年生・2学期）  地域の農業の様子や働く人の気持ちを知るために、地域の方の梅畑やみかん畑で、収穫体験を行った。収穫した梅やみかんは、全校児童に配り、各家庭へ持ち帰った。味を楽しむのはもちろん、和歌山県を代表する特産物である梅・みかんに触れるよい機会となった。	
	

学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
-------	-------------	------	-------

**学社融合における学校・地域の様子**  
 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校、家庭、地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」を進めている。各園・学校単位でも学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとに特色ある学校づくりを進めている。

目 標	<b>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則</b> 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。
	<b>新庄第二小学校教育目標</b> 自ら学び、人に優しく自分にきびしく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。



**成果と課題（学校・公民館からの視点）**

<b>成果</b> ①公民館や関係機関と連携・協働し、地域人材を活用することにより、学校単独では実現が難しい活動を実施することができた。 ②学社融合推進協議会委員の方々に教職員の研修に参加、または参観してもらうを通して、学校の現状や喫緊の教育諸課題を理解してもらうことができた。 ③専門的な知識や技術をもっている地域の方をゲストティーチャーとして招聘し教えていただくことで、地域の歴史や自然についての理解が深まり、ふるさとのよさを再発見することができた。	<b>課題</b> ①学校教育側のメリットは十分考えられた取組になっているが、社会教育側にもメリットがもたられよう、公民館との連携を密にとり、学習計画を協働しながら立てる必要がある。 ②学校と保護者、地域住民が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」という目標やビジョンを共有する機会を設定する必要がある。 ③学校単位で設置している学社融合推進委員会を効果的に活用し、学校の特色を生かしたカリキュラムを開発・実践していけるようにする。
<b>学校</b> ①昨年に引き続き、様々な活動が制限された中であつたが、感染対策等に工夫をすることで、昨年以上に学校と連携した活動を行うことができた。 ②地域の方が授業や学校行事に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。 ③学校が求める地域人材を派遣することができた。	①学校で行っている学習や子どもたちに教えることをよりの確に把握し、地域から適した人材を紹介できるネットワークを構築していく。また、地域として子どもたちにどういったことを伝えていきたいのか、住民の話をよく聞き把握していく必要がある。 ②学校と地域のそれぞれの活動をお互いに知り、共通の目標に向けてできることを考えていく。
<b>公民館（地域）</b>	①学校で行っている学習や子どもたちに教えることをよりの確に把握し、地域から適した人材を紹介できるネットワークを構築していく。また、地域として子どもたちにどういったことを伝えていきたいのか、住民の話をよく聞き把握していく必要がある。 ②学校と地域のそれぞれの活動をお互いに知り、共通の目標に向けてできることを考えていく。

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

**\* 学力子育て部会**  
 協議①内容：前年度、コロナ禍のため中止した教育講演会の実施について  
 取組：教育講演会  
 演題：心の発達と子育てについて  
 講師：上野 晃先生（スクールカウンセラー）  
 協議②内容：各校での研修日程を共有し、本協議会委員も研修に参加・参観できるようにすることについて

**\* ふるさと新庄部会**  
 協議内容：総合学習の調べ学習における公民館や新庄地区の各種団体との連携について  
 取組：特徴的な協働活動の欄に記載

**\* 防災安全部会**  
 協議内容：消防新庄分団・田辺市消防本部と防災参観日・新二まつりにおける防災体験の実施について



学社融合推進協議会委員が参加したオープンセミナー型の研修

**特徴的な協働活動**

**\* 取組：新二まつり**  
 「出会い・ふれあい・深め合い」をテーマに、二部構成（前半：学習発表、後半：地域人材を講師とした親子体験活動）で半日開催。実行委員長は育友会長が務め、育友会本部役員が運営に参画した。前半の学習発表は、体育館で実施。感染症対策として、保護者の参画も得て、分散会場（教室・パブリックビューイング会場）にオンライン配信しながら実施した。  
 後半の親子体験は、2年ぶりに地域の方を講師として招き、10体験、10会場に分かれ、子供と保護者が一緒にそれぞれの体験活動を行った。



保護者の参画（オンライン配信）

- 10体験 ①ぎおんさん夜見世作品 ②におい袋 ③茶道体験  
 ④写真立て ⑤ちぎり絵 ⑥体験！美術館 ⑦生け花体験  
 ⑧竹トンボ、紙トンボ ⑨クリスマスリース ⑩防災教室



公民館と連携した外部人材活用 地域から親子で学ぶ体験活動



パブリックビューイング会場

**\* 取組：総合的な学習の時間 「地域の魅力！再発見」**

6年生では、国の天然記念物の「神島」について学習した。学習は3つのステージ（第1ステージ：情報収集、情報の整理・分類、第2ステージ：魅力追究、第3ステージ：魅力発信）で構成した。夏休みに行った身近な人へのインタビュー調査（第1ステージ）を皮切りに、調べ学習や神島への上陸など（第2ステージ）を通して学習を進めた。上陸した神島では、浜辺に漂着したゴミ拾いにも取り組んだ。回収したゴミは、72.5 kgに及び、子どもたちは神島が直面している問題を肌で感じる事ができた。学習途中で出てきた疑問点は、ゲストティーチャーを迎え、詳しく教えていただくことで学びを深めていった。第2ステージ途中で、地域の人たちを対象にアンケート調査を行ったことで、神島の認知度や地域の方々の神島への思いを知ることができ、「神島の素晴らしさと現状」を多くの人に知ってもらいたいという思いが高まり、第3ステージへと向かった。  
 学習成果は、リーフレット、『ふるさとの宝 保全宣言』、DVD等にまとめ、公民館と連携・協働し地域に向けて発信する予定である。



神島に上陸し、現地学習



浜辺に漂着したゴミ拾い活動

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人の繋がりが難しくなっている。子どもたちは、温厚で誠実な性格の子が多い。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子どもは地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。			
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。</li> <li>・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。</li> <li>・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。</li> <li>・子どもと地域への愛着、地域貢献の心を育む。</li> <li>・地域住民が、子どもたちとのふれあいから子どもたちの様子を知り、教育活動への関心を高める。</li> </ul>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
会長（公民館長）	副会長（町内会長）	委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三栖公民館文化委員</li> <li>・クラブ活動外部講師</li> <li>・交通安全指導員</li> <li>・交通安全協会</li> <li>・衣笠中学校</li> <li>・三栖幼稚園</li> <li>・保護者</li> </ul>
		事務局	
		委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係者</li> <li>・保護者</li> <li>・校園長</li> </ul>
		事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館主事</li> <li>・小学校教頭</li> <li>・小学校学社融合担当職員</li> </ul>
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として取組を中止するのではなく、実施形態を変更しながらも予定通り行うことができた。</li> <li>・史跡巡りでは、公民館の文化委員の方々から説明を聞くことで、三栖風土記には載っていないエピソードなど詳細について知ることができた。また、地域の歴史、文化を知ること、地域への愛着や誇りを持つことができた。</li> <li>・クラブ活動では、専門的な知識等にふれ、学習を深めることができた。</li> <li>・幼稚園との年賀状交流や公民館ロビー展など、感染症の拡大状況に関わらず連携をとることができる方法を見出すことができた。</li> <li>・公民館ロビー展や公民館前掲示板の装飾は、地域の方から好評の声をいただいている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動では、外部講師が欠席の場合でも教員が指導にあたるように指導内容を共有しておく必要がある。</li> <li>・史跡巡りで学習した内容を学校内外の多くの人に伝えていく方法を検討していきたい。</li> <li>・中学校との連携を更に図っていきたい。</li> <li>・地域とのつながりを広げることで、多方面との協働体制を整えていきたい。</li> <li>・学校側が地域や保護者に助けていただくことが多いため、地域貢献につながる取組を増やしていきたい。</li> </ul>	
公 民 館（地 域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡めぐりを通して、三栖地域の良さを改めて確認でき、子どもたちと地域の方々との世代間交流ができた。</li> <li>・三栖公民館のロビーにおいて月替わりでロビー展を開催したことや、公民館前の掲示板に、小学校の掲示委員の子どもたちに装飾してもらったことで、日常的に地域の方々に児童の作品を見もらう機会を提供することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業に協力いただいている人材の高齢化が進んでおり、担い手が減少しているため、地域人材の発掘、育成が必要である。</li> <li>・学校・地域行事だけでなく、人とのふれあいを構築できる機会を作り、地域のつながりを深めていきたい。</li> </ul>	

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>		
1. <u>キャリア教育について</u> 「将来の夢について具体的に考えさせてやってほしい」という意見を受けて、6年生でのキャリア教育では、職業調べを通して児童が興味を持った校区内の企業見学や校区内外の様々な職種の方に話を聞く機会を設けた。（釣り具メーカー、食品メーカー、フラワーショップ、助産師、保育士 等） 2. <u>開かれた学校づくりを目指して</u> ・参観日や学校開放週間以外にも、調理実習やミシン指導等での協力依頼を通して日頃から保護者が学校に来られるようにしていく。 ・町内会の役員や民生委員、児童養護施設等、地域団体関係者の方々にも学校や児童の様子を見ていただく機会を設定し、協働体制を整えていく。 3. <u>新しい時代を切り拓くために</u> ・ICTを効果的に活用していく。 ・変化する社会を念頭においた指導をしていく。 4. <u>その他</u> ・学校側が地域や保護者に助けていただくことが多いため、互いに有益な取組を更に見出していく必要がある。		
 学社融合推進委員の授業参観	 外部講師のお話（キャリア教育）	
<b>特徴的な協働活動</b>		
◎三栖の史跡巡り 6年生10月29日（下三栖方面 八上王子まで） 5年生11月19日（上三栖方面 長尾坂まで） 公民館文化委員の皆さんに語り部をしていただきながら、三栖の史跡を巡った。途中、様々な史跡に立ち寄り、詳しく説明していただいた。 事後学習では、5年生は学習したことを新聞としてまとめ、6年生は1人1台タブレット端末でパワーポイントを作成し、5年生に向けて発表を行った。 【児童の感想】 ・今まで知らなかった三栖の歴史や史跡を知ることができてよかった。 ・もっと知りたいと思ったので来年も楽しみだ。（5年生） ・長い道のりで疲れたけど、価値のあるものだったと思う。みんなにも行ってもらいたい。 ・三栖のすごさを家族や地域など、たくさんの人に伝えていきたいと思った。 ・文化委員さんの活動について知ることができたし、交流ができてよかった。 等		
 史跡巡りの様子	 史跡巡り新聞(5年)	 発表の様子(6年)
◎公民館ロビー展、公民館前掲示板装飾 今年度より、公民館ロビーに常設パネルを設置し、幼稚園・小学校・中学校・公民館サークルが月替わりで作品を展示している。また、公民館前の掲示板の装飾を本校の掲示委員会が担当している。 【地域の声】 ・季節に合った掲示板の装飾をいつも楽しみにしている ・子どもたちの作品を見る機会を作ってもらえてありがたい ・公民館に足を運ぶ回数が増えた 等 【児童の感想】 ・地域の方々に喜んでもらえてうれしい ・たくさんの人に作品を見てもらえるのがいい ・作品づくりを今までよりもっとがんばろうと思うようになった 等		
 公民館ロビー展	 公民館前掲示板	

学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家が多い。地域の方々は協力的で、いつも児童を温かく見守ってくれている。公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得て、児童は地域の自然、産業、歴史や伝統文化等を学び、地域の良さについて知ることができる。コロナ禍の中、行事や活動がやや縮小されているが、例年は学校行事にも地域から多く参加いただくことで地域の方々同士の交流する機会にもなっている。			
目 標	<b>地域と共にある学校づくり</b> ～学校・家庭・地域のみんなで自立・共生・健康をめざして～  学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		学社融合推進協議会 ○ 小学校育友会 ○ 長野公民館 ○ 長野町内会 ○ 長野校区協議会 ○ 長野郷明会 ○ 地域関係団体 その他関係機関 ○ J A 紀南長野店 ○ 光福寺 ○ 不動寺 ○ 各区老人会 ○ 長野・伏菟野地域の方々	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成 果		課 題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中ではあったが、校内整備作業や運動会では町内会の方々にご協力いただいた。また学習発表会には、地域の方にもお越しいただき、児童の頑張りを見ていただいた。児童は、地域の方々にも温かく見守られていることを実感することができた。</li> <li>・今年度のほたる学習は、ホタルについて基礎的なことを学んだ。郷明会の方々の地域を愛する気持ちに触れることにより、児童は地域への関心を持ち、自然豊かな地域の良さについて学ぶ機会を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの感染状況を見ながらではあるが、地域学習や体験活動の範囲を広げ、児童の目がより地域に向くよう進めていきたい。</li> <li>・地域から学び続けることで意欲関心を醸成し、地域についての学びを、学年の進行とともにさらに深めさせたい。</li> <li>・地域について学ぶだけではなく、地域に住む一員としてできることを児童なりに考えさせ、行動・発信できるように進めたい。</li> </ul>	
公 民 館（地 域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内ハイキングでは、子どもたちと共に伏菟野地区を歩き、話を聞くことで、地域の魅力を肌で感じる事ができた。</li> <li>・運動会や授業参観などを通して、児童の様子を知ることができた。</li> <li>・また、学社融合推進協議会の中で、地域の課題や、保護者目線での子どもたちに対する不安な点を話し合うことで、委員同士のふれあいの場になっていると実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校へ通う児童がいない地区（伏菟野など）の方にも、学校に興味・関心を持ってもらうために、子どもたちと定期的に交流できるような行事を実施していく必要があるように感じられた。</li> <li>・事業に協力いただいている地域住民の高齢化が進んでいることから、新たな人材の発掘・育成が必要である。</li> </ul>	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<b>【通学路の安全について】</b> ○ 棚田地からの通学路が狭くてカーブが多いため危険であるということで、様々な意見をいただいた。 ・ 児童が歩いているのを自動車から気付いてもらいやすいように、登下校とも谷側（ガードレール側）を歩く方がいい。 ・ 側溝に蓋を被せてもらう。カラー塗装する。 →翌日、児童に登下校の仕方を指導。下校の様子も確認。側溝の蓋やカラー塗装については、町内会からも行政に働きかけをしてきている。	
<b>【学校の環境整備について】</b> ○ ここ数年、剪定作業を中心に行っているが、大がかりな作業は暑い時期に行うのは大変という意見があり、協議いただいた。 →夏に行っていた整備作業を、夏と冬の2回に分ける。 夏は草刈りを中心に、冬は樹木の剪定を（今年度は運動場南側の樹木を中心に）行う。	
特徴的な協働活動	
<b>【ほたる学習】</b> 例年、長野郷明会の協力で取り組んでいる。今年度は、ホタルについて基礎的なことを全校で学んだ。	
<b>①ホタルについての学習（11月9日）</b> ひかりの館で、ホタルの一生や特徴について教えていただいた。建物内にある写真等の資料を見せていただきながら学習をした。また、用意していただいた幼虫を一人ひとり観察した。最後に、その幼虫をひかりの館川（ひかりの館の横に作られているごく小さな川）に放流した。どの学年の児童にとっても新しく知ったことや驚きがあり、ホタルに対する興味・関心が高まった。また、地域の方々の地域を大切に思う心に触れるよい機会となった。	
<児童の感想> ・幼虫は、カワニナを溶かして食べるなんてすごい。 ・幼虫が思ったより大きくて、見つけやすかった。 ・幼虫は、写真で見るとよりかわいかった。 ・オスがプロポーズするって面白い。 ・ホタルを大切にしていきたいと思った。	
<b>②カワニナボール作り（12月9日）</b> ホタルの幼虫はカワニナを食べ、大きくなっていく。そのカワニナを増やす活動として、餌となるカワニナボールを作った。当日は郷明会会長や公民館長等、数名の方がお越しくださり、児童の活動を見守ってくださった。カワニナを食べることを想像しながら作ることができた。	
<児童の感想> ・こねるのが楽しかった。 ・がんばって作ったので、カワニナが食べて、ホタルの幼虫が栄養を蓄えてほしい。 ・グループで協力しながら作れた。リーダーとしてがんばった。 ・カワニナのためにがんばった。増えてほしい。	
後日、「来年の夏に、ホタルがたくさん飛びますように。」と願いを込めて、カワニナボールをひかりの館川に入れた。ほんの少しではあるが、ホタルを増やす活動に携わることができた。	
<児童の感想> ・「おいしく食べてね。」と思って入れた。 ・カワニナが増えて、ホタルが元気に育ってほしい。 ・1びきでも多く、ホタルの幼虫が生き残ってほしい。 ・来年、ほたる祭りができたらホタルをいっぱい見てみたい。 ・これからも、長野のホタルを大事にしたい。	

学校・園名	田辺市立上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで本校では、長年にわたり、地域の方々の協力を得て、体験学習に取り組んできた。平成30年度までは「共育コミュニティ」の研究指定校として、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。一昨年度からは幼稚園、小・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。			
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切に育てる。</li> <li>・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。</li> <li>・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。</li> </ul>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		農業体験学習支援委員会 （JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、西牟婁振興局農業水産振興課、育友会） ・上秋津町内会	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験学習を通して、地域で働く方々の努力や工夫を直に知り、上秋津のよさについて考えるよい機会となった。</li> <li>・地域に親しみをもち、自分たちの住む地域の文化や仕事についてより詳しく知ることができた。</li> <li>・教師も上秋津の文化活動にふれることにより、絵画等の指導のヒントになった。</li> <li>・教師だけでは教えることのできない専門的な知識や経験を、地域の方から直接教わることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーの方と担任が、細やかな点まで打ち合わせをする必要がある。</li> <li>・農業体験学習は、繁忙期に体験させていただくことが多いため、事前指導や打ち合わせを十分に行い、体験時間を有効活用する必要がある。</li> <li>・事前学習や、事前準備に時間がかかる学習があり、植物を育成するための土作り等の時間をどう捻出するかが課題となっている。</li> <li>・絵画や写真等地域の文化を提供して下さる方が、固定化しつつある。公民館と連携しながら、新たな地域の文化活動を発掘していきたい。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験学習では、地域の地場産業である梅や柑橘の収穫体験を子どもたちに学ばせることができた。</li> <li>・上秋津の良さを改めて再確認でき、大人も子どももふるさとを誇りに思えるような取組とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅や柑橘の収穫体験の時期は、繁忙期であるため、小学校と連携してお互い負担のないよう取組を継続していく必要がある。</li> <li>・学校の担当者が変わったときも、公民館を通して各種団体と連携を取れるようにしておく。また、新たな人材があれば、広く紹介していけるようにしたい。</li> </ul>	

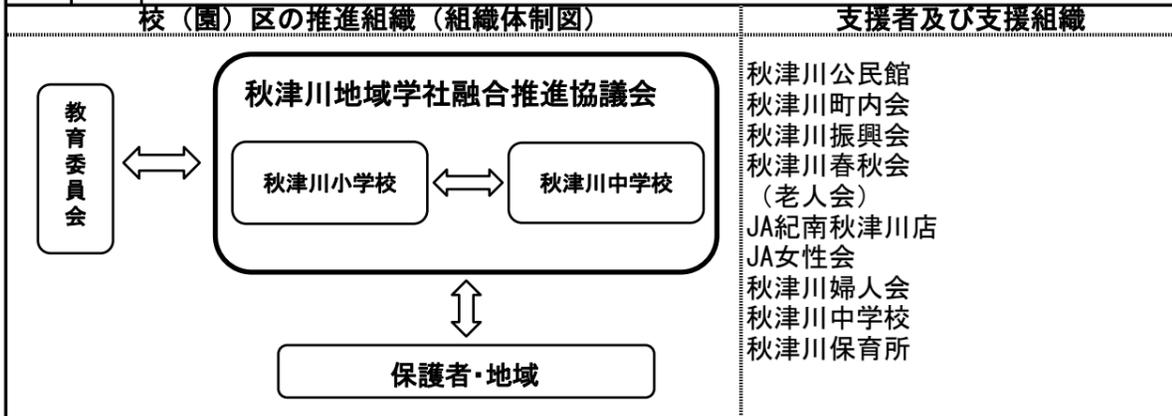
<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
年度当初の連絡協議会では、今年度の実施計画や役員紹介、前年度の取組の成果と課題等について話し合った。本校では、長年にわたり農業体験学習を実践し、地域と学校が連携した活動が行われてきている。今年度はコロナウイルスの感染状況を見ながら、可能な限り地域の方々との交流を進めようと、マスクの着用、活動前後の消毒、ソーシャルディスタンスの保持等を徹底しながら、農業体験学習等の交流を行うという方向性を決めた。 また、前年度までの課題として、学習内容によっては、学校が直接農家さんや園主さんにゲストティーチャーを依頼したり収穫の日程調整を行ったりしていたことにより、組織間での連絡に齟齬が生じていることがあった。そこで、今年度はすべての依頼を公民館を通して行い、窓口を一本化することを共通理解した。 さらに、毎年、運動会では地域の方と一緒に上秋津地域の伝統である「たかお音頭」を踊っている。しかし、昨年度から運動会が縮小したり、5月開催になったりしたことで2年間子どもたちが「たかお音頭」を踊る機会が無くなっている。そこで、今年度は、伝統を引き継いでいけるよう運動会実施後ではあるが、ゲストティーチャーを招いて「たかお音頭」を教えていただく機会を確保することを決めた。 これらの他にも、今年度から公民館主催で地域の作品展を開催することが決まった。芸術作品を通して、幼児からお年寄りまで世代を超えた交流を図る取組である。9月の「防災の日」の週には、日曜参観日を設定し、保護者や地域、消防団などの協力を得て、地域で防災について学んだり備えたりする機会にすることも決定した。	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<b>①農業体験学習</b> 1～3年生は、野菜や花の栽培体験を学校園で行っている。4年生は、地域の方の田んぼをお借りして米作り体験を行っている。5・6年生は、年間を通して上秋津の農業の中心となっているみかん・梅の学習を行っている。 どの学年においても、農家の方々の努力や工夫を知り、収穫の喜びを味わうことを通して、自分たちの住むふるさと上秋津を誇りに思える心を育てる取組を行っている。	
3年生花植え	5年生みかん収穫
4年生稲刈り	6年生梅取り
<b>②身近な地域の文化に接する</b> 「和歌山の妖怪展」や「ピンボケクラブ写真展」、校内絵画作品展と共に「ひまわり絵画サークル作品展」を開催することによって、子どもたちに地域の方々の文化的な活動を鑑賞する機会を設けている。出品していただいたお礼として、作品を鑑賞した子どもたちの感想を届けることで、作者との交流がより深まるようにしている。	
和歌山の妖怪展	ピンボケクラブ写真展
ひまわりサークル絵画展	

学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

本校は年々児童数が減少し、本年度は12名が在籍している。地域の方々は協力的で子どもたちと関わる事を楽しみにしてくださり学校行事には積極的に参加して下さっている。公民館や秋津川振興会等の諸団体、地域の方々の協力を得る事で地域の産業や伝統文化等を学び、地域の良さを知り、地域を大切に作る心が育っている。また、秋津川中学校とは、児童・生徒及び職員との交流もあり、避難訓練をはじめ中学生が小学生の学習をサポートするピアサポート等様々な行事・活動で小中連携を図っている。保育所との連携も行い、年長児との交流や保育所職員の授業参観の機会を持つなどの交流を深めている。

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切に作る心を育てる。</li> <li>・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・子どもたちに地域の方達との交流の中で、伝統文化等の様々な知識を教えていただき地域への愛郷心を養う。</li> <li>・子どもたちと接する機会の少ない地域の方達に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただき、地域の活性化を図る。</li> </ul>
-----	---



成果と課題（学校・公民館からの視点）

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため秋津川町内における多くの行事が中止となった。そのような状況ではあるが学校と地域の連携を保つため、感染拡大防止に細心の注意を払い運動会に代わる体育参観日、秋小発表会等の行事を行うことができた。</li> <li>・秋津川振興会との、窯出し体験・備長炭学習・ウバメガシの森づくりなど連携に努めた。</li> <li>・小・中学校・保育所との連携については、感染拡大防止に細心の注意を払いながら例年通りに進めることができた。（クリスマス会への参加・保育所職員の授業参観・ピアサポート・小中交流会など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に、学社融合推進協議会の活動を更に知っていただけるような活動や手立てを考え実行していきたい。</li> <li>・地域の一員であることの自覚と誇りを持ち、地域の後継者として活躍できるように促していきたい。</li> <li>・学校の取組や活動を地域の方に知っていただく機会を増やし、学校の活動に協力していただける方を募っていきたい。</li> <li>・来年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら行事に地域の方が参加出来る方法を考えたい。</li> </ul>
公 民 館（地 域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、地域行事の多くは中止となってしまった。そのため、地域の方と交流する機会は少なくなりましたが、実施可能な取組については、感染対策を行った上で、継続して行うことができた。</li> <li>・体育参観日や秋小発表会を通して、地域の文化や産業に触れることができ、地域に興味を持つきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動が再開した際に、地域と子どもたちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に地域と学校が連携できる体制を持続していく。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響や高齢化により、例年通りの取組の継続が難しくなることが予想される。そのため、新しい人材の発掘や、取組の内容等を地域の実情に合わせて変更し、今後も無理なく継続していけるように努めていく。</li> </ul>

今年度の取組内容  
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

今年度の取組内容  
第1回学社融合推進協議会は、5月に実施予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため紙上開催となった。内容は以下の通りである。

- <議事>
1. 令和3年度スクールプランについて
  2. 令和3年度年間計画案について
  3. 令和3年度会計予算案について

学社融合推進協議会会員12名全員に、令和3年度学社融合推進協議会の議事について、承認書の提出により承認をいただいた。（今年度は秋津川公民館・振興会主催の行事は全て中止となった。）

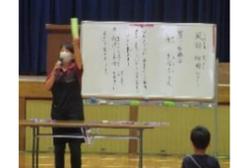
特徴的な協働活動

○6月22日（火）に、保育所・小学校・中学校合同で地震想定避難訓練を行いました。今年度は田辺消防署の職員から避難についての心得について聞いたり、消火訓練を行ったりしました。11月1日には小中合同不審者対応訓練も実施しました。



・消火器で上手に火を消せました。初めてでちょっとむずかしかったです。  
・中学生になったら、私も保育所の子どもを安全に避難させたいと思います。

○8月18日（水）に、「世界農業遺産」PRで秋津川振興会の原氏の指導の下、備長炭風鈴作りを行いました。風鈴に吊す短冊もかきました。田辺駅構内に吊し、田辺駅を利用される方々に炭琴の音色を聞いていただきました。



・秋津川振興会の原さんに教えていただき、備長炭の風鈴作りをしました。短冊に「田辺へいらっしやいませ。」と書きました。備長炭の音を聞いて欲しいです。

○11月8日（月）に、秋津川小学校5・6年生と中学生で秋津川校区内の地域清掃を行いました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、春秋会の皆様と実施することは叶いませんでした。持続可能な取組として来年度は是非春秋会の皆様と実施できることを願っています。



・地域清掃をして、秋津川には結構ごみがあったんだなあと思いました。ペットボトルや空き缶、たばこの吸いがらがたくさん落ちていたのは意外でした。これからは自分自身がゴミ捨てをしないようにして秋津川をきれいに保っていききたいと思います。

○10月4日（月）に、赤松公民館長に秋津川音頭を教えていただきました。体育参観日に保護者の皆さんと踊ることができました。27日には、地域に伝わる「おるり音頭」を教えていただきました。11月12日の秋小発表会では谷口さんと北山さんに太鼓と歌をお願いして3～6年生が披露しました。秋津川中学校の生徒全員がお昼休憩に「おるり音頭」を教えてくれました。



・秋小発表会で、「おるり音頭」をおどりました。太鼓と音頭をうたってもらいました。教えていただいたので上手に踊れました。

学校・園名	田辺市立上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。公民館は子ども対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。			
目 標	学校	○地域の自然や人とのかかわりを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていきこうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。	
	地域（公民館）	○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子どもたちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子どもたちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。	
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
上芳養学社融合推進協議会 委員15人 （学校関係者、各種団体代表及び学識経験者） 事務局4人（上芳養小・中、公民館）		校区協議会 育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生	
小学校、中学校及び育友会 各種団体・地域住民等			
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
学 校	<b>成果</b> ・できる範囲で地域の方から学ぶ機会を設定することで、学校の教育活動を知っていただくことができた。 ・地域の方は、非常に協力的で、年間計画に位置づけながら、系統的に梅学習をはじめ地域から学ぶことができた。また、地域の方から書や絵画の寄贈をいただき、落ち着いた校内環境の中で豊かな学びの時間を過ごすことができています。 ・学習状況に合わせてゲストティーチャーを依頼することができた。	<b>課題</b> ・コロナ禍のなか、参観日、運動会等で地域の方に案内を出すことができず、限られた参加体制であったことから、今後、方法も探りながら、実施できるようにしたい。 ・地域や社会に貢献できる人材育成の視点から、公民館をはじめ地域の各種団体とより連携を深める必要がある。 ・ゲストティーチャーの活用方法を工夫し、子どもたちがより主体的に学べるようにしていきたい。	
	<b>公民館（地域）</b> ・様々な学習場面で地域の方を講師にお招きすることで、上芳養の産業、歴史、伝統などを学ぶ貴重な機会を設けることができた。これらは子どもたちと地域の方々の世代間交流にもつながっている。 ・自分たちが住む地域について学習することで、地域の魅力を知り、郷土愛を深めることができた。 ・各種事業において、子どもたち、地域の方々、教職員の方々、公民館が連携・協働して取組を行うことができた。	・コロナ禍であったため、学校との連携事業が一部実施することができなかった。コロナ禍を原因にこれまで行ってきた行事が衰退することのないよう、参加・協力してくれる方の確保に力を入れて取り組んでいく必要がある。 ・今後も子どもたちと地域の方々がより交流を深めることができるよう、創意工夫を加えながら事業運営に取り組んでいく。	

**今年度の取組内容**  
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ◆第1回定例会 新型コロナウイルス感染症の影響により文書決裁
  - ・上芳養小・中学校学校経営方針
  - ・事業計画書・収支予算書
- ◆第2回定例会 令和3年7月19日(月)
  - ・上芳養小学校…梅学習を中心とした取組の紹介
  - ・上芳養中学校…梅アピール大作戦等取組の紹介
  - ・今後の活動について…小学校…ジビエ学習の予定について  
中学校…地域を中心とした職場体験について
  - ・学校の畑や通学路へのサルの出没状況について対策を相談した。人的被害の有無や、対応方法について教えていただいた。
  - ・今後の運動会開催時期についてご意見をいただいた。
- ◆第3回定例会 令和4年2月開催予定
  - ・活動のまとめと次年度の取組について
  - ・学校評価について

**特徴的な協働活動**

**6年**      ～上芳養の未来がよりよくあるために～



地元のシェフ 更井亮介さんを講師に迎え、ジビエについての学習および調理実習を催しました。ジビエについての理解を深めることはもちろん、「いただきます」「ごちそうさま」の意味、シェフになったきっかけが図書室の1冊の本であったことなどを聞かせてもらい、学習を深めることができました。

6年生の保護者や、学社融合推進協議会の方にも参観していただきました。

この後は、学んだことや考えたことについて学習発表会で披露する予定です。

【児童の感想より】◆ジビエのお肉はとてもおいしかったです。命をむだにしないというのが心に残りました。◆初めてジビエ料理を食べたけどおいしくて、ジビエには未来があると思いました。

**4年**      ～上芳養の名人から学ぼう～

上芳養にはどんな名人がいるの？

↓

3グループに分かれ、6か所へ訪問！

こんなこと質問したいな！！

聞いてきたことを交流しよう！

こんなにたくさん作っているんだよ

みんなに伝えよう！

- ・折り紙名人
- ・手芸名人
- ・しめ縄づくり名人
- ・魚さばき名人
- ・和菓子作り名人
- ・ジビエをおいしくする名人

地域の名人のどの方も快く引き受けていただき、地域との関わりが広がると共に、学校の取組も知っていただける機会となりました。

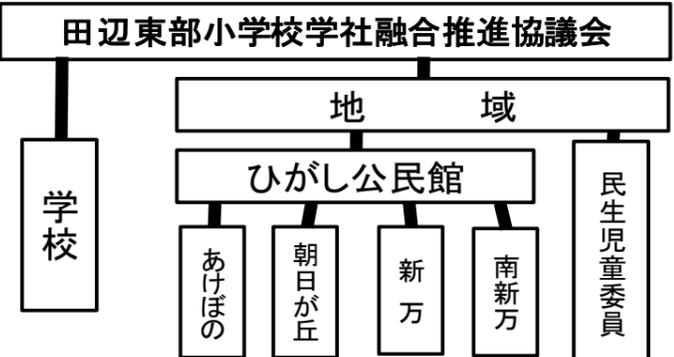
【児童の感想より】◆（しめ縄づくり名人）すごいと思ったことは、1年間に1万個ぐらい作っているということです。きれいにできていて、しかもはやくできていてさすがだと思いました。

体験もさせてもらったよ。

名人になるには「好き」という気持ちが大切なんだね。

学校・園名	田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校は、田辺市街地周辺の梅・柑橘類の栽培を主とする農村地帯にある。児童は明るく、上級生が下級生の世話を進んで行き、地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子どもたちを見守ろうとする優しい雰囲気の中で教育活動を行っている。平成28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子どもの育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切に、学校と公民館が連携しながら地域の教育資源を活かした教育活動の充実に努めている。			
目 標	学校・園・地域 ・子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		支援者及び支援組織 ・中芳養公民館 ・中芳養幼稚園 ・中芳養中学校 ・JA紀南芳養谷支所 ・中芳養町内会 ・中芳養地区老人会 ・中芳養地区消防団 ・中芳養小学校PTA ・地域の農家 ・地域の寺院・神社	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	・新型コロナの影響で中止した行事はあったものの、感染対策をしつつ、可能な限り地域と連携した学習活動をすすめることができた。 ・自然、歴史、人、文化等の地域の教育資源を活用した学習によって、児童は教科書では学べないことを学び、ふるさとの良さを知り、愛郷心を持つことができた。 ・子どもたちは、調査、体験、資料の整理、発表等の活動を通して、課題を探求する力や表現力、仲間と協力する態度等を身に付けることができた。	・従来の活動を継承しつつ、さらに充実した活動になるように、内容やカリキュラムの工夫や見直しをしていくことが大切である。 ・ゲストティーチャーとして協力してもらえる人材を公民館と協力して探していく必要がある。 ・活動や体験だけにならないように、つけたい力を明確にして学習を展開していくことが大切である。 ・学社融合の取組をより多くの人に知ってもらうため、今後も授業参観や学校便り等での情報発信に取り組んでいきたい。	
公民館（地域）	・様々な事業を通して子どもたち同士の交流を深めることができた。 ・子どもたちと地域の方々との世代間交流の場をつくることができた。 ・教職員の方々や連携することで、学校と地域を融合した事業を行うことができた。 ・子どもたちの学習の成果を地域に発表する場をもつことで、地域で子どもたちを育てていくという意識が高まった。	・子どもたちと地域の方々のつながりをより深めることができるよう、創意工夫を加えて今後も取組を行っていききたい。 ・学校や公民館の取組に積極的に参加していただける地域の方々をより増やしていきたい。	

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>		
【各学校・幼稚園の取組や授業参観から】昔に比べて子どもの数が減っているが、今までの学習を大切にしつつ、児童・生徒主体の授業や行事の工夫、ICT等の新しい取組も進めていることが分かった。 【地域での学習について】各校園でそれぞれ取り組んでいるが、お互いの学習内容を共有することで、さらに系統性のある効果的な学習ができるのではないかと。 【災害の際の避難場所や避難訓練について】幼・小・中それぞれに、様々な災害の種類や状況を想定して訓練し、適切な避難行動ができるようにしたい。		
<b>特徴的な協働活動</b>		
中芳養合同作品展 12月11日・12日 2年ぶりの開催となったが、幼稚園、小学校、中学校の作品や地域住民の皆さんの作品が多数展示され、大勢の人が来場した。各校・園の取組を知ってもらおうよい機会となり、文化芸術を通じて地域の絆を深めることにつながっている。		
年間を通したふるさと学習 コロナ禍の中ではあったが、感染対策を取りつつ、多くの方の協力をいただきながら取組をすすめることができた。自然豊かな地域性を生かした体験活動や地域の人との関わりによって、豊かな学びが展開できている。		
梅学習	写生会	山羊の放牧
JA芳養谷支所と地元の農家の協力を得て、収穫や梅干し作り等に取り組んだ。	地域にある神社や寺院に出かけ、伝統的な建物を題材に絵画制作に取り組んだ。	秋に一定期間地域に放牧される山羊と触れあう体験をした。
季節みつけ	防災学習	町たんけん
季節ごとに違う草花や生き物の様子について地域の人と観察し、自然への関心を高めた。	校区内を実地調査し、防災マップを作成した。完成したマップは地域の作	地域にあるお店や事業所などを訪問して仕事の様子や工夫について学んだ。

学校・園名	田辺市立田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 平成7年に「ひがしコミュニティセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組の充実を図ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、「ひがしふれあい秋祭り」「東部っ子を育てる会」は昨年度に続いて本年度も実施を見送ることになった。それでも、「ひがしふれあい秋祭り」の代替イベントを実施したり、地域からゲストティーチャーを招いての語り部学習に取り組んだり、感染状況に応じて可能な活動を行うことができた。来年度も地域・学校を取り巻く状況を総合的にとらえて判断しながら、本会の本来の目的がより高い水準で達成されるよう取組を進めていきたい。			
目 標	学校・園・地域 ○地域の方々を持つ知識や技能を活用し、専門的・体験的な学習を展開することで、子どもたちの学ぶ力・生きる力を育む。 ○学校と地域が協働的な活動に取り組むことで、地域の魅力・課題への認識を深め、子どもも大人も地域の一員であるという自覚を高める。 ○様々な交流やふれあいを通して、地域の方々子どもたち、また地域の方々どうし・子どもたちどうしが望ましい人間関係を築く。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 		<b>支援者及び支援組織</b> ◎ひがし公民館 ◎ひがし秋祭り実行委員会 ◎花つぼみ会 ◎読み聞かせサークル ◎地域にお住まいの方々	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校 ○新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続き実施の見送りや変更・縮小の判断をしたものもあったが、感染症対策をとりながらできる限りの取組を進めることができた。 ○地域の方々や活動するなかで、校内の職員による指導だけでは実現できない学びを体験させることができた。 ○昨年度は「6年生語り部活動」で情報発信の場を設定できなかったが、本年度は対象を保護者にして発表会を行うことができた。	○新型コロナウイルスの感染状況は今後も見通しが不透明であるため、変化する状況に応じて弾力的に取組を進めていく必要がある。 ○「東部っ子を育てる会」や「ひがしふれあい秋祭り」は、2年続けての中止となった。来年度実施できるとすれば3年ぶりとなるので、踏襲することと変更することを整理しながら計画・準備を進める必要がある。 ○それぞれの活動が児童にとってより主体的なものとなるよう、目的意識や課題意識の持たせ方を工夫したい。		
公民館（地域） ○今年度、初めての取組として七夕行事を行った。短冊を通して、子どもたちの願いを地域住民が知る機会となった。 ○「6年生語り部活動」で、子どもたちに地域の歴史や施設、住民の願い等を伝えることに喜びを感じている。自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。 ○昨年度に引き続き、ひがしふれあい秋祭りの代替イベントとして、6年生への舞台発表やクイズ大会など、公民館と学校との交流ができた。	○今後も、公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切であるが、新しい生活様式の中で、取り組み方について検討していかなければならない。		

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
○新型コロナウイルスの感染状況に対応しながらの取組は大変だと思うが、運動会や修学旅行をはじめ大きな学校行事を実施することができてよかった。 ○本校の特徴的な取組である「朝のチャレンジマラソン」については、新型コロナウイルス感染症への対策をとりつつ、継続して行ってほしい。 ○児童の登下校を含めた交通安全の確保は、この地域の課題のひとつ。学校外の個人や団体にも協力いただけるように呼びかけていきたい。 ○学社融合推進協議会の委員として授業を参観し、子どもたちが落ち着いて、また、楽しそうに学習している様子が見られて嬉しく感じている。職員の日頃の尽力に感謝したい。 ○1人1台の学習用タブレットを子どもたちが使用している姿を見て、時代の移り変わりを実感した。 ○毎月12日を「オールとうぶ読書の日」として取り組むこと、毎日学校で読書の時間を確保することなどを全校的に継続しているが、読書活動をより一層充実させるためには司書教諭の配置が望まれる。	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<b>○6年生語り部学習</b> 11月9日（火）、6年生は4名のゲストティーチャーを迎え、あけぼの・新万・南新万・朝日ヶ丘・橋谷の歴史などについて教えていただいた。その後、地区別グループでプレゼン形式にまとめ、11月21日の日曜参観日に保護者に向けて「田辺東部の誇り～持続可能な未来へ」と題して語り部発表をした。児童からは、「『あけぼの』の由来を教えてもらって、いい名前だと思った。」「自分の地区の昔にはあまり興味がなかったけど、興味が出てきた。」などの感想が聞かれた。ゲストティーチャーからは「集中して聞いてもらえてよかった。」という声が聞かれた。	
<b>○ひがしふれあい秋祭りの代替イベント</b> 恒例の「ひがしふれあい秋祭り」は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて中止としたが、その代替イベントを11月30日（火）に体育館で行った。腹話術サークル「笑腹会」による舞台と、ひがし公民館主事の司会によるクイズ大会の2部構成で、対象となった6年生児童は大いに楽しんだ。近隣の公民館からも主事が駆けつけ、運営に協力してくれていた。児童からは、「クイズは難しい問題もあったが、チームで協力して2位になれてうれしかった。腹話術もおもしろかった。」「たくさんの人たちが準備に関わってくださったことに感謝している。」などの感想が聞かれた。	
<b>○花の苗植え</b> 11月25日（木）、「花つぼみ」の方々に指導を受けながら、3年生児童が花の苗植えを行った。保護者も参加し、国道42号線沿いの花壇にパンジーやキンセンカなど約200本を植えた。また、学校に戻ってから、それぞれが選んだ花苗を自分の鉢に植えた。児童からは「あんなパイパス沿いのところに花を植えている人がいると知って、すごいと思った。」「車で通っている人からもきれいに見えるように植えられてよかった。」などの感想が、保護者からは「小さな命を大切に作る体験から、優しい心が育ってほしい。」という感想が聞かれた。	

学校・園名	田辺市立龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することで龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。 保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>本校における学社融合の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことで児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。</li> <li>・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。</li> </ul>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>龍神小学校学社融合推進協議会 会長一副会長一委員(6名)</p> <p>公民館    PTA    行政局    教育事務所</p>		<p>田辺市役所 龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市立龍神小学校動産委員会 田辺市龍神公民館龍神分館 田辺市教育委員会 龍神教育事務所</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成 果		課 題	
学 校	<p>・昨年度の反省を活かし、地域の方と一緒にできることを精選しながら行事を行った。例年行ってきたものを形を変え、実施することができた。</p> <p>・地域の方々に子どもたちの様子を見ていただいたり、ご指導いただいたりすることができた。</p> <p>・行事にご参加いただいた方には喜んでいただける機会となった。また、子どもたちはそれを励みに学習に取り組むことができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況によって柔軟に対応できるよう、さらに取組を工夫する必要がある。</p> <p>本年度地域の方々に参加していただけなかった行事についても、次年度は見直しや工夫を行い、参加していただけるようにしたい。</p>	
公 民 館 (地 域)	<p>・活動を通して、子どもたちと地域の方々のふれあいの場となった。ご高齢の方にとって「子どもたちの頑張る姿を見ることや声を聞くことで、元気をもらえた」という喜びの声も聞かれた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の状況を見極めて、積極的に地域の方々の力を借り、機会を捉えながら行えるように計画を立てて実行していきたい。</p>	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の経営方針に関する事項について、本年度重点的に取り組んでいくことを中心に学校長が説明を行った。</li> <li>・教育課程編成に関する事項について、コロナ対策をしながら編成をしていることを学校長が説明した。</li> <li>・運営に関する年間計画について話し合い、防災デイキャンプ、運動会や学習発表会で協力していくこととなった。</li> </ul> <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災デイキャンプについて振り返った。自衛隊を講師に迎えて体験できて、よかったという意見が出た。</li> <li>・今後の計画について確認をし、運動会や学習発表会での協力体制を確認した。</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
<p>・防災デイキャンプ（6月） 自衛隊の方を講師に招き、保護者・地域の方と一緒に、ロープワーク体験、土嚢づくり体験、保存食体験、スリッパづくり体験をした。</p> 	 <p>・敬老の日の手紙（9月） 保護者の協力を得て、近所に住まわれている高齢者を事前に把握し、子どもたちが心を込めて書いた手紙を郵送した。</p> <p>【手紙を書き、封筒に入れる様子】</p>
<p>・運動会（10月3日） 校報を通じて地域の方に参加を呼びかけた。昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策をお願いし、応援をしたりじゃんけん大会などの種目に参加したりしていただいた。</p>  <p>【敬老種目の様子】</p>	<p>・学習発表会（11月30日） 校報を通じて地域の方に参観を呼びかけた。本年度も新型コロナウイルス感染症防止に留意し合奏や学習発表を行った。最後には、全校で龍神太鼓を披露した。</p> <p>【龍神太鼓演奏の様子】</p> 
<p>・花の苗の育成 地域の方にプレゼント（7月・11月） 3・4年生が花の苗を育てた。7月には、その苗を地域の方のお宅を訪問して届けた。また、保護者の協力を得て、プランターを夏休みに持ち帰った。11月には、学習発表会に訪れた保護者や地域の方にプレゼントとして苗を用意し、持って帰っていただいた。</p> 	

学校・園名	田辺市立上山路小学校	公民館名	龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館						
学社融合における学校・地域の様子									
<p>本校は、殿原小学校、東小学校、宮代小学校が統合して13年目を迎えた。その間、3地域の願いや想いを大切にしながら学校運営を行ってきた。平成26年には、田辺市学社融合の研究発表大会も行った。地域の方々は、何事にも協力的である。</p>									
目 標	学校・園・地域	<p>学校地域連絡協議会会則 上山路小学校と学区民が連携を図り、地域全体で児童の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。</p> <p>本校における学社融合の目標 ・「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域の連携を強化し、子どもたちの健全育成を進める。</p>							
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹生ノ川区、殿原区</li> <li>・上宮代区、下宮代区</li> <li>・東区、西区</li> <li>・丹生ノ川果無クラブ</li> <li>・殿原老人クラブ</li> <li>・ピンコロ会</li> <li>・上宮代ふれあいクラブ</li> <li>・せいじゅ学級</li> <li>・あけぼの学級</li> <li>・殿原婦人会</li> <li>・宮代婦人会</li> <li>・東西婦人会</li> </ul>							
<p>成果と課題（学校・公民館からの視点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p><b>学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、できる限り学校行事等、地域の方に協力いただきながら、実施することができた。</li> <li>・地域の方との交流は、子どもたちだけでなく、地域の方にも喜んでいただける機会となった。</li> <li>・地域の方に教えていただくことで、理解が深まり、意欲が高まった。</li> <li>・地域の自然や歴史、文化を知り、地域を大切にしようとする気持ちが芽生えた。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の願いを大切にし、学校、家庭、地域の連携をさらに深めていきたい。</li> <li>・地域の一員として、地域に貢献していくという気持ちや態度を育てていきたい。</li> <li>・コロナ禍において、事業が制約される中でも、連携が継続していけるよう、内容の精選、工夫改善をする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td> <p><b>公民館（地域）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事・取組への参加が交流の場となり、学校を中心としたコミュニティが形成されている。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学社融合の取組を進めるには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。しかし、人材の高齢化が進んでいるため、新たな人材の確保が必要である。</li> <li>・学区が広域（3地区）のため、学区民に地域の学校として身近に感じてもらえるように工夫して取組を行うことが求められている。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>				成果	課題	<p><b>学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、できる限り学校行事等、地域の方に協力いただきながら、実施することができた。</li> <li>・地域の方との交流は、子どもたちだけでなく、地域の方にも喜んでいただける機会となった。</li> <li>・地域の方に教えていただくことで、理解が深まり、意欲が高まった。</li> <li>・地域の自然や歴史、文化を知り、地域を大切にしようとする気持ちが芽生えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の願いを大切にし、学校、家庭、地域の連携をさらに深めていきたい。</li> <li>・地域の一員として、地域に貢献していくという気持ちや態度を育てていきたい。</li> <li>・コロナ禍において、事業が制約される中でも、連携が継続していけるよう、内容の精選、工夫改善をする。</li> </ul>	<p><b>公民館（地域）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事・取組への参加が交流の場となり、学校を中心としたコミュニティが形成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学社融合の取組を進めるには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。しかし、人材の高齢化が進んでいるため、新たな人材の確保が必要である。</li> <li>・学区が広域（3地区）のため、学区民に地域の学校として身近に感じてもらえるように工夫して取組を行うことが求められている。</li> </ul>
成果	課題								
<p><b>学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、できる限り学校行事等、地域の方に協力いただきながら、実施することができた。</li> <li>・地域の方との交流は、子どもたちだけでなく、地域の方にも喜んでいただける機会となった。</li> <li>・地域の方に教えていただくことで、理解が深まり、意欲が高まった。</li> <li>・地域の自然や歴史、文化を知り、地域を大切にしようとする気持ちが芽生えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の願いを大切にし、学校、家庭、地域の連携をさらに深めていきたい。</li> <li>・地域の一員として、地域に貢献していくという気持ちや態度を育てていきたい。</li> <li>・コロナ禍において、事業が制約される中でも、連携が継続していけるよう、内容の精選、工夫改善をする。</li> </ul>								
<p><b>公民館（地域）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事・取組への参加が交流の場となり、学校を中心としたコミュニティが形成されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や学社融合の取組を進めるには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。しかし、人材の高齢化が進んでいるため、新たな人材の確保が必要である。</li> <li>・学区が広域（3地区）のため、学区民に地域の学校として身近に感じてもらえるように工夫して取組を行うことが求められている。</li> </ul>								

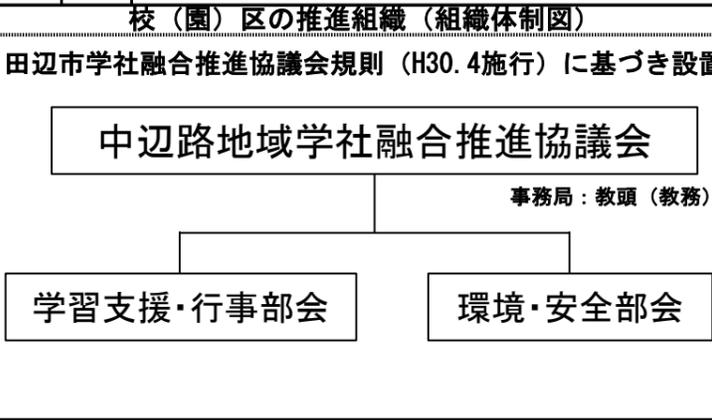
<p>今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</p>	
<p><b>【新たな地域の人材・文化財等について】</b> 学習発表会での鼓笛の曲目について、ご意見が出された。職員会議で話し合い、子どもも大人も知っている、馴染みのある曲に変更した。学習発表会の演奏では、「地域の皆さんを元気にしてくれる、素晴らしい演奏だった。新しい取組が、コロナ禍を乗り越える力になったように感じた。」という感想をいただいた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方との交流や、訪問等実施できなかった事業があったため、それらに代わる事業について協議した。地域の方で、西洋パンプキンを作られている方がおられ、パンプキンを使っての行事ができないかと提案いただいた。10月にパンプキン6個をいただき、外国の文化を理解することを目的として「ハロウィン集会」を行った。それぞれの学級で顔を描いたパンプキンを飾ったり、重量当てクイズをしたりした。学校を訪れた地域の方は、大きなパンプキンに驚いていた。</p> <p><b>【電磁波について】</b> Wi-Fiからの電磁波が人体に影響を与えることが心配だというご意見が出された。教育委員会の考えとして、極めて低い周波数で安全であることを説明させていただいた。</p>	
<p>特徴的な協働活動</p>	
<p><b>【花植え】 1学期：1・2・4年生 2学期：5・6年生</b></p> <p>地域のゲストティーチャーを迎え、1学期は、1・2・4年生が、2学期は5・6年生が、花植えを行った。種をまいて苗になるまで、水やりや草引きなどをしながら大切に育て、育った苗を学校の花壇や、プランターに植え替えた。プランターは、地域にある3つの郵便局に届けた。地域の方との交流を通して、植物を大切に育てる気持ちを学んだ。</p>	
  	
<p><b>【串柿作り体験】 11月18日 4年生</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、4年生が地域の方に教わりながら、串柿作りの体験を行った。地域の方の畑で、「はず」を使って渋柿とり体験を行った後、地域の方と一緒に、渋柿の皮をむいたり、串に刺したりした。いつまでも「にこにこ（2個2個）仲むつまじく（6個）」いられるようにという願いを込めて、1つの串に10個の渋柿を刺して作った。地域の方とのふれ合いを通して、伝統や文化を学んだ。</p>	
  	

学校・園名	田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館・中山路分館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校では平成11年より龍人学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かした実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。保護者および地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を推進しながら、学校が持つ役割や責任を自覚し、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を相互補完型から協働機能型へとその発展を目指してきたが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、十分な取組ができていないのが現状である。			
目 標	学校・園・地域 ・学校・保護者・地域の連携を密にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。 ・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
保育園・中学校・公民館・福祉施設 中山路小学校学社融合推進協議会【体育部会・文化部会】 （会長・副会長・委員・事務局） 保護者・地域住民		・中山路小学校PTA ・龍神公民館中山路分館 ・3地区 ・2地区シルバー会 ・柳瀬保育園 ・龍神中学校 ・龍トピア・龍の里 ・龍神教育事務所 ・学識経験者	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成 果		課 題	
学 校	・交流学習会では、地域や保護者の方々と楽しく取り組むことができた。 ・児童は自然と地域の方々に溶け込むことができ、コミュニケーション力を高め、発揮することができた。 ・「せんだんフェスティバル」では、子どもたちは3つのグループに分かれ「せんだんの木」についての思いを表現することができた。 ・本年度も、計画段階から主体的に参加していただけるように学社融合推進協議会に文化部・体育部の2つの組織を作った。	・交流学習会については、学校のほかの行事との関連から、実施する時期について考える必要がある。 ・学校への来校や行事参加について、新型コロナウイルス感染症対策を考えながら、地域や保護者に呼びかけたので、広く伝えることは難しかった。 ・児童につけたい力・目的を明確にし、地域講師と綿密な打ち合わせをしながら活動していく必要がある。 ・これからも魅力のある地域の教材や人材を発掘していく。	
公 民 館（地 域）	・地域について学ぶことで、地域の良さに気づくことができた。 ・交流学習会は例年より規模縮小であったが、保護者・地域の方のコミュニケーションの場となった。 ・保護者や地域の方が子供と向き合って共に活動したり、地域教材で学んだ学習の成果発表を聞いたりすることで、地域の良さを再発見する機会となった。	・地域に対しての愛着や関心を持ち、地域の一員としての自覚を促す必要がある。 ・学社融合の取組では、学校と地域のつながりを大切にし、地域を活性化する必要がある。 ・地域人材の高齢化が進んでおり、新たな人材の発掘と育成が必要である。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会） <b>【第1回中山路小学校学社融合推進協議会】</b>	
<b>【議事】</b> ①本会について ②役員選出 ③令和3年度中山路小学校の経営計画について ④令和3年度の学社融合計画について ⑤地域での児童の実態について ⑥その他	
・大阪では、新型コロナウイルス感染症対策として外での活動中にマスクをしていて、小学校5年生の子が亡くなるという事件があった。外での激しい活動でもマスクをする必要があるのか？状況をよく考える必要がある。何かあると、簡単にSNSなどで批判されることがある。学校でもその点に気をつけて対応していく必要がある。 ・龍神は大きな道は、車のスピードが速いし、裏の細い道は、歩行者が見えにくかったり、道の舗装が乱れていたりして危なくなっている。特に溝の蓋が取れていたり、穴が開いたりしているところについては、行政にお願いしていく。 ・田舎でも、不審者等には気を付けていかなければならないが、きしゅう君の家だけでなく、どの家にも逃げていいということも大切である。しかし、最近は空き家が増えてきていて、そっちの方も気を付けたいといけなくなっている。	
特徴的な協働活動	
参加者：全校児童・保護者、地域の方々 日 時：令和3年 6月 21日（月） 14：25～15：35 場 所：中山路小学校 運動場 ねらい：せんだんへの思いを地域の方々に発表することで、学校・地域への気持ちを育てるとともに表現する力を養う。	 <p>（児童の感想より） 僕はけん玉が楽しかったです。いっぱい入れる練習をしたからです。これからも1回でのせられるように、もっと練習をします。</p>
低学年参加者：1, 2年生児童・保護者、地域の方々 日 時：令和3年 11月 19日（金） 13：00～13：45 場 所：中山路小学校 体育館 ねらい：保護者や地域の方々と一緒に楽しく昔の遊び（こま・おはじき・めんこ・お手玉・けん玉・かるたなど）を体験し、ふれあうことで人とのつながりをもつことができる。	【交流学習会】 ★昔の遊びを楽しもう。 深瀬トキ子さんに教えてもらいながら、楽しくグラウンドゴルフができました。友達のお母さんがホールインワンをしてびっくりしました。
中学年参加者：3, 4年生児童・保護者、地域の方々 日 時：令和3年 11月 19日（金） 14：00～14：45 場 所：中山路小学校 運動場 ねらい：保護者や地域の方々とスポーツを通して親睦を深め、コミュニケーション能力の育成を図ることができる。	【交流学習会】 ★グラウンドゴルフを楽しもう。 去年より楽譜が難しくなっていて心配だったけど、深瀬さんが丁寧に教えてくれたおかげで、上手に発表することができました。
高学年参加者：5, 6年生児童・保護者、地域の方々 日 時：令和3年 11月 19日（金） 15：00～15：45 場 所：中山路小学校 体育館 ねらい：三味線の演奏練習を通して、日本の文化的音楽である和楽器に親しむことができる。交流を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。	【交流学習会】 ★和楽器に挑戦！
	

学校・園名	田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 地域は学校や教育に対する関心が強く、ほとんどの家庭がPTA準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にもたくさんの地域の方々が参加してくれている。本校では創立時より各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進協議会が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。例年であれば、地域の祭りに児童も参加し、事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加すると共に、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなどの協力をしている。地域ぐるみで子どもを育てようとする土壌がある。			
目 標	学校・園・地域 ○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境作りに寄与する。 ○咲楽小学校の教育発展のために広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。 ○学校を開き、地域住民と連携を図っていく中で、学校教育方針の周知に努める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
咲楽小学校 ⇔ 学社融合推進協議会 ・会長・副会長・委員（学校長含む） ⇕ 学校地域連携推進協議会 ・老人会（4地区）・区長会（4地区） ・女性会（福井、甲斐ノ川） ・公民館（2分館、福寿学級） ・咲楽小PTA（会長、副会長）等		・咲楽小PTA ・校区会（4地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b> ・昔の遊び、苗植え等、地域の方々の支援を必要とする学習や活動を通して、学社融合の大切さを再認識した。 ・大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知ってもらうことができた。地域との一体感が得られた。 ・今年度は、感染症の予防をしながらの取組であったが、ほぼ例年と変わらない取組ができた。		<b>課題</b> ・学校開放週間中の行事は、可能な限り同日開催を増やす。 ・やはり公開授業を参観してくださる方が少ない。 授業を観てくださる方を増やす工夫をする必要がある。 ・高齢者が多いので、取組や参加態勢について工夫をする必要がある。	
学校 公民館（地域）	・教えたり共に活動したりすることが大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域が繋がる良い機会にもなっている。 ・学社融合推進協議会や学校地域連携推進協議会が積極的に活動してくれるので、地域との繋がりが安定したものになってきている。 ・今年度は、感染症の予防をしながらの取組であったが、ほぼ予定した活動を行うことができた。		

<b>今年度の取組内容</b> 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会） 学社融合推進協議会・学校地域連携推進協議会 第1回 学社融合推進協議会 議案（1）委員の選任（2）当年度の学校運営の基本方針の説明 教育目標・経営目標・教育課程など （3）学校・地域課題の決定（4）課題を検討する各専門部会の決定 リーダーの決定、委員の選出など 学校地域連携推進協議会 第1回学校地域連携推進協議会 （1）第1回学社融合推進協議会の共有（2）当年度の取組内容や具体的事項などの協議 （3）各部会での活動内容や計画の検討 第1回専門部会 具体的な活動計画 ○安全対策部会 取組…登校指導、下校指導、防災頭巾、通学路危険箇所確認 ○行事運営部会 取組…運動会参加の呼びかけ（バザー等の運営）、ゲストティーチャーや地域人材の紹介（シンボランティア、クラブ活動の指導）、各行事への参加呼びかけ、共有ミニ集会の開催 ○環境整備部会 取組…夏の整備作業の参加、運動会前の運動場整備、花壇の整備、秋の落ち葉清掃、遊具の点検、図書室ボランティア 第2回専門部会 次年度へ向けて（活動の振り返り、成果と課題） 第2回学社融合推進協議会 （1）学校運営の基本方針に係る取組報告（活動状況報告書の作成） （2）各専門部会からの取組報告（活動状況報告書の作成） （3）次年度に向けての意見交換（4）本部会議からの報告事項
<b>特徴的な協働活動</b> ◇11月8日～12日「学校に行こう」（学校開放週間） 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！（学校開放週間）」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけ、多数の保護者や地域住民の参加があった。 ①収穫祭 9日(火) 全校で育てたさつまいもを収穫し、当日、学級毎に準備をし、炭火に入れて焼き芋にした。芋が焼けるまでの間、5・6年生が中心となりレクレーションを行った。また、お世話になった地域の方にも食べていただいた。例年は、お餅を作り、保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝うが、今年は感染症予防のため内容を変更しての取組であった。 ②給食試食会 10日(水) 事前に希望者を募り、普段児童が食べている給食を試食し担当者と意見交流を行った。感染症対策として、それぞれ距離を十分取れる場所を会場とした。参加者は、例年とほぼ同じような人数であった。 ③公開授業 10日(水) 各学級で国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽、道徳等の授業を公開し保護者や地域の方々に参観していただいた。保護者の参観が少ないのが例年の課題であり、今年は、2年の保護者の参観が例年に比べて増したが、全体的に保護者の参観が少なく今後の取組の課題である。 ④花の苗植え 11日(木) 地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。地域の老人会の皆さんにお願いし、毎年参加していただいている。皆さんは、学校に来るこのような機会を大変楽しみにしてくれている。進んで作業に取り組み、楽しみながら児童と交流する姿を毎年観ることができる行事の一つでもある。 ⑤木工教室 12日(金) 3～6年生児童の活動。講師を招き、小さく切った板に、落ち葉や気に入ったデザインを描き、焼きペンを使って焼き目を付けていった。学校の周りや身近にある木材について教えていただく「森の学習」も行った。保護者や地域の方々も参加して児童と一緒に学習したり作業等を行ったりした。学校から見える所で育っていた木の葉や枝について教えていただき、児童はより興味深く学習をすることができた。 ⑥昔の遊び体験 12日(金) 1～2年生児童の活動。地域の方（後藤昇さん）を講師として招き、竹とんぼの製作と遊び方（使い方）について教えていただいた。 ◇学社融合推進協議会・学校地域連携推進協議会・咲楽小学校が中心となって企画及び活動を行った主な行事 ①通学路危険箇所確認 8月末日 安全対策部会（学校地域連携推進協議会）による、通学路における危険箇所の確認作業。 ②福井公民館で行っている絵画教室の作品の入れ替え作業を行った。学校の玄関ホールに展示している。新しい作品ができあがると、その都度展示の入れ替えをしてくれている。

学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域の方々や保護者に見守られて子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。地域の方々を訪れていただける行事を計画して子供たちが頑張っている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出むいて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に様々な協力をいただきながら、取組を進めている。</p>			
目 標	<p>子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化している。教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>田辺市学社融合推進協議会規則（H30.4施行）に基づき設置</p> <div style="text-align: center;">  </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館</li> <li>・ 町内会</li> <li>・ 老人会</li> <li>・ 社会福祉協議会</li> <li>・ 読み聞かせサークル ひまわり</li> <li>・ 田辺市消防団中辺路支団</li> <li>・ 岩見淳三（プロギタリスト）</li> <li>・ 下校見守り隊</li> <li>・ JA女性会</li> <li>・ 校区内在住の方々</li> </ul>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、実施を見送ったり内容の変更や規模の縮小をしたりしたものもあったが、感染症対策を講じたうえで、取組を進めることができた。</li> <li>・ 地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは教えられないことを学ばせることができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏期休業中に予定していた育友会奉仕作業については、新型コロナウイルスの感染拡大で、中止せざるを得なかった。できなかった校内整備を、その後の期間で補っていく必要が生じた。</li> <li>・ 運動会、学習発表会などについては、感染症対策を講じたうえで規模を縮小して実施した。来年度以降の実施については、状況に応じた見直しを行っていききたい。できれば、地域の方々にも来校して子供たちの様子を参観していただきたい。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中止や変更を余儀なくされたものもあったが、学校と連携をとりながら、また、工夫を凝らしながら取組を進めてこられた。</li> <li>・ 学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。また、子供たちに地域のよさを知ってもらうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度以降の取組については、新型コロナウイルス感染症の状況を見守りながら総合的な判断のもとで実施形態を考えていききたい。</li> <li>・ 地域の支援者の高齢化が進み、今後も様々な事業を継続させるためには、新たな支援者の発掘が必要である。</li> </ul>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中辺路小中連携の奉仕作業を計画した。従来、夏季休業中にPTA奉仕作業として活動していたが、家庭数の減少により人手が足りなくなってきた。また、小中に児童・生徒がいる家庭にとっては、複数の日程で作業に参加するのは負担であると思われる。そこで、学社融合推進協議会として、学校・保護者の負担軽減を考え、小中連携奉仕作業を行うこととした。学社融合推進委員が、町内会や老人会、消防団などに声をかけ、人員を集める。当日は、小学校、中学校で作業進捗の連絡を取り合い、お互いに応援に駆け付ける。必要な道具や機材は、事前に学校と学社融合推進協議会で準備するなど話し合った。（奉仕作業に向けて、準備を進めていたが、新型コロナウイルスの急激な拡大により、直前で奉仕作業は中止となった。）</li> <li>・ ゲストティーチャーや登下校の見守り活動など、地域の方々にはとてもお世話になっている。今後も、子供たちのためにできることがあれば、学社融合推進協議会として積極的にサポートしていきたい。</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
<h3 style="text-align: center;">「中辺路子ども環境探偵団」の取組</h3> <p>この活動は、未来を担う中辺路の子供たちが、郷土の素晴らしい自然に親しみ、自然を愛し、自然を考える活動を展開する中で、自然環境を守る心を育み、自然保護活動実践の大切さや地域の文化を学び、その活動の中で自然と人間が共に生きていくことの大切さに自ら気づくことをねらいとしている。この活動には、南方熊楠顕彰館会員や自然林復活活動を展開している「いちいがしの会」の会員、語り部熊野古道中辺路の方々などの指導のもと、すばらしい活動を展開することができた。参加した子供たちは、中辺路の自然に親しみ、郷土のすばらしさを実感するとともに、この自然や文化を大切にしたいという気持ちを持つことができたようである。</p>	
<p>◇活動Ⅰ「本宮町皆地での生物観察」 5月30日 中辺路町内小学生募集 （新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）</p>	
<p>◇活動Ⅱ「南方熊楠と中辺路」 11月10日 中辺路町内4年生 子供たちは、中辺路町内における南方熊楠ゆかりの地を探索し、講師の先生から熊楠が自然を守ろうとしたことや、色々なエピソードを聞き熊楠について学ぶことができた。また、各探索場所では熊楠に関するクイズが出題され、子供たちは楽しく熊楠の足跡を巡ることができた。</p>	
<p>◇活動Ⅲ「熊野古道潮見峠越ウォーク」 11月12日 中辺路小6年 中辺路から田辺までの熊野古道、いにしえの人たちが辿った参詣道を自分の足で実際に歩いた。視橋から潮見峠を目指し、いちいがしの会の竹中さんや語り部熊野古道中辺路の高垣さんに山の様子や歴史・文化について説明を受けながら歩くことができた。迫力のある檜木（清姫伝説）や潮見峠での戦場の話など子供たちにとってはとても印象に残ったようである。</p>	
 <p>「南方熊楠と中辺路」</p>	<p>わたし達は、南方熊楠のことをいっぱい知るために、熊楠が歩いた道や熊楠がとまった旅かんや小屋、熊楠が守った神社などを見に行きました。熊楠が歩いた道と言われると、歴史を感じてワクワクしました。その中で1番感動したのが、熊楠が守った春日神社です。すごく大きな木があって、ワライタケというキノコがありました。「熊楠さんこの神社を守ってくれてありがとう。」と思いました。 (4年児童の感想)</p>
 <p>「熊野古道潮見峠越ウォーク」</p>	<p>潮見峠に行くまですごく陰しい道のりでした。「のぞき橋」には、「当国一乱の碑」というのがありました。この碑は、豊臣軍が攻めてきた記念の碑らしいです。中辺路に豊臣軍が来たということを知って驚きました。頂上から見える景色は絶景でした。うっすら徳島県も見えました。熊野古道の自然にふれることができてとても楽しかったです。 (6年児童の感想)</p>

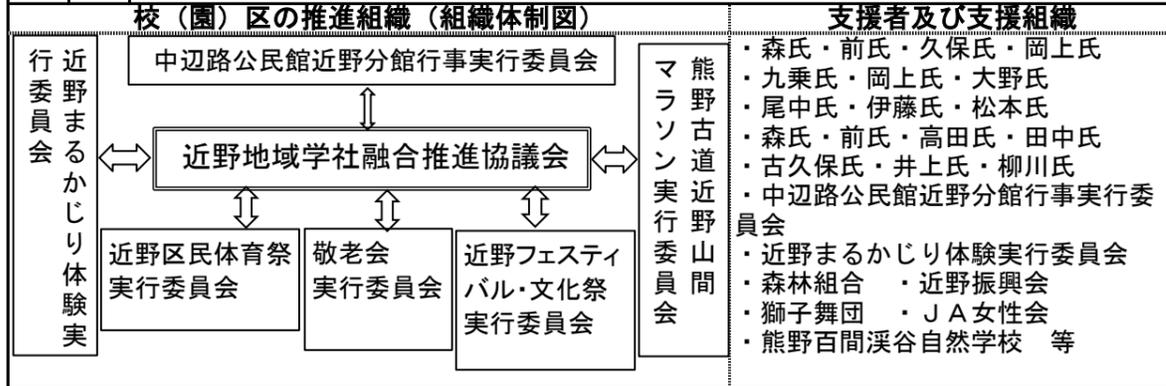
学校・園名	田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
-------	-----------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子

本校は、世界遺産である熊野古道「中辺路」沿いに位置している。熊野古道の複数のルートの中でも「中辺路」は、平安時代より上皇や貴族から民衆まで様々な人々が参詣を繰り返した参詣道として知られている。そして、現在も本地域には、平安の昔を偲び古道を探索する人々が、日本だけではなくヨーロッパを中心に世界各国から訪れている。そのような歴史や伝統・自然環境にも恵まれた本地域には、古来より「誰でも受け入れる」という懐の深さがある。さらに、地域には人々のために我が身をけずるような先人が幾人も輩出された歴史もあり、従来よりお互いのことを思いやって行動するという風土が地域内に根付いている。

本校はそのような地域にあり、これまでの地域の教育力を活用したさまざまな取組により、多くの教育的効果をあげることができている。

目 標	学校・園・地域	学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 【学校】 ・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一人として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 【地域】 ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ・森氏・前氏・久保氏・岡上氏 ・九乗氏・岡上氏・大野氏 ・尾中氏・伊藤氏・松本氏 ・森氏・前氏・高田氏・田中氏 ・古久保氏・井上氏・柳川氏 ・中辺路公民館近野分館行事実行委員会 ・近野まるかじり体験実行委員会 ・森林組合・近野振興会 ・獅子舞団・JA女性会 ・熊野百間溪谷自然学校 等



成果と課題（学校・公民館からの視点）

学校	成果	課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の中で地域の特色を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気づき、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちをより高める機会となった。</li> <li>お話を伺う活動を通して、地域の方々の温かな人間性にふれることができた。</li> <li>豊かな自然を感じたり、少しでも地域に貢献したりした経験から、郷土を愛する心を育てることに繋がられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が異動しても、新たなメンバーで学習活動のねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが重要である。</li> <li>新型コロナウイルス感染症予防のために、2年連続で文化祭での学習発表に地域の方々を招待することができていない。学校だよりを通じて、学社融合の取組を知らせる等、地域への発信について模索していく。</li> </ul>
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や文化、自然等に関する学習を継続することによって、ふるさと近野を誇りに思う気持ちや郷土愛が育まれている。</li> <li>新型コロナウイルスの影響から機会や規模は縮小されているが、地域の方々が学校の教育活動に協力的に参加していただいている。活動を通じて、子どもたちや学校の様子を知らせることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から規模を縮小した形で実施しているため、それまで行ってきた学社融合の取組や地域人材のつながりを継続、発展していきたい。</li> </ul>

今年度の取組内容  
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

○コロナ禍の終息の見通しがまだ立たない状況であるため、例年の地域全体での規模の大きい行事は制限したものにならざるを得ないと思われる。しかし、このような中においても、子どもたちの豊かな学びを保障し、たくましく生きる力を育むことができるよう、学社融合の取組を大切に。近野地域は文化財や自然などの郷土資源が豊富であり、地域社会の学校教育への協力体制も従来から手厚い。このような本地域の強みやよさを存分に活かして、確かな学力と豊かな人間性、たくましい心身の育成に努める。

○地域の皆様が学校周辺の草を広域にわたって刈ってくださるので、大変ありがたく感謝している。また常会長のご支援により、毎月の学校だよりを全戸に配布くださっていることも、大変ありがたく感謝している。

特徴的な協働活動

**地域の方々とふれあひながら 地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ**

**地域の自然～自然の恵みや自然との関わりについて学ぶ～**

かまているときははっぱはおもたかったけど、うまくまぜられるようになりました。おちゃのいいにおいがしました。

**近野たんけん「野中のたからもの」1・2年生（5月）**  
野中地域を訪れ、連なる山々を眺めるとともに、地区に住む方から話を聞いた。茶摘みから煎る、もむ、干すことで番茶ができることを体験を通じて教えていただいた。豊かな自然を感じるとともに、収穫の喜びを味わうことができた。



おちゃをもみみするのがたのしかったです。のなかの山のおはなしがおもしろかったです。

**地域の歴史～先人の苦労や努力から学ぶ～**

昔は水を得たり、使ったりするのに苦労をしたから、水はとても大切なものだな。

**『川崎水路』3・4年生（10月）**  
川崎水路は およそ百年前、水田に水を送るのに苦労していた地域の人々の願いを受け、久保円五郎さんと息子の善助さんが、金づちのみで苦心して築いた農業用水路である。地域の方の案内で水路について教えていただいた。地域のくらしをよりよくするために、地域の先人が努力してきたことに子どもたちは敬意を感じていた。



円五郎さんは、地域のみなのために長いトンネルをつくってすごいなあ。

**世界遺産の保全～地域にある自然・文化を大切にする心を育む**

熊野古道を歩く人が気持ちよく歩けるように、石だたみのところなどをきれいにできたのでよかったです。

**『熊野古道の整備作業』5・6年生（10月）**  
森林組合の方による熊野の森林についての話を聞き、道湯川地区にある熊野古道の整備作業を行った。道の上に転がっている石や落ちていた枝や葉を取り除くことで、古道がきれいになり児童は達成感を味わうことができた。また、石畳の敷き方についての説明をしていただき、何百年も利用できるように考えて古道が作られていることを知ることができた。



昔の人は歩きやすさとか、石の重みとかを考えて石を埋め込んだりしていったんだな。すごいな。

学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本校は、平成27年に三川小学校、平成30年に富里小学校と統合し、大塔地域に1校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、地域全体で、子どもたちを温かく見守り、育てていこうという意識が高い。「大塔地域学社融合推進協議会」では、行事支援部会、学習支援部会、生活支援部会の3つの実働部会があり、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で!」をテーマに取り組を進めている。			
目 標	学校・園・地域	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子どもたちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子どもクラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防 大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 大塔地区協議会	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成 果		課 題	
学 校	○昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっていた大塔音頭の講習会や選択交流学習、大塔リフレッシュ大作戦を、感染予防に努めながら実施することができた。 ○選択交流学習では、小中学生と一緒に地域の方から学ぶ機会を設け、中学1年生が学習リーダーとして学習の流れをポスターにしたり、あいさつをしたりしてくれ、9年間の学びがスムーズになるよう取り組めた。 ○学校司書と連携しながら、図書ボランティアや読み聞かせサークルによるさまざまな取組の中で児童の読書への関心・意欲が高まっている。 ○登校時の見守り活動やふれあいスクールの活動により、児童の安全確保や放課後の居場所づくりとなっている。	△ゲストティーチャーの人材確保が課題である。幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていきたい。 △ゲストティーチャーに授業のお願いをする時に、ねらいや時間配分等、十分な打ち合わせをできるように気を付ける。 △3つの支援部会の活動を実施するにあたって、職員が変わっても引き継いでいけるよう、計画や実施後のふりかえりの共有を小学校・中学校・地域・公民館と行っているようにしなければならない。	
公 民 館（地 域）	・前半は、新型コロナウイルスの影響により、事業等が十分に実施することができなかったが、後半は、少しずつ再開することができ、昨年以上に事業を展開することができた。 ・選択交流学習・リフレッシュ大作戦・地域学習・ふれあいスクールなど、コロナ禍でも工夫をしながら、地域住民の方々と子どもたちの交流を積極的に行った。 ・出前ふれあいスクールを通して、地域の方々と一緒に、防災学習に取り組むことができ、防災意識を育むことができた。 ・学校図書館の運営ボランティアや、読み聞かせなどを通して地域住民の方と一体になって、子どもたちにとって安らぎの居場所を提供することができている。 ・あいさつ運動や、各地域の見守り隊の方により、子どもたちの登下校時の安全に努めた。	・予定していた全ての事業を実施することが出来ず、残念だった。 ・今後も活動を実施していくため、新規人材の発掘・育成が必要である。 ・地域住民と子どもたちの交流の様子、また、学社融合推進協議会の事業について、広報などを通じて、より一層、理解や協力を得られるようにする。 ・SNSの危険性やトラブルが増加しているため、児童と保護者が一緒になって、学習する機会が必要である。	

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
<b>第1回大塔地域学社融合推進協議会（6/30）</b> ①大塔地域学社融合推進協議会 設置要項の改正について ・田辺市学社融合推進協議会規則の改正に伴い、本協議会の設置要項の目的にも「学校・保護者・地域が連携・協働すること」を明記した。 ②学校運営方針の承認 ③活動計画と予算の承認	
<b>第2回大塔地域学社融合推進協議会（10/21）</b> ①全国学力学習状況調査の結果報告 ・教科（国・算）に関する調査結果 ほぼ全国平均並であった。 ・児童質問紙の結果から 自己有用感が高い一方で、生活習慣や学習習慣に課題が見られた。 ・委員からコロナの影響やヤングケアラー、読書活動についての質問や意見があった。 ②大塔地域の児童生徒の様子について情報交換 ・登下校時、児童生徒が信号の変化を見て横断歩道をさっと渡ったり、車が一旦停止したときに会釈をしたりして気持ちがいいという意見があった。・学校へ行って児童の様子を見る機会がほしいという意見があり、後日、校内音楽会のリハーサルの様子を委員の方に見学いただいた。 ③大塔リフレッシュ大作戦について	
<b>第3回大塔地域学社融合推進協議会（3/10予定）</b> <b>特徴的な協働活動</b>	
<b>[行事支援部]</b> 学校行事の地域との協働を進める。地域行事への児童・生徒・保護者の参加を進める。 ☆ふれあいスクール ☆大塔音頭の講習会 ☆川パトロール ☆大塔リフレッシュ大作戦 <b>[学習支援部]</b> 学校図書館の運営ボランティア、学習やクラブ活動の支援を進める。 ☆図書ボランティア（水曜日の昼休み） ☆芋の苗植え・焼き芋 ☆出前授業 ☆選択交流学習 <b>[生活支援部]</b> 登校の見守り、毎月はじめの登校指導を行う。学校や施設の整備作業を進める。 ☆登校時の見守り活動・あいさつ運動 ☆通学路の点検、安全確認、ぐるりんメールで情報共有 ☆施設の整備作業	
<b>[低学年] ☆出前授業</b> 1・2年生は、ちい先生（地域の先生・ふれあいスクールサポーター）から、昔の遊びや防災について教えていただいた。 [児童の感想]身近な物で命を守るものが作れることがわかった。	 
 <b>「生け花」</b>	 <b>「木工」</b>
<b>[高学年] ☆選択交流学習</b> 5・6年生は、中学1年生と一緒に、「大塔探訪」「生け花」「陶芸」「木工」「体育」「音楽」の6講座に分かれて、地域の方から学んだ。	
<b>[全学年]</b> <b>☆大塔リフレッシュ大作戦</b> 小学生と中学生が地域の方と一緒に、自分の住む地域の清掃活動を行った。 [児童の感想]道のそばには、ゴミがたくさん落ちていた。ゴミ拾いをしてきれいになって良かった。	
 	

学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本宮地域では、共育コミュニティといわれる以前から各学校において地域人材交流を実施し双方の連携が定着している。平成23年度からは「音無の里共育コミュニティ事業」として小中3校と全地域が一体となった「地域を活かした学社融合」の取組を行い、現在も継続している。</p>			
目 標	<p>平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として実施している。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直している。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>育友会 学校ボランティア 熊野本宮語り部の会 熊野本宮伝統芸能教室 女性会連絡協議会本宮支部 世界遺産熊野本宮館 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ 本宮プロバスクラブ</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、昨年できなかった学社融合の取組のほとんどを実施できた。</li> <li>「町探検」「ふるさと再発見」「語り部ジュニア」等の活動を通して、ふるさとに親しみを持ち、豊かな心情を育む機会となった。</li> <li>三里運動会は、今年もコロナの影響で半日開催となったが、コロナ対策に万全を期して、昨年よりも多くの方々に参加をしてもらうことができた。</li> <li>「語り部ジュニア」「間伐体験」等の活動を通して、本宮町の文化的景観を守っている人々の苦労や工夫を知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっとコミュニケーション能力を高めて、地域の方との関わりをさらに深めていきたい。</li> <li>体験することや活動することにおいては、しっかりと取り組むことができた。来年度は、学んだことを発信することにも力を入れなければならない。</li> <li>早い時期から計画的に取り組む必要がある。</li> <li>もう少し公民館主事との連携を密にし、学習活動に活用すればよかった。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的に緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。</li> <li>学校教育に参画することで、サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。</li> <li>子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。</li> <li>学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。</li> </ul>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。</li> <li>第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等</li> <li>学社融合の活動を通じて、子どもたちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。</li> <li>委員から意見 「学校は地域の人が入りやすい環境を作ってくれている」 「子どもたちが、本宮が好き、住みたいと言える町にしていきたい」</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
<p>【熊野古道語り部ジュニア活動】 昨年の反省から本活動を見直した結果、今年度は「全職員・全校で取り組む」ことにした。 これまでは、この活動は高学年だけで担当していたのだが、職員数・児童数ともに減少していく傾向にあるので、これからは、全職員・全校で取り組むことにした。 まず4月には、現職教育に語り部さんと呼んで熊野古道について学習をした。5月の遠足では、全校で熊野古道を歩いて、学年に応じた学習を行った（語り部さんを招聘）。 5・6年の活動では、今までのルートに加え、「発心門王子」「水呑王子」「伏拝王子から三軒茶屋」「本宮大社・大斎原」を付け加えた。また、今までの原稿は、参考程度とし、自ら資料を調べ自分の言葉で原稿を作成した。作成した原稿は、語り部さんの指導を受けてさらに分かりやすいものにした。その後も数回語り部さんに来ていただいて、より分かりやすいものになるように、12月には近隣校の語り部を見学し、交流会も行った。 1月には現地でのリハーサル。2月には、近隣校で「熊野古道語り部」本番と、交流会を行う予定である。</p>	
成果	<p>全職員が三里小学校の「語り部ジュニア」の取組を理解できた。 低中学年から学ぶことで、知識の積み重ねができ、高学年への心構えができた。 自ら原稿を作ったことで、自分の言葉で説明できるので、聞き手にも伝わりやすかった。</p>
課題	<p>大勢の人の前で発表する機会をたくさん設けるようにする。</p>
<p>【花のプレゼント大作戦】 地域の方々に花をプレゼントして感謝の気持ちを伝えること、ふるさとに親しみを持ち、豊かな心情を育むことを目的としてこの取組を行っている。 3・4年生が本宮町内の老人会の皆様と一緒に植えた花にメッセージを付けてプレゼントした。今年度は、学社融合や校区内で普段の生活でお世話になった方々に渡し、感謝の意を伝えた。 全児童が手分けをして花を配った。今年度は、自分の住んでいる地域の方々にプレゼントしたため、より一層コミュニケーションを深めることができた。また、地域の方々より「学校が身近に感じられるすばらしい取組である。」といった手紙や喜びの声をたくさんいただいた。子どもたちも地域の方と交流することを大変喜び、留守のお宅があると残念がっていた。</p>	

学校・園名	田辺市立本宮小学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本宮地域では、共育コミュニティといわれる以前から各学校において地域人材交流を実施し双方の連携が定着しています。平成23年度からは「音無の里共育コミュニティ事業」として小中3校と全地域が一体となった「地域を活かした学社融合」の取組を行い、現在も継続している。</p>			
目 標	<p>平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として実施している。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直している。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>育友会 学校ボランティア 熊野本宮語り部の会 熊野本宮伝統芸能教室 女性会連絡協議会本宮支部 世界遺産熊野本宮館 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ 本宮プロバスクラブ</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、活動内容を工夫しながらの実施となったが、今年度は1学期から地域の方々と共に行う活動を実施することができた。伝統芸能、語り部ジュニア活動、クラブ活動、手話教室など地域の方々に学習パートナーとして学習に参画していただく活動を行った。学習パートナーの高い専門性により、児童の興味関心が高まり、学習活動が充実した。</li> <li>学社融合推進協議会委員に研究授業や公開授業時に来校いただき、各学年の児童の様子を参観してもらうことができた。</li> <li>地域や一般の方々を対象に、語り部ジュニア活動を行うことができた。熊野古道のすばらしさを紹介しようと意欲的に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化により学習パートナーを辞退される方もおり、新たな人材確保が必要である。学社融合推進協議会の協力を得ながら進めていきたい。</li> <li>どんな場においても、自分の考えや思いを生き生きと表現できるよう機会を増やししながら、児童の表現力を伸ばしていく。</li> <li>コミュニケーション能力を高めて、地域の方との関わりをさらに深めていきたい。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。</li> <li>学校教育に参画することで、サークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。</li> <li>子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に参画していただける方の発掘と、今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。</li> <li>学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。</li> </ul>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。</li> <li>第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等</li> <li>学社融合の活動を通じて、子どもたちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。</li> <li>委員から意見 「学校は地域の人立ち入りしやすい環境を作ってくれている」 「子どもたちが、本宮が好き、住みたいと言える町にしていきたい」</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
「伝統芸能～平治川の長刀踊り～」	
<p>○地域の伝統芸能である平治川の長刀踊りの継承 4・5・6年児童が、地域の指導者羽根千恵子氏から平治川の長刀踊りの指導を受け、秋季運動会で披露した。また、5・6年生は、紀の国わかやま文化祭熊野音楽祭のステージでも平治川の長刀踊りを披露し、本宮の伝統芸能の魅力を発信することができた。</p>	
秋季運動会	熊野音楽祭
「語り部ジュニア活動」	
<p>1 熊野古道の魅力と語り部活動について 熊野古道の語り部をされている関秀治氏から、本宮の魅力や熊野古道の魅力についてお話を聞かせていただき、語り部の役割についても教えていただいた。</p> <p>2 語り練習 各自、紹介する場所の調べ学習を行い、自分の思いや考えを新たに加えた自分の語りを作り練習を繰り返した。関さんにアドバイスをいただいたり、6年生が5年生に語りの見本を見せたりすることで、聞き手に伝わる語りを意識することができた。リハーサルでは、実際に現地に行き、関さんに指導いただきながら語りの練習を行った。場所の案内だけでなく、語り部は道中の安全のため足元への注意などの声かけを行うことが大切であると学んだ。</p> <p>3 語り部本番 三里小学校の5・6年生、保護者、地域の方を招いて語り部ジュニア活動を行った。道中の声かけや名所の紹介などを通して、本宮と熊野古道の魅力を知らってもらうことができた。</p>	
<p>「聞いてくれている人に楽しく語る事ができました。」 「人前で何かをするときの自信ができました。」 「本宮のいいところを伝えられるように頑張ることができました。」</p>	

学校・園名	田辺市立東陽中学校	公民館名	東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と校区の学社融合を推進する会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができています。公民館の掲示版には学社融合行事の様子や教科・部活の作品等を掲示し、地域の方々に紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校と連携した学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら、現在の東陽の地域実情に合った取組の議論を進めている。			
目 標	・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と地域が共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。 ・幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。 ・生徒たちと共に、当地域の課題（防災等）について学んだり、活動したりする機会を持つ。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		○人材バンク （学校支援サポーター） ・図書整備 ・バラ園整備 ・調理実習 ・各種授業講師	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	今年度もコロナウィルスの影響下での取組となったが、「制限のある中でも、何とか工夫してできる活動を推進していく」というスタンスで行った。 地域との連携では、1年生はこれまでのよさこい踊りの代わりに、新たに地域学習で歴史や産業について学び、熊野古道への植樹活動やウォークラリー等を企画した。 小学校との連携では、田二小と行っていた中学校体験学習を、他の中学校とも協力して校区内の小学校と行う等活動を発展させている。	昨年度よりは様々な活動を行うことができたが、リモートによる取組という点についてはまだまだハード面・ソフト面の両方で改善すべき点が多い。今のリモート環境では情報のやりとりはできても、人と人との交流にはやはり直接会って話す状況というのが大きな意味を持っていると考えるからである。 今後、このままコロナが収束していくのかどうかはまだ全く未確定であり、やはり今後もより充実したリモートでの取組を工夫していく必要はあるだろう。	
公民館（地域）	今年度も5月にバラ園の整備作業で東陽中学校生徒のボランティアを募ったところ、今までで一番多い41名もの生徒が募集に応じて参加してくれた。また、バラの演奏会も、例年通りの5月には開催できなかったが、8月に代替イベントを行うことができた。 年明けの2月には、2年ぶりのウォークラリーも開催を予定している。東陽中学校の生徒が、また活躍してくれるのが楽しみである。	今までの公民館の「イベント」には、幅広い世代の人が参加できるようなものもあったが、「普段」公民館を利用する人には、やはり年齢層の高い方が多い。 これからは、「普段」からより幅広い世代の人に利用してもらえたり、その中で学校との交流ができたりするような仕組みが必要ではないか、と思っている。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
協議テーマ	<b>“魅力ある東陽中・地域”</b> 本年度、改めて東陽中・地域の魅力や強みについて見直し、現状の課題についても掘り出しながら、3年後、10年後を見据えて何が必要なのか、何をすべきか協議している。現在、次回の会合に向けて、各自がより具体的な内容・形を検討中である。
①少子化に向けて（校区内にある県立中学校への入学生流出の現状も踏まえて）、東陽中の魅力を小学校（児童、保護者の両者）にさらに広めていく必要性があり、その具体的な手段について検討した。 ②地域の中で核となる中学校になるために、現在人手不足により開催が困難になってきている田辺祭に中学生が地区を越えて参加してお笠を引いたり、地域の清掃活動を行ったりする方向を探った。また、双方向の関係づくりや協働という面からも、学校・教師の負担増にならないように、地域・職場体験等の受け入れや祭りへの参加については地域で生徒の面倒を見るという形を作っていければよいのではないかと提案も出た。	
特徴的な協働活動	
昨年度はボランティア募集できなかったが、今年度は一昨年の倍にあたる生徒が応募してくれ、5月に無事バラ園の整備作業を行うことができた。「バラと音楽の鑑賞会」はできなかったが、その代替イベントを8月に行った。昨年よりバラ園整備の地域サポーターの方の人数も増え、年間を通じて活動してくれている。 また、「バラの東陽」をさらにアピールするために何かできないかと話し合った。生徒が校内のバラの品種の解説シートや絵画作品をつくり展示した。デザインを生かした「バラのメモ帳」を作り、地域の方に使っていただく企画が現在進行中である。自分たちの作品が「メモ帳」になり、バラの良さをより多くの人に伝えることができることを喜び、完成を楽しみにしている。	
バラの和菓子	バラ園の整備
地域配布	バラのメモ帳作成
<b>【小学校、近隣中学校との連携】</b> 小学6年生を対象にして「中学校体験学習（体験授業、施設・クラブ見学）」を行っているが、今年度は関連する近隣中学校とも連携して、従来の田二小以外の2校も行った。児童たちは体験学習を大変喜んでおり、「中学校に入学するのがより楽しみになった！」という感想を書いている。また、5年生にも学校の魅力を伝えたいと近隣中学校と共に企画する等、連携をより緊密化する方向で取り組んでいる。	
<b>【地域・公民館との連携】</b> 1年郷土学習を、地域でのウォークラリー形式で行った。闘鶏神社等でドングリを拾い、「熊野の森プロジェクト」熊野古道の植樹事業に参画した。また、その郷土学習の取組を生かして、「公民館主催のウォークラリー」の企画や資料作成、当日の運営等に1年生と芸芸部が協力する。 今後は、地域を誇ることのできる生徒の育成を目指し、保護者・地域の方、関連機関とともに、地域学習を系統立て、社会に開かれた教育課程を推進していきたい。	

学校・園名	田辺市立明洋中学校	公民館名	西部・芳養・中部公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> ◎本校での学社融合の取組は、公民館主事と学社融合推進教員で組織する明融会を中心に進めており、大きく分けて2パターンある。1つは、学校に講師等を招いて行う授業や活動、もう1つは、地域に本校の生徒が出向いて行う活動である。 1) 地域から講師を招いて授業や活動（生け花教室・郷土料理授業・浴衣着付け教室・茶道教室・紀州てまりなど）。ここ数年は、夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。 2) 地域に出向いての活動（吹奏楽部の芳養潮騒祭り演奏会・こいのぼりの会演奏会・保育所演奏会・天神児童館祭り・定期演奏会など）。他にも、天神児童館が主催する道普請に、野球部・剣道部・体操部が参加・花植えボランティアにテニス部・吹奏楽部・体操部が参加したりと、地域の行事にクラブ単位で積極的に参加している。また、授業に関しても1年生は地域での保育実習、2年生では、地域の事業所での職場体験（本年度は中止）など、様々な機会をとらえ地域に出向いての取組を行っている。			
目 標	学校・園・地域	<学校> ◎地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを実感し、故郷を愛する気持ちを育成する。 ◎地域での活動を通して、多くの方々と関わるによりコミュニケーション能力を育成する。 ◎地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。 <地域> ◎地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統文化や技術の取得を図る。 ◎学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら健全な育成を目指す。 ◎子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ・学社融合推進協議会 ・明洋中学校育友会 ・芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々 芳養公民館・西部公民館・中部公民館 西部センター・天神児童館・芳養児童センター	
【明融会】	・校長 ・教頭 ・教務 ・学社融合推進教諭	【明洋中】 【中部公民館主事】 【西部公民館主事】 【芳養公民館主事】	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
学 校	成果	課題	
	◎吹奏楽部の定期コンサート（プロムナードコンサート）は、24回目を迎えた。また、今年度も2011年の東日本大震災や紀伊半島大水害、2016年の熊本地震の被災地の復興のため定期コンサートで寄付金を募り地元の新聞社を通じて寄付を行った。地域のイベントについては昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からほとんどが中止となり残念であった。 ◎鯨の三枚おろしの学習では、地域の方々が各班に分かれて指導してくれ、安全かつ効果的に学習が行える貴重な経験であったが、講師に来てくれている地域の方が高齢である事と新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から今年度も中止とした。 ◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」という自覚を持たせることができ、生徒たちにとって良い経験となっている。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったが、今年度は状況を見て保育所・幼稚園と相談し、2月実施の予定である。	◎吹奏楽部の定期コンサートは、学校にとっても地域にとっても今や一大イベントになっている。これまでは、前任の顧問が1人でこのコンサートを企画運営していた。今年度から顧問が変わり今までと同様に開催できるか不安であったが、2人体制で活動をしており、今までのやり方を継承しながら新しい形に移行していくいい機会となった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から入場制限があったり、演奏時間を短くしたりしたが、充実したコンサートになった。 ◎本校は3つの小学校から進学してくる。また、校区には3つの公民館がある。9年間の視点を持って推進する場合、3つの小学校・公民館と、どのように連携し取り組むかが学社融合を推進する上で毎年の課題であるので3つの公民館主事と引き続き、定期的に情報交換をしていきたい。 ◎家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として、地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要かを、教務主任を中心に教科部会等を通して検討しなければいけない。	
公 民 館（地 域）	◎昨年度同様、新型コロナウイルスの感染状況の悪化から、地域の講師の先生との交流を通して、地域に伝わる伝統文化に親しむ機会を作ることや技術を伝えることができず、生徒の成長の機会が失われた。 ◎昨年度同様、新型コロナウイルスの感染状況の悪化により地域行事のほとんどが実施できず、保護者以外の方々にも地域の子どもたちの成長を知ってもらう機会を作ることができなかったことが残念である。	◎今後は、現在取り組んでいる内容を精査して継続していくもの、縮小していくもの、新たに取り組んでいくものなど、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な行事が中止になったことをきっかけに考えていくことが課題となる。また、専門的な技術を伝えられる人材の確保に努め、生徒たちとの交流を続けていくこと。 ◎既存の事業の充実を図りつつ、今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいかなければならない。 ◎現在の体制を維持、発展させながら、より一層地域と学校の繋がりを深めていきたい。 ◎今までお願いしてきた講師の先生方が高齢になってきているので、そのことに伴い取組内容を考えていかないといけないと、取組自体ができなくなったりすることが予想されるので、学校とも連携を深めていきたい。	

<b>今年度の取組内容</b> 会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)	
<第1回学社融合推進会議> 令和3年5月27日(木) 1) 田辺市学社融合推進協議会について 2) 令和3年度事業計画について 3) 令和3年度収支予算について 4) 令和3年度学校経営について 5) 新型コロナウイルスの学校の対応について 修学旅行について 部活動について ・議事に入る前に、委員への委嘱状の交付を行い、委員の互選により会長に山崎和典氏、副会長に横尾奈津希氏を選出。その後、以下の協議を行う。 ・田辺市学社融合推進協議会について校長から説明し、承認を得る。 ・令和3年度事業計画について校長から説明し、承認を得る。 ・令和3年度収支予算について校長から説明し、承認を得る。 ・令和3年度学校経営について校長から説明し、承認を得る。 ・新型コロナウイルスの学校の対応について、資料を基に説明し、理解していただく。 ・修学旅行の日程を変更することについて説明し、承認を得る。 ・部活動の入部状況を説明し、今後の部活動検討委員会の進め方について意見を聞く。 <第2回学社融合推進会議> 令和3年11月29日(月) 1) 2学期の運営について(体育大会・文化発表会・部活動の結果・修学旅行等) 2) 各委員から 3) 部活動検討委員会から 愛知県刺殺事件について 学力学習状況調査について 学校PR動画を視聴 ・学校より2学期の運営状況を報告する。 ・部活動検討委員会で決定したことについて校長から説明し、承認を得る。 ・愛知県刺殺事件について、今回の事件を受けて学校として取り組んでいることはあるのか、委員から質問を受ける。 ・学力や学習についての状況はどのようなものか、委員から質問を受ける。 ・本年度作成した学校PR動画を視聴してもらう。	
<b>特徴的な協議活動</b>	
【紀州てまり】 ・感染対策をしながら、文化部の1・2年生と限定し密にならないよう配慮しながら実施した。楽しみにしていた取組でもあり講師先生の話に耳を傾けながら作品作りに熱心に取り組んでいた。	
	
【生け花教室】 ・感染対策をした上で、今年度は1回のみ実施。講師先生の指示を受け、生け花を生けた。出来上がった生け花については、本校の文化発表会で作品を展示し、文化発表会終了後も、各階で展示した。各自が制作した生け花に講師先生からアドバイスをいただき、生け花の奥深さを知ることができた。	
	
【プロムナードコンサート】 ・例年、吹奏楽部が定期演奏会を開いているが、昨年度から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点による入場制限があり、今年度も紀南文化会館の感染対策の動向を注視しながらの実施となった。今年度も入場制限や演奏時間の制約があったが、演奏会を開催できることへの感謝と近隣地域の今の現状を受けて実施した。	
	

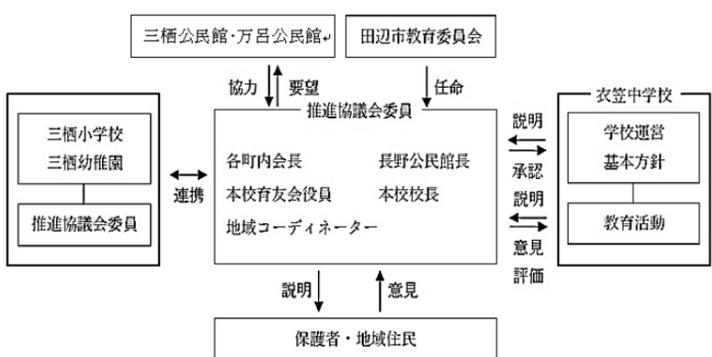
学校・園名	田辺市立高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稻成・ひがし・中部・南部公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 例年、家庭科、社会科、保健体育科などの授業や文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。例年では、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育実習で地域におもむき、学習させていただいている。本年度はコロナ対応のために一部しか実施できていない。			
目 標	学校・園・地域 授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。		
	【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>高雄中学校学社融合推進協議会 (会長1名・副会長1名・委員8名)</p> <p>家庭 — 学校 — 公民館 — 地域</p> <p>学校運営への参画・支援・協力</p>		公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 初山歯科 切目屋薬局 湊浦漁協女性部（お魚ママさん） 深見助産所 紀南県税事務所 田辺市消防署 城山台給食センター 白浜田辺青年会議所	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に、学校や生徒たちの様子を分かってもらえた。</li> <li>・夏期休暇や文化発表会などで、ゲストティーチャーとしてお招きし、思春期講座や福祉教育など、教室では学ぶことができないことについて学ぶことができた。</li> <li>・地域の方との交流を通して、地域でどのような仕事が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーの話聞いて終わるのではなく、そこから学んだことを地域に発信していくことも必要だと考えられる。</li> <li>・昨年同様、職場体験学習や保育実習など、実習が中止となっている。生徒が活動し学ぶ場を設けていくためにも、代替案を模索していく必要がある。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展覧会や公民館活動のボランティアなどの活動を通じ、地域と学校の結びつきが深まるきっかけが増えてきた。</li> <li>・学社融合推進協議会を通して、公民館と学校の連携が進んでいることが確認された。</li> </ul> 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの公民館長が委員として、地域と学校を繋ぐ強力なパイプ役になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、コロナ禍においても、できることを模索しながら行事を開催した。しかし、昨年度と同じように中止となった行事もあるため、来年度は更につながりを持てるように行事の形を模索していきたい。</li> </ul> 【推進協議会】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、学校として、また地域に住む中学生として参加できるよう、公民館主催の地域行事を増やしていきたい。</li> </ul>	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○学校支援ボランティアについて 【本校の課題】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒、別室を利用したことがある生徒が30名近くいる。</li> <li>・不登校支援員が1名であるため、不在中の生徒管理が困難な場合がある</li> </ul> 【協議事項】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の不登校・別室登校生徒の現状を共有、理解してもらった。</li> <li>・高雄CSとして、公民館の学校支援ボランティア等を活用する方針を決定。 →ボランティアによる別室登校生徒への支援を行えるように、公民館の人材バンクを活用し、具体的な運用に向けての作業をすすめることを決定。</li> </ul> 【学校側として期待すること】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員以外の方々との交流により、自分に対する新たな気づき生まれる。</li> <li>・コミュニケーション活動に対する自信を取り戻す。</li> <li>・学校集団に戻って活動できるようにする。</li> </ul>	
特徴的な協働活動 <b>＜1年生 SDGs アドベンチャーワールドの出前授業＞</b> SDGsへの取組の一環として、アドベンチャーワールドのスタッフによる授業を実施した。前半は、アドベンチャーワールドが取り組んでいるSDGsの取組について学び、「未来のために」と題して、グループごとに「アドベンチャーワールドでこんな取組があったらいいな」という提案を考え発表した。 自分たちの身近にあるアドベンチャーワールドでも、SDGsに向けた取組がされていることを知り、自分たちに何ができるのか考えるきっかけとなった。 【生徒の感想】 SDGsについて、いろいろなことを知ることができました。アドベンチャーワールドでもたくさんの取組がされていたので驚きました。自分たちの提案が実際にアドベンチャーワールドで採用されたら、うれしいです。	
<b>＜2・3年生 企業説明会～みんなで知ろう！JCティーチャー～＞</b> コロナ禍で職場体験学習が実施できない中、キャリア教育の一環として2・3年生を対象に白浜田辺青年会議所の協力のもと、企業説明会を実施した。白浜・田辺から10の事業所が各教室にブースを設け、生徒は各事業所の説明を聞いたり、体験したりした。 自分たちの住んでいる地域の仕事について学び、日常の学習はどのようにして職業に繋がるのか知ることができた。	
【協力企業】 飲食業店 チャイニーズ酒場 福福 車販売 設備業 大和自動車整備株式会社 梅加工業 株式会社ウメタ OA機器販売業 (株)うえだ ガソリン販売業 (株)アムズエナジー 管工事業 (株)光和設備 建設業 株式会社 後工務店 公務員 白浜町役場 鉄くず卸売加工業 (株)資源開発 弁護士業 佐藤生空法律事務所	
【生徒の感想】 企業説明会を受けて、私の住んでいる地域にこんなにもいろいろな仕事があるのだと知って驚きました。社会人になるにあたって、「挨拶をハキハキすること」「約束した時間を守ること」など、今からでも心掛けていけるようなことをたくさん学ぶことができました。また、今まで気付かなかった商品の様々な工夫や、私たち「お客さん」への細やかな配慮について知り、驚きました。私たちが周りの人々に支えられているということを実感しました。	

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めている。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> <p>本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の文化や伝統産業の調べ学習、地域の未来を考える学習を通して、地域を愛する心を育てる。</p>	
	校(園)区の推進組織(組織体制図)	<p>支援者及び支援組織</p> <p>学社融合推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼稚園・小中学校育友会</li> <li>○ 学校支援者・地域代表者</li> <li>○ 地域関係団体</li> <li>○ 公民館運営委員会</li> <li>○ 新庄地区校区協議会</li> </ul> <p>新庄中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新庄杜氏唄保存会</li> <li>・新庄漁業協同組合</li> <li>・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会</li> </ul>	
成果と課題(学校・公民館からの視点)			
成果		課題	
学校	<p>コロナ禍が少し落ち着いてきたので、昨年度より地域の方から学ぶ機会をもつことができた。1年生の「地域学習」では、新庄の漁業や獅子舞について地域の方から学ぶ機会をもった。2年生では、祇園さんの作品作りに取り組んだ。3年生では、地域のリサイクル工場の見学調査に行き、「未来学」の学習に生かすことができた。</p> <p>多くの地域の方に学校行事に参加してもらった。多くはもてななかったが、生徒の俳句作品や行事の感想を「新庄だより」に多く載せることで、地域の方に、学校の活動を知ってもらった。</p>	<p>・今後は、専門的な技術、知識を持っている地域の方ともしっかりつながり、ゲストティーチャーの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。</p> <p>・その日限りでなく、子どもと地域の方が継続的に関わりを持ち、子どもの成長につながる工夫などを考えることが必要である。</p> <p>・自ら進んで挨拶をしたり、関わったりできるよう、コミュニケーション能力を高める。</p>	
公民館(地域)	<p>様々な活動が制限された中であつたが、地域の方との交流を通して自分たちが住む地域のことを知ってもらうことができた。特に2年生の授業で行った「ぎおんさんの夜見世」作品作りについては、本来の行事が2年連続で中止である中、生徒が作成した作品を公民館のロビーに展示したことで、大勢の地域の方に学社融合の取組を知ってもらえる良い機会となった。</p>	<p>・学校で行っている学習や、子どもたちに教えたことを把握し、地域から適した人材を紹介できるようなネットワークを構築していく必要がある。</p> <p>・コロナ禍により途切れてしまった活動等を再開できるよう方策を検討していく。</p>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)	
<p>* 学力子育て部会: 前年度、コロナ禍のため中止した教育講演会の実施を確認。 スクールカウンセラー・上野晃先生「心の発達と子育てについて」</p> <p>* ふるさと新庄部会: 総合学習の調べ学習で、公民館や新庄地区の各種団体との連携を確認。 ウニ駆除、鳥ノ巣の地質観察や、祇園さんや獅子舞(1・2年生)の取り組み。</p> <p>* 防災安全部会: 消防新庄分団とのHUG(避難所運営ゲーム)実施を確認。(3年生)</p> <p>* 11月2日の田辺市教育委員会指定研究発表会と、12月5日の文化発表会(11月22日から12月5日は学校開放週間)の案内をし、委員さんが来校。生徒の様子や取組内容を知っていただく機会とした。</p>	
特徴的な協働活動	
<p>「地域学習」の一環として、新庄漁業協同組合の方の指導のもと、新庄の漁港で大量に発生したウニを駆除する活動をした。この活動は新庄特産のヒロメを守ることにつながり、自分たちが住む地域の現状と課題を知ることができた。</p>	
 	
<p>「地域学習」の一環として、中学校周辺の地質や、新庄地域にある「鳥の巣平和公園」の特徴的な地質について、地域の専門家の方と学ぶ機会をもった。自分たちが住む地域に、非常に珍しい地層が存在することを知り、自分たちが住んでいる地域について知識を深めることができた。</p>	
	
 	
<p>新庄地域の伝統的な行事である祇園さんの作品作り取り組み、長い間、受け継がれ、守られてきた伝統があることを学んだ。</p>	

学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	万呂・三栖・長野公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 三栖地域では、学校が抱えている課題を積極的に保護者や地域の方々に伝えることで共有している。また、「地域について学ぶことで、地域への愛着心や、様々な人たちと交流を図る中で、好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付けさせる。」という目標実現に向け、学校・地域・公民館がお互いに協力できる体制が確立されている。 生徒にとって有効な活動を企画・運営することをお互いに心掛けて実践するとともに、取組が単発的ではなく、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が継続的な内容になるよう心掛けている。 生徒たちは地域の方々との体験活動を通して、挨拶や礼儀、将来に必要なコミュニケーション能力を高めるとともに、生まれ育った地域を愛し、地域に貢献しようとする意識や社会性、市民性が育まれている。			
目 標	・自然や地域の人々との触れ合いを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、様々な面から地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、豊かな心を育て、生き方を学ばせる。 ・様々な活動を通じ、中学校の取組について理解を深め、地域ぐるみで取り組んでいく体制を作っていく。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 		<b>支援者及び支援組織</b> ○三栖幼稚園 ○三栖小学校 ○長野小学校 ○会津小学校 ○三栖公民館 ○万呂公民館 ○育友会 ○地域住民 ○田辺市梅振興室 ○J A三栖等地域団体や企業	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b> ・新型コロナウイルスのため、様々な制限があったが、その中でも地域や公民館と連携した取組を実施することで、生徒1人1人に自分の生まれ育った郷土を愛する心が育まれ、自分たちがこの地域で生きているということをしつかりと学習させることができた。 ・地域の方々から、生徒同士や教師との関係とはまた違った方向から助言を受けることで、人間関係構築能力に必要なコミュニケーション力や、他者の気持ちを思いやる温かい心を育むことができた。		<b>課題</b> ・地域の方々との体験活動を充実させていくことで、生徒の相手を思いやる心、地域への愛着心、規範意識を今後さらに高めていきたい。 ・公民館と連携し、今後とも様々な分野のゲストティーチャーとのつながりを持ち、自らの体験等を語っていただける人をさらに増やしていきたい。 ・今後も生徒、保護者、地域のニーズに応じた教育講演会・共育ミニ集会の実施など計画、実施することで、地域とのつながりを深めていきたい。	
<b>学校</b> ・地域学習やSDGs学習を通して、中学生がどのようなことを学び、考えているのかを知ることができた。 ・学習活動を通じ、改めて地域を知り愛着を深める機会になった。また、地域の未来を担う人材である中学生を地域ぐるみで育てていくという意識の向上につながった。 ・公民館の作品展やロビー展において、生徒の美術作品を展示することで、普段公民館を利用されない方も公民館を訪れるきっかけとなった。	・学校、家庭、地域、それぞれの取組について、情報を共有し理解を深め、様々な活動を通じ、地域ぐるみで自覚のある子どもたちの育成に努めていきたい。 ・公民館と学校が密に連携し、学校の課題に対し、地域が協力できるよう、公民館がコーディネーターとしての役割を果たしていきたい。 ・昨今話題となる情報モラルという分野において、公民館として課題解決に協力できるよう尽力したい。		

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b> ・昨年度同様、新型コロナウイルスの影響のためこれまで通りの取組をそのまま実施することが難しい状況ではあったが、学社融合推進協議会を開催して規模の縮小や時期の変更等も考え、できる活動を協議した。  ・時代と共に学校の抱える課題が複雑化、多様化している中、学校と地域が協力し、地域ぐるみで子どもを育成するという認識が、会議を通して感じることができた。特に学校が提起した情報機器の生徒間トラブルの増加と情報モラル教育の重要性に対して、会員の様々な視点から活発な議論が行われた。感染症の状況もみながら、2学期に情報モラルの教育講演会を実施する計画を立てた。  ・伏菟野地区土砂災害から10年が経つということで、災害を風化させないために学社融合推進協議会と学校が協力し、現地視察を含めた学習会を開催する方向で協議した。		
<b>特徴的な協働活動</b> ・1年生では、防災学習の一環として、数年前の豪雨で大きな被害に遭った伏菟野地区を訪問し、災害の怖さや備えの大切さ、復興に向けての取組についてなど学習することができた。また、地域学習の調べ学習ではタブレットを使用し、郷土の魅力について調べ、知識を深めることができた。2学期後半には、三栖小学校6年生を対象にした中学校授業体験とクラブ見学を、中学校1年生のリーダーが中心となって実施することができた。 ・2年生では、SDGsについて18のグループで調べ学習を行い、体育館でポスターセッション形式の発表会を実施した。また、地域の主産業である梅について、J A紀南や田辺市梅振興室と連携して、収穫体験、天日干し体験等を行うことができた。2学期後半には田辺市消防本部と連携し、救命講習を行った。 ・3年生では、田辺市社会福祉協議会と連携し、講話などを通じて障がい者理解に対して主体的に考えた。防災学習ではグループに分かれてテーマを設定し、現地調査などもふまえて防災学習を行った。 ・元三栖小学校栄養教諭の田上成美先生を招聘し、全学年食育の授業を行った。 ・育友会と連携した教育講演会では、NIT情報技術推進ネットワーク（株）代表取締役の篠原嘉一先生を招聘し、「安心して使うために知っておきたいネットのリスク」をテーマに、午前は生徒対象に、午後は生徒と保護者を対象に講演をしていただいた。（情報モラル教室）		
伏菟野地区の講演 	伏菟野地区を訪問して 	梅天日干し体験 
SDGsの発表 	避難訓練 	情報モラル教室 

学校・園名	田辺市立上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 平成28年度から30年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目標にした、地域とともにある実践活動を目指している。 従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津地域学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。			
目 標	学校・園・地域 ・農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・幼・小・中の連携を図る。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 上秋津地域学社融合推進協議会 （公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・PTA・町内会等） 役員・事務局 ※役員=会長・副会長・役員 ふるさとを誇りに思う    学力の向上を図る    人を大切にする		<b>支援者及び支援組織</b> 上秋津町内会 上秋津公民館 JA紀南上秋津 JA青年部 幼稚園PTA 小学校育友会 中学校PTA 民生児童委員 公民館サークル 秋津野ガルテン 介護老人保健施設あきつ 等	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本年度も昨年度と同様、多くの取組が実施されなかったり、規模を縮小しての実施になったりと十分に地域と交流することができなかった。その中で、公民館主催の「上秋津お気に入りの風景」写真展への応募や「上秋津子ども作品展」へ全校生徒の作品を出品することができた。学校の取組の様子を地域に知らせる場が少なくなってしまう中、学社融合推進協議会は学校の様子を地域に知ってもらう貴重な会となった。	本年度、コロナ禍においてほとんどの取組が実施できていないが、コロナ禍が収束すれば例年の取組を復活、継続させていきたい。また、コロナ禍においても、開催方法を工夫したり、ICTを活用したりするなどして、できる範囲で地域との交流をより活発にしていきたい。		
公民館（地域） 今年度も新型コロナウイルスの影響により、地域行事の多くは中止となってしまったが、地域についての学習や、「上秋津お気に入りの風景」への応募などを通して、地域について新しい発見をし、また、地域の良さを再発見することができた。今年度初めて開催された「上秋津子ども作品展」では、保護者だけでなく、広く地域の方に作品を見てもらうことができた。	今後、地域行事が再開した際に、スムーズに進めていけるよう、地域と学校が相互に協力できる体制を継続させていく。地域行事の内容について、地域と学校の負担にならず継続して行うことができるよう、学社融合推進協議会を中心に協議し、内容の変更や修正を行っていく。		

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
・第1回上秋津地域学社融合推進協議会より 「GIGAスクール」「SDGs」等の取組に協力していきたい。新型コロナウイルス感染症の影響で地域と学校のつながりが希薄になっているのを食い止めたい。できる限り通常の取組ができるようにしていきたい。まだまだできないこともあるが、以前の様な学校と地域の取組を行っていく。あいさつをよくしてくれるので、これからも学校で指導を続けていってほしい。学校の近くでは、車のマナーがいいようであるが、その他では悪いので交通安全について指導してほしい。先生に頼るのではなく、子ども自身で身を守れるような指導をしていってほしい。 ・第2回上秋津地域学社融合推進協議会より 新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたので、地域との取組を行っていきたい。全国学力学習状況調査の結果が小中ともに全国平均より低い結果であったり、小中ともにスマホ等を利用する時間が長く家庭学習時間が短かったりなど、保護者にも家庭学習の充実に協力してもらう必要がある。公民館主催の上秋津子ども展に協力をしていく。中学校の生徒数減少に伴う部活動の在り方に幼稚園、小学校の保護者の意見をいただいていく必要がある。中学校がどうしても部活動の運営が難しくなってくれば、募集停止する部活動があっても仕方がないのでは。今後、中学校の部活動に関しては引き続き協議を重ねていく。	
<b>特徴的な協働活動</b>	
高齢者施設『あきつ』へジャンボ暑中見舞い・ジャンボ年賀状 例年、生徒会福祉委員会のメンバーが地域にある高齢者施設『あきつ』を訪れ高齢者の方々との交流をしていましたが、昨年引き続き本年度も新型コロナウイルスの影響でできませんでした。その代わりとして、ジャンボ暑中見舞いとジャンボ年賀状を各学年で作り、委員長・副委員長が代表して施設に届けました。この取組を通して、字を大きく分かりやすく書くなど高齢者への思いやりの心を育てることができました。	
「上秋津お気に入りの風景」写真展 今年度も上秋津の夏祭りが中止されましたが、上秋津公民館が「上秋津お気に入りの風景」写真展を開いてくれました。本校でも呼びかけて何人かの生徒が作品を応募することができました。生徒が写真を撮ることを通して、地元上秋津の良さを感じることができました。	
「上秋津子ども作品展」への出品 例年、本校の文化発表会で生徒作品の展示をしていますが、文化発表会が保護者のみへの公開となったため、地域の方に作品を見てもらう機会がなくなっていました。そこで、公民館主催が上秋津農村センターで「上秋津子ども作品展」を開催してくれたので、文化発表会で展示した作品をそのまま出品し、地域の方に見ていただくことができました。生徒にとっても一般の方に見ていただくことで、地域とのつながりを持つことができました。	
上秋津公民館便りの「上秋津中学校からのお知らせ」、学校便りの配布 公民館便りに毎月、次の月の中学校の予定等を載せてもらって、中学校の取組が分かるようにしています。また、毎月の学校便りを公民館からの配布物とともに上秋津全戸に配布いただいて、中学校の様子をお知らせしています。	

**学社融合推進協議会活動報告書** 協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b>			
秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子どもたちを見守り育てようとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子どもたちが地域の方々と触れ合うことで、生徒は視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになるとともに、一緒に行動することで、地域全体の活性化に貢献している。また、地域の方々も学校行事や子どもたちとの活動を通して、コミュニティとしてのまとまりが保持され、各種お祭りや行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。			
目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にすることを育てる。</li> <li>・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・子どもたちに地域の人たちとの交流を通して、伝統文化等の様々な知識を教えていただき、地域への愛郷心を養う。</li> <li>・普段子どもたちと接する機会の少ない保護者以外の人たちに、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。</li> </ul>	
		<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>	<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋津川公民館</li> <li>秋津川町内会</li> <li>秋津川振興会</li> <li>秋津川春秋会（老人会）</li> <li>JA紀南秋津川店</li> <li>JA女性会</li> <li>秋津川婦人会</li> <li>秋津川小学校</li> <li>秋津川保育所</li> </ul>
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は、前年度に引き続き全て中止になった。しかし、体育参観日や、文化発表会での陶芸教室、中学生・小学生のみでの地域清掃、キャリア教育の実施など、取り組むことができた。</li> <li>・紀州備長炭記念公園での窯出し体験や、炭琴サークルさんに協力していただいた炭琴製作など、地域の文化を知り、体験することができた。また、今年度は秋津川振興会よりお声がけをいただき、「世界農業遺産」PRの一環で紀伊田辺駅で炭琴演奏をすることができた。</li> <li>・小中学校の連携については、感染症対策をしながらほぼ例年通り実施できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流を通じて、地域の良さを再確認し、それを大切にする心を育てるなど、本来の目標やビジョンを共有しながら、地域の方々と過ごす時間を効果的に活用できるようにしていきたい。</li> <li>・生徒自身が、地域の方々と関わりながら自分自身を見つめ直すことで、学校や家庭、地域での自分の役割について考え、責任感を高めるような指導をしていきたい。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、令和3年度も公民館主催の行事など、多くの地域活動が中止となり、地域と子どもたちが交流する機会は少なかった。しかし、紀州備長炭公園での釜出し体験などで地域の産業に触れ、田辺駅の炭琴の演奏などで地域の魅力を発信することで、より深く地域を知ることができた。</li> <li>・様々な活動に制限はあったが、学校の工夫により、地域と学校が継続的に関わることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動が再開した際に、地域と子どもたちの交流がスムーズに行われるよう、学社融合推進協議会を中心に地域と学校が連携できる体制を継続していく。</li> <li>・中学生が秋津川について学び、また地域の方と交流することで、地域の一員としての自覚を持ち、社会的な立場における行動力をさらに高められるように働きかけていきたい。</li> <li>・地域の高齢化が進み、既存行事の継続が難しくなると予想される。そのため、一つ一つの行事の内容について地域で協議し、持続可能な取組になるよう努めていきたい。</li> </ul>	

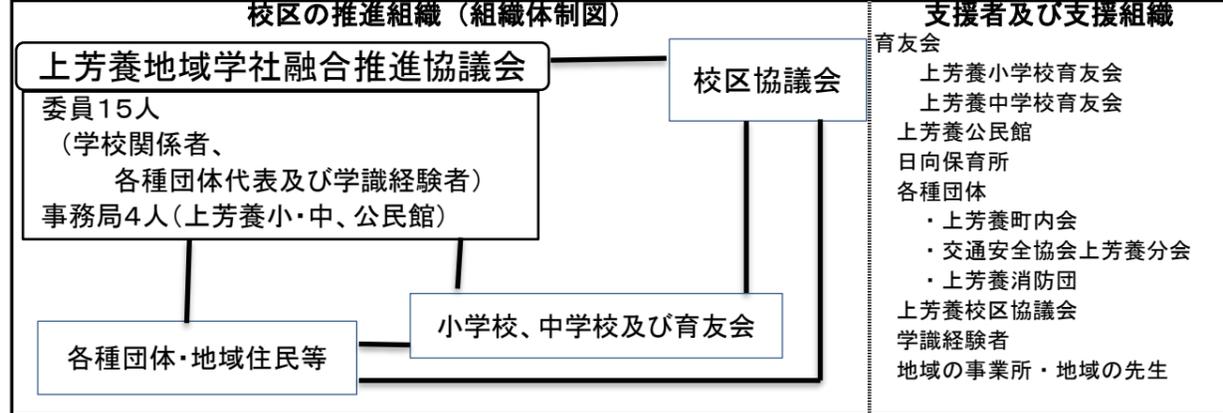
<b>今年度の取組内容</b>	
<b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の第1回学社融合推進協議会会議は、5月に予定されていたが、新型コロナ感染拡大防止のため紙上開催となった。会議で協議する予定だった項目は以下の通りである。また、今年度開催予定であった、秋津川公民館主催の町民運動会、敬老会、ふるさとまつり等は中止となった。</li> </ul> <p>&lt;議案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度スクールプランについて（秋津川小学校・秋津川中学校）</li> <li>・令和3年度年間計画案について</li> <li>・令和3年度会計予算案について</li> </ul>	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月22日（火）保育所、小学校、中学校合同避難訓練を行いました。地震が発生したという想定のもと、保育園児との接触は控え、避難先導する形でグラウンドまでの避難を実施しました。その後、消防士の方々からお話を聞き、消火活動、消化器の使い方等も教えていただきました。また、11月1日（月）には、小中合同の不審者対応避難訓練を実施し、今年度は小学校に不審者が侵入したという想定のもと、避難をすることができました。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日（水）秋津川振興会からの提案により「世界農業遺産」PRの一環で紀伊田辺駅で炭琴演奏を実施しました。また、炭琴サークルさんにご協力いただき、生徒が製作した炭琴と、全校生徒で協力して作ったちぎり絵の炭琴POPを駅構内に飾っていただきました。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月8日（月）秋津川春秋会（老人会）との地域清掃作業は、コロナ禍によって前年度に引き続き中止となりましたが、小学校5・6年生と中学生で、地区ごとに分かれ日頃からお世話になっている地域のために清掃作業を行いました。また、ウバメガシの植樹を行う活動の一環として、清掃活動中にどんぐり拾いも行いました。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月19日（金）文化発表会を実施しました。保護者や地域の方々にもお越しいただき、作品展示や合唱・炭琴演奏、学年の発表など、日々の学校生活での取組の成果を見ていただくことができました。また、大倉教由さんを講師として陶芸教室も実施し、生徒とともに地域の方々にも事前に参加者を募り、一緒に陶芸体験を行うことができました。</li> </ul>	
<p>&lt;文化発表会及び陶芸教室に参加された地域の方々の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを通して、皆の活動や取り組んでいる姿はとても輝いていました。とても感動しました。学年を越えてひとつになれているのがとても良かったです。炭琴演奏、合唱、発表とてもすばらしかったです。・スライドショーを見せて頂き感動しました。コロナ禍で何かと制限がある中、たくさんの行事をし、良い思い出ができたと思います。炭琴演奏は堂々と発表でき、演奏の姿勢も良かったです。十人、力を合わせての発表会、本当によかったです。</li> </ul>	

学校・園名	田辺市立上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
-------	------------	------	--------

**学社融合における学校・地域の様子**

自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に見守られながら学校生活を送っている。小・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。公民館は、子どもが対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会・文化祭を開催したりして、地域の交流を図っている。

目 標	学校・地域	<p>&lt; 学校 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。</li> <li>○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする児童生徒を育成する。</li> <li>○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。</li> </ul> <p>&lt; 地域（公民館） &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子どもたちの地域理解を深める。</li> <li>○学校と地域との連携を密にして子どもたちの健全育成を図る。</li> <li>○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。</li> </ul>
--------	-------	--



**成果と課題（学校・公民館からの視点）**

	成果	課題
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農事体験学習により、働くことの大切さや意義を学ばせることができた。地域の産業（梅産業、農産業）を通じて郷土愛を育んだ。</li> <li>・地域貢献活動では、教科横断的な取組の中で思考を深めることができた。</li> <li>・地域との関わりの大切さを学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組を学校だけでなく、地域と様々な行事等で関わりを持つことで新たな価値を見出すなど、地域の方々とより一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。</li> <li>・総合的な時間を見直し、さらに充実させ継続していきやすい系統立てた取組にする。</li> <li>・生徒自身が学びを振り返り、次の学びに繋げていけるような、深い学びとなるよう工夫改善をする。</li> </ul>
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種事業を行うことで、地域の大人と子どもたちの世代間交流をはかることができた。</li> <li>・文化発表会等、生徒たちの学習の成果を地域の方々に発表する場を設けることで、教育への地域の関心を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もより多くの生徒たちに様々な地域活動に参加してもらえるように、創意工夫していく。</li> <li>・地域課題を学校・地域で共有し、解決していくためにより一層連携を強化していきたい。</li> </ul>

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）**

**\* 第1回 定例会** 新型コロナウイルス感染症予防のため文書決裁  
**\* 第2回 定例会** （令和3年7月9日）  
 ・梅アピール大作戦等の紹介  
 ・今後の活動について・・・地域を中心とした職場体験について  
 ○今年度は、コロナ感染症防止のため年度当初、学校と地域が連携がしにくい状況であったが、後半は予定通り行えた。今後さらに生徒の家庭や社会生活に目を向け、学校生活とリンクさせ、互いに相乗効果が出るような取組を考えていきたい。  
 ○登下校時、交通安全について生徒の見守り活動についてはもちろんのこと、近年では、野生動物（さる、クマ）についての情報交換もいただき、必要に応じて見守りを行った。  
**\* 第3回 定例会** （令和4年2月予定）  
 ・活動のまとめ、次年度の取組について ・学校評価について

**特徴的な協働活動**

○「農事体験学習」を通して、生徒たちに働くことの大切さ、意義についての学習ができた。  
 ○JA中芳養支所において体験活動に取り組むことができた。  
 ○小学校・中学校・公民館・地域サークルと連携した取組（卓球・ファミリーバドミントン・ソフトバレー）にも参加し、地域・生徒・教員ともに親睦を図り、上芳養地域学社融合推進協議会としての活動を充実させていきたい。  
 ○生徒会主催の「地域清掃活動」にも地域の方に参加いただき、生徒の郷土愛を育む活動ができた。  
 ○「校内マラソン大会」の道路交通安全見守り、「文化発表会」への参観など、学校行事へ積極的に参加していただいた。  
 ○「職場体験学習」でジビエ関係の職場訪問・体験協力を得られた。  
 ○「ころころ山さん」読み聞かせを本年度9月より再開することができた。  
 ○「キャリア・進路学習」として田辺市地域おこし協力隊・田中和広さんのご協力により、将来の進路についての講演を行っていただいた。



学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>「地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子どもの育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしたい取組を公民館と連携して進めている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。</li> <li>幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。</li> </ul>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>中芳養公民館</li> <li>中芳養幼稚園</li> <li>中芳養小学校</li> <li>J A 紀南芳養谷支所</li> <li>中芳養地区老人会「芳寿会」</li> <li>中芳養町内会</li> <li>中芳養地区消防団</li> </ul>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症感染予防のため、地域との交流行事は中止、または規模を縮小したかたちで行った。「和の心の授業」は、今年度も実施することができた。中芳養合同作品展においては、2年ぶりに開催することができ、本校の取組の成果を地域に発信できたことは良かった。また、地域の方々の活動を知ることもできた。幼稚園・小学校・中学校・公民館による「中芳養地域連絡会」は今年度も実施することができ、交流を深め連携を図ることができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、各行事が中止または制限のある中での開催となったが、それぞれの行事を見直す機会となった。今後、2年間開催できなかった行事については、来年度以降どのようなかたちで再開していくか議論を重ねる必要がある。地域行事が少なくなり、地域と学校とのつながりが弱くならないようにしていく、工夫した取組が必要であると思われる。今後も、幼稚園・小学校・中学校・公民館の連携を進め、交流を深めていきたい。</p>	
公民館（地域）	<p>地域活動に対する子どもたちの積極的な参加が見られた。これにより、子どもたちと地域の方々の交流を図ることができた。地域で子どもたちの学習の成果を発表する機会をもつことにより、子どもたちの学校での様子を地域で共有することができた。</p>	<p>地域活動に、さらに多くの子どもたちに参加してもらえるように工夫・改善していきたい。地域の方々との連携を強化し、より強固な学校・地域の協力関係を構築していきたい。</p>	

今年度の取組内容		
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）		
<p>第2回協議会（会場：中芳養中学校）</p> <p>本年度G I G Aスクール構想により、生徒全員に一台ずつのタブレットが配布された。そこで、旧コンピュータ室を3年生のアイデアをもとに、新しい図書室にリニューアルすることに取り組んだ。公民館主事を通して、田辺市立図書館と連携を図った。3年生が考えた「誰もが楽しめる図書室」をコンセプトに、生徒目線による全く新しい図書室「みらい」が完成した。</p> <p>11月11日の開館日には本校で第2回協議会を行い、学社融合推進委員の方々に新図書室を見学してもらった。委員の方々からは「生徒が主体となることで図書室の利用が進むといいですね」「放課後に生徒が学習できる環境がよい」「今後様々な活用の幅が増えるのでは」等の感想や意見をいただき、今後の活用方針の参考となった。</p>	<p>生徒提案の様子</p> <p>新図書室みらい</p>	
特徴的な協働活動		
和の心の授業（書道・華道・茶道）		
ねらい：日本の伝統文化に触れながら、自らの心と静かに対峙し、心豊かな人生の素地を形成する。周囲の人をもてなす生活態度や習慣を身に付ける。		
夏期休業中	講師依頼と日程調整を行い、授業の流れ等の共通理解を図った。	
書道 (6時間) 10月18日～ 11月5日	線崎征四郎先生を講師にお招きし書道に取り組んだ。今年度は「一字」を2つ、「二字」「四字」の全部で4つの書きたい文字を生徒が事前に選び、各2時間ずつ練習及び清書を行った。生徒たちは落ち着いた様子で、ていねいに書いていた。また、その中から1人2文字を「中芳養祭」「中芳養合同作品展」で参観者に披露した。	
華道 (6時間) 11月5日～ 11月20日	西野ゆかり先生を講師にお招きし、フラワーアレンジメントに取り組んだ。1回目の授業では(2時間)トライアンレギュラー、2回目の授業ではドーム型のアレンジ方法を教えていただいた。生徒たちは、花のバランスを整えつつ形を綺麗にすることに苦戦をしていたが、それぞれ満足のいく仕上がりととなった。3回目の授業では生徒はどちらかの方法を自分で選んでアレンジを行い、その作品を「中芳養祭」で参観者に披露した。	
茶道 (4時間) 11月8日～ 11月16日	八木幸子先生を講師にお招きし、茶道の授業を行った。歩き方やお辞儀の仕方、お茶の出し方、受け方、飲み方、立て方等、茶道の基本的な作法を教えていただいた。生徒たちは、回数を重ねるごとにスムーズに動けるようになってきた。新型コロナウイルス感染症の影響で「中芳養祭」でお茶を振る舞うことはできなかったが、授業風景を動画で流し、活動の様子を見てもらうことができた。	
1年生の書道の授業	2年生の華道の授業	3年生の茶道の授業
中芳養祭（モザイクアート・全校合唱）		中芳養合同作品展

学校・園名	田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 校区が旧龍神村全体である本校は、3台のスクールバスを所有し、全校生徒の約65%がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）へ出かけ学習する場を多く設定したりするなどし、外部人材を有効に活用する教育活動に取り組んでいる。			
目 標	①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②PTA、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③地域での体験活動の実施、地域から講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<pre>                     graph TD                         A[龍神中学校学社融合推進協議会 (委員7名)] --&gt; B[地域]                         A --&gt; C[公民館]                         A --&gt; D[各小学校]                         A --&gt; E[PTA]                         B --&gt; F[学校運営・教育活動]                         C --&gt; F                         D --&gt; F                         E --&gt; F                 </pre>		学社融合推進協議会 ○龍神中学校PTA ○龍神公民館・各分館 ○学校支援者 その他の関係機関 ○田辺市社会福祉協議会 ○龍神行政局 ○NPO「みらい龍神」	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成 果		課 題	
学 校	・外部講師を授業に招聘することにより、生徒の「学びに向かう力」がより高まった。 ・生徒の学びの場を校区やさらに広域な地域に求めることにより、より教育効果を高める学習を展開することができた。 ・生徒が、清掃活動やリサイクル活動に取り組むことにより、達成感を感じることができ、自己有用感の高揚につながった。 ・地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。	学 校	・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中であっても継続していける持続可能な取組を工夫しなければならない。 ・各教科の授業に招聘する新たな外部講師の確保に努めていきたい。 ・生徒が、地域の活動や行事により積極的に関わり、多くの人々と交流することにより、生徒の社会性を高めたい。
公 民 館 （ 地 域 ）	・地域の方々、清掃活動やリサイクル活動を通じて生徒と交流することにより、地域の人々にとって学校の教育活動がより身近なものに感じられるようになった。 ・リサイクル活動などの取組が継続して行われていることにより、取組に協力することが地域にとっての「当たり前」になってきている。 ・学校行事・取組への参加が交流の場となり、コミュニティが形成されている。	公 民 館 （ 地 域 ）	・学校行事や学社融合の取組を継続して進めていくには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。また、地域の人口減少と高齢化が進む中で、持続可能な仕組みの構築を地域全体で考えていくことが求められている。

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
①保護者・地域の願いについて ○生徒の学力の向上 ○生徒の「豊かな心」と「健やかな体」の育成 ○部活動の取組の充実 ○生徒にとって楽しい学校生活の実現 ②生徒の実態 ○素直で真面目な生徒 ○部活動等に意欲的に取り組む ○あいさつができる ○SNS等を利用する時間が長い ③学社融合の活動を通してどんな生徒を育てていくか ◎ふるさとに誇りを持ちながら、新しい時代を拓き、たくましく生きる生徒 ④「めざす生徒像」を実現するための取組をどう進めていくか ◎生徒が地域に出て、地域の住民とともに活動 ◎生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる取組	
<b>【環境を守るための奉仕活動】</b> (1) 地域清掃ボランティア ◎内容：地域の避難所に指定されている休校・廃校した校舎の清掃活動 ◎日時及び場所 ・7月12日（月） 旧殿原小学校（2年生による清掃活動） ・7月13日（火） 旧甲斐ノ川小学校（1年生による清掃活動） ・7月15日（木） 旧大熊小学校（3年生による清掃活動） ◎協力者 ・学社融合推進委員 ・龍神行政局住民福祉課 ◎生徒の感想	
地域の方が安全に避難所が使えるように大熊小学校を清掃しました。掃除をしていくうちに雨が強まってきて、体育館の渡り廊下は水であふれてきて、ほうきもぬれてしまいすごく大変でした。一生懸命にすることで大熊小学校をきれいにすることができたので、達成感が得られました。（3年生）	
(2) 校区全域の古紙・古着回収 ◎内容：学校・PTAが協力して行う古紙古着の回収 ◎回収日：5/30(日) 10/31(日) 2/27(日) ◎回収物：新聞・雑誌、ダンボール、古着 ◎回収方法：回収場所を3か所設置して回収する ◎協力者：学社融合推進委員・地域住民	
<b>保護者の方から</b> 仕事先で出会った方が、一枚の紙を見せてくれました。その方は、古紙回収の時、「いつもありがとうございます。今日もよろしく願います。」と書いた紙を古紙と一緒に置いたそうです。古紙が回収されたかどうか確認に行くと、メッセージを書いたその紙に、「ありがとうございました。」と中学生が返事を書いてくれました。メッセージを受け取った方が、「涙が出るほどうれしいことがあった」と話をしてくれたので、連絡させていただきました。その方の気持ちを中学生にお伝えいただけたらと思います。	

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 学社融合の会議では、学校と保護者・地域の方とのより発展的な関りや、結びつきが強まるよう協議を重ねた。少子化が懸念される将来の中学校の在り方についても考え、会議では大変熱心に議論が行われた。本校の生徒数は少人数ながらも、保護者や地域の方々に温かく見守られながら学校生活を過ごしている。学校においては、新型コロナウイルスの影響で、地域の方々と例年ほどの積極的な交流はあまりできなかったが、可能な範囲で地域の皆様に協力してもらえりる行事を行った。			
目 標	学校・園・地域 ・家庭、地域が持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切に取組を進める。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
田辺市学社融合推進協議会規則に基づき設置 		・田辺市中辺路町社会福祉協議会 ・熊野の森ネットワーク ・いちいがしの会 ・JA紀南 ・中辺路生活研究グループ ・中辺路町観光協会 ・田辺消防署中辺路分署	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
学校	・地域の方々の教育力を生かし、様々な行事や活動を行えた。本年度も、学校と地域が良好な関係を築けている。取組を通して地域との連携を深め、地域の方々の学校教育や生徒に対する理解や関心が高められたようだ。 ・地域の方々との関わりによって、学校の中では経験できない社会性が生まれ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。 ・地域の伝統をはじめ、様々な技術の共有や交流ができた。	・今年度も、新型コロナウイルス感染対策により、体育祭や文化発表会等においては、地域の方々を学校に招待できなかった。しかし、参観は家族の方限定とする等、その時々に応じた対応を行っている。情勢を見ながら工夫をし、可能な範囲で地域の方を招くことが課題となる。 ・来年度も、社会情勢を見ながら行事を充実させていくことが必要である。今できることに目を向け、持続可能な取組を考え、この機会を前向きに捉えてより発展的に地域との交流を図っていく。	
公民館（地域）	・生徒による花いっぱい運動で育てた苗は、地域の方々に配ることで、地域とのつながりを広めている。地域の方から頂く感謝の言葉によって、生徒は自尊心を高め、地域に貢献できているという達成感を味わっている。中辺路地域の方と学校が互いに誇れる活動を通して、その交流が地域の環境美化意識を高めることにも繋がっている。	・公民館として学校で取り組んでいる学習活動に、地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらえりるよう、サポートしていきたい。 ・花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会を通じて、地域の老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
①【夏の整備作業中止】 昨年に続いての中止であった。本年は実施する方向で諸準備に取り組んでいた。コロナの流行が地域にも迫ってきている時期と重なり、再協議が必要となった。会議では、学社融合推進協議会会長、育友会会長と協議し、小学校の意見も聞き、調整を図った。会議では、実施が見送るかが論点であったが、今後も、この状況が続くと考え、引き続きコロナの状況を注視し、地域と密に連携をとりながら、協議を重ねて決定していくこととした。	
②学社融合推進協議会委員が、これまで以上に学校行事に関われるように話し合いが持たれた。 コロナ禍であり、体育祭・文化祭の参観は、家族のみとしていたが、予行練習の際に学社融合推進協議会会長を招き、生徒の活躍の様子を参観していただいた。	
特徴的な協働活動	
【森林ボランティア】	【JAへどんぐりの苗の寄贈】
森林ボランティアでは、熊野古道をいちいがしの会の方と歩き、学校で植えるどんぐりの実を拾った。熊野古道について詳しく解説をしていただくほか、ペースに遅れた生徒の支援にもあたってもらった。2年間かけて育てた苗をJAに寄贈した。人工的な植樹により、自然を取り戻す取組は、SDGsを身近に考えさせる良い機会となり、生徒それぞれが達成感を味わえた。そして、この取組を持続した取組にしていきたいと誓い合った。	
1 学期・花いっぱい運動 中辺路町公民館と連携「種まき」「苗育て」「地域の方への配布」	
2 学期・森林ボランティア学習 熊野の森ネットワークいちいがしの会・JA紀南と連携 【森林学習】紀伊半島の照葉樹林を学ぶ 【校外学習・滝尻王子～高原・どんぐり採集】 【育苗（ボランティア寄贈用）】 ・福祉学習／福祉体験 田辺市中辺路町社会福祉協議会 南紀支援学校と連携【来校し手話で会話】 ・ジビエ料理の調理実習 中辺路生活研究グループ【シカ・イノシシの調理】 ・和装体験 町内在住の講師先生 中辺路観光協会【和服ゆかた】	
3 学期・田辺消防署中辺路分署 【火災非難訓練・煙体験】	

学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b>			
<p>伝統的に学校と地域の結びつきが密である。学校と地域が一体となって取り組む行事が多くあり、中学校も実行委員会に入り一翼を担い、生徒・職員ともに主体的に参加してきた。例年の取組としては、「近野区民体育祭」。地域の方の協力で、年間を通じてのお米作り。出来上がったお米を「近野まるかじり体験」で、お餅つきをし販売。また、地域にある旅行会社「奥ジャパン」との連携でアメリカンファミリーとの交流・英語語り部等があげられる。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今年度は、米作りと、昨年度の地域マップ作り等の取組をSDGsにからめながら、新たな取組を展開した。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。</p> <p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での活動を通して地域を知る。</li> <li>・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。</li> <li>・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。</li> </ul> <p>(地域)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。</li> <li>・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。</li> </ul>	
		<p><b>校(園)区の推進組織(組織体制図)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>近野まるかじり体験 実行委員会</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>中辺路公民館近野分館行事実行委員</p> <p>⇕</p> <p>近野地域学社融合推進協議会</p> <p>⇕</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>近野区民体育祭 実行委員会</p> <p>敬老会 実行委</p> <p>近野フェスティバル・文化祭 実行委員会</p> </div> </div> <div style="width: 30%;"> <p>マ熊 ラ野 ソ古 ン道 実近 行野 委山 員間 会</p> <p>・九乗氏・前氏・久保氏 ・岡上氏・尾中氏 ・多禰氏・三栖氏 ・古久保氏 ・まるかじり体験実行委員会 ・J A女性会 ・近野振興会 ・公民館近野分館 ・奥ジャパン 等</p> </div> </div>	
<b>成果と課題(学校・公民館からの視点)</b>			
<b>成果</b>		<b>課題</b>	
学校	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年実施している餅つき、アメリカンファミリーとの交流、熊野古道英語語り部などができなかった。</p> <p>しかし、「今年度の取組内容」の欄に示したように、昨年度より開始した、新たな取組(今年度はSDGsもからめながら)を通して、生徒たちはより地域を知り、地域の伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てることができたと思う。</p>	<p>本年度の取組も、大変充実したものであった。一昨年度までの取組も、大変良かった。一昨年度までの取組と、昨年度からの新たな取組をうまく融合させ、無理のない取組にしていく必要があると思われる。</p>	
公民館(地域)	<p>本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校と地域住民が連携した従来の取組ができなかった。しかし、学校とは常に連絡を取り合った。また、学校便りの全家庭配布により、地域の伝統や文化に関連した新たな学校の取組状況を伝えることができた。</p>	<p>生徒数が少なくなっている中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。今のような状況が続いた場合でも、どのように学校と地域と連携した取組をしていくか考えていきたい。</p>	

<b>今年度の取組内容</b>	
<b>会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)</b>	
<p>・新型コロナウイルスの影響は2~3年はあると思われるので、地域と連携した従来の行事等は今年も制限したものにならざるを得ないだろう。しかし、生徒たちが作成した近野マップの配布を地域の事業所と連携して実施したり、地域の専門家をお招きして草木染体験を実施したりするなど、コロナ禍において新たな取組を進めていることは大変価値のあることである。マップ印刷費として、地域の方々からご寄付をいただいたこともありがたいことである。</p> <p>・学校周辺の草刈りは、地域の方々が大勢参加してくださり、大変ありがたい。</p> <p>・学校だよりの全戸配布も常会の協力があがり、大変ありがたい。</p>	
<b>特徴的な協働活動</b>	
<p>1、昨年制作した『ちかのマップ』(地域を紹介する動画が見られるQRコードつき)の配布活動(近露・野中、田辺市内)生徒はグループに分かれ、地域の方にマップの使い方を説明して、マップを事業所に置いてくださることへの感謝の気持ちを伝える。</p>	
 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">地域マップ配布活動</div>	
<p>2、地域の方をゲストティーチャーにお迎えして、草木染め(玉ねぎ染め)の体験学習とSDGsについて考える機会をもった。</p>	
 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">玉ねぎ染め、完成!</div>	
<p>この後、天然染料と化学染料の違いについて考え、『染色汚染の無害化を切り拓く最先端の草木染め』の研究をされている大学の専門家の先生のリモート授業を受けた。</p> <p>・海洋汚染に関する講義を聞いて、改めて地域の環境保全について考えました。【生徒感想より】</p>	
<p>3、近野地区の環境保持活動 ” KYSGs プロジェクト” (Keep yourself to sustainable goals ~持続可能な目標達成のために、あなたの行動を続けてください~ というスローガンと3キャラクターの頭文字をとって決定) 生徒会を中心に、生徒が主体的に取り組んでいる。以下のようなプロジェクトを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆エコバッグ作り 近野キャラクターのアイロンプリントをほどこす。</li> <li>☆エコうちわ作り 近野キャラクターのイラストを印刷した紙を貼り付ける。参観日に保護者に配布、地域の方にも配布予定</li> </ul> <p>☆近野クリーン作戦 近野地区を清掃</p>	
 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">近露王子清掃</div>  <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">近野クリーン作戦</div>  <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">エコうちわ</div>	
<p>4、地域を紹介する動画 昨年に引き続き、地域PR、近野中のKYSGsの取組を紹介する動画作成</p>	
<p>5、今後の取組 SDGsの目標、ナンバー17の「パートナーシップで目標を達成しよう」では、生徒、教職員と地域の方も一緒になって、環境を保持することを目指している。今後ももっと、地域の方にも働きかけていく予定。</p> <p>また、マップのQRコードから動画を見てくれた方、熊野古道を歩きに来てくれた観光客の方々にも、一緒に持続可能な地球を守ろうと呼びかける。</p> <p>近野地域一丸となって、この近野地域の素晴らしい自然と環境を守り、また、世界中にパートナーを作り、この近野地区のような取組を広げていき、SDGsの目標を達成していきたいと考える。</p> <p style="text-align: center;">近野から世界へ!! Keep yourself to sustainable goals!</p>	

学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。			
目 標	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子どもクラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議大塔地区協議会	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成 果		課 題	
学 校	・消防署と連携した訓練、保育園との合同避難訓練を実施した。災害時の対応について、シェイクアウト訓練を取り入れ、実戦さながらの体験を行った。 ・図書ボランティアさんのサポートにより、図書室の整備が進み、本を借りやすい、読みやすい環境が整えられている。 ・大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。 ・コロナ禍で昨年実施できなかった「選択交流学習」「リフレッシュ大作戦」を実施することができた。	・災害が起こった時に、中学生が中心となるため、動きの確認や役割分担を明確にしておく必要がある。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている生徒は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。	
公 民 館（地 域）	・前半は、新型コロナウイルスの影響により、事業等が十分に実施することができなかったが、後半は、少しずつ再開することができ、昨年以上に事業を展開することができた。 ・小中学校合同事業（リフレッシュ大作戦、選択交流学習等）によって、地域住民の方々と交流の促進とともに、集団を束ねる力を育むことができた。 ・学校図書館の運営ボランティアを通して、地域住民と一体になって、子どもたちにとって安らぎの居場所を提供することができた。 ・生徒の登下校の安全確保として、通学路（特に横断歩道）の点検・整備について検討している。	・事業によって育まれた力を生かせる場を考えていきたい。 ・コロナ禍の中でも、工夫して事業を展開できているため、この取組を継続し、より一層、地域住民と子どもたちの関係を親密にしていかなければならない。 ・SNSの危険性やトラブルが増加しているため、生徒と保護者が一緒になって学習する機会が必要である。	

今年度の取組内容  
 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ・大塔地域の小中学生の様子や地域の課題等の意見交流では、「挨拶する子供が増えている」「子供だけの川遊びは危険である」「学校が把握しているヤングケアラーの実情を知りたい」等の意見が出た。
- ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、多くの活動が中止となった。会議が行われた6月時点でも、まだまだ先が読めない状況であり、行事の中止も検討されたが、縮小した形でも実施していく方向で計画していくことを確認した。
- ・登下校時、児童生徒は信号の変化からさっと渡ったり、車が一旦停止した時に会釈したりするのは気持ちがよい。
- ・中学校のビブリオバトルに、図書ボランティアや委員にも声をかけていく。
- ・中学校文化発表会で、統合前の鮎川中学校・富里中学校・三川中学校の校歌を全員で歌って披露する。
- ・大塔リフレッシュ大作戦の実施に向けて話し合い、地域をきれいにするだけでなく、児童生徒と地域の交流も目的とすることを確認した。
- ・情報伝達の手段として、ツイッターの運用を開始する。
- ・宇立地区の落石防止ネット設置が決定した。

特徴的な協働活動

○選択交流学習

・コロナ禍の影響で昨年実施できなかった「選択交流学習」を今年度は実施した。地域の方々にGTを務めてもらい、中学1年生がサポート役を務め、7年生として小学生のリーダーとして活動する場を設けることができた。  
 また、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。  
 ●大塔探訪：歩くのは少し疲れたけど、大塔のことを知ることができてよかった。  
 ●グラウンドゴルフ：地域の人にコツを教えてもらいながら、楽しくプレーできた。  
 ●木工：司会など、自分たちで進めるのはとても難しかったし、緊張した。



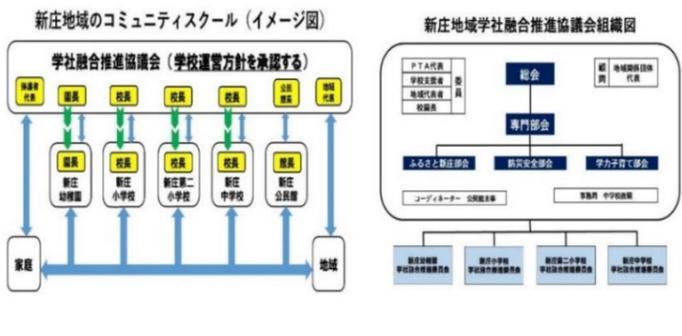
○大塔リフレッシュ大作戦

・コロナ禍の影響で昨年実施できなかった「大塔リフレッシュ大作戦」を実施しました。大塔リフレッシュ大作戦では中学3年生が企画・運営し、小学校、大塔CS、地域と連携して取り組むことができました。また、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができました。そして、中学3年生が地域の最上級生である9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらう機会となりました。  
 ●明日は大塔リフレッシュ大作戦が2年ぶりになるので、たくさんゴミを拾いたい。中学生として、小学生を引っ張っていきいたい。2・3年生の行動をよく見て、来年も同じように引っ張っていきいたい。明日はたくさんゴミを拾いたい。  
 ●今日は、地域のゴミをたくさん拾った。今まで気付かなかったゴミも、リフレッシュ大作戦を通して拾い、地域がとてもきれいになった。また、地域の人ともふれあった。  
 ●富里小学校や竹ノ又周辺を掃除した。思った以上にゴミが多く驚いた。少しでも、自分の住んでいる地域を自分たちできれいにするのができて良かった。



学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本宮地域では、共育コミュニティといわれる以前から各学校において地域人材交流を実施し双方の連携が定着している。平成23年度からは「音無の里共育コミュニティ事業」として小中3校と全地域が一体となった「地域を活かした学社融合」の取組を行い、現在も継続している。</p>			
目 標	<p>平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続している。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめ直していく。</p>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		<p>育友会 学校ボランティア 熊野本宮語り部の会 熊野本宮伝統芸能教室 女性会連絡協議会本宮支部 世界遺産熊野本宮館 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ 本宮プロバスクラブ</p>	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回行っているボランティア定例会では、地域の方から学校外での生徒の活動の様子を教えていただくこともあり、情報交換の場としても良い機会となっている。</li> <li>総合学習や家庭科等でも地域の方がボランティアやゲストティーチャーとして関わってくれることで、学習意欲が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在行っている活動を継続しながら、さらに地域とのつながりを深め、地域の方に学校の活動に関わっていただけるよう、働きかけをしていく。</li> <li>総合的な学習の見直しをはかり、学習意欲の向上や学習を深める手立てにつながるような活動を計画していく。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症により、活動自体を制限せざるを得ない状況になったが、規制が段階的緩和されてから支援活動の取組を行うことができた。</li> <li>学校教育に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場ができ、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。</li> <li>子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。</li> <li>学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。</li> </ul>	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。</li> <li>第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等</li> <li>学社融合の活動を通じて、子どもたちに地域の事や人を知ってもらい、本宮を自慢できるような町づくりに取り組んでいく。</li> <li>委員から意見 「学校は地域の人が入りやすい環境を作ってくれている」 「子どもたちが、本宮が好き、住みたいと言える町にしていきたい」</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
<p>○プランターの花植え、配布・回収の活動</p> <p>地域の皆さんとともに、花を植えたプランターを国道沿いを中心に配布し回収する活動を続けています。この活動は地域の方と中学生による紀伊半島大水害の復興活動として始まり、現在は本宮を訪れる方々をおもてなしの気持ちで迎える景観美化活動として継続しています。学校ボランティア、女性会等の皆さんと一緒に土づくりや花植えを行い、本宮プロバスクラブの皆さんと一緒にプランターの配布、回収作業を行っています。</p>	
<p>・プランター回収作業…5月28日（1・2年生）</p> <p>プランターを運んでくれる車の運転手さんと打合せをしてから回収に行きます。</p>	
<p>・土づくり作業…12月8日（全学年）</p> <p>女性会の方に教えていただきながら、古くなった土を篩にかけ、肥料を混ぜてからプランターに入れます。</p>	
<p>・花植え（1・2年生）、プランター配布（3年生）…1月</p>	
<p>○熊野古道道普請 …12月20日</p> <p>旧三里中学校が行っていた活動を統合後の本宮中学校が引き継ぐ形で実施しています。今年度は、熊野本宮語り部の会・世界遺産センター・本宮公民館の皆さんと道普請を行いました。</p>	
<p>【成果】プランターの回収や土づくり作業、熊野古道道普請等は、生徒たちの活動の様子を地域の方に知っていただく機会となり、生徒たちにとっても達成感を感じられる活動となった。</p>	

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。			
目 標	学校・園・地域 田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 新庄幼稚園 ○地域とのつながりを大切に、地域に開かれた園運営(保育の公開や参加型の保育)を展開し、地域の方の幼稚園理解を深める。 ○地域の人、自然、文化との出会いやふれあいを大切に、ふるさと新庄が大好きな子どもを育てる。(親世代も巻き込んで) ○応答性のある関係づくり、互いにメリットのある活動を大切に、地域の中の幼稚園・子育て支援の核となれるよう努める。		
	校(園)区の推進組織(組織体制図) 	支援者及び支援組織 学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部 新庄幼稚園(おまつりごっこ) ・ 地域や民生委員の方々 ・ グラウンドゴルフの方々 ・ 保護者 ・ 未就園児と保護者 ・ つながりのあるの方々	
<b>成果と課題(学校・公民館からの視点)</b>			
成 果		課 題	
学校 コロナウイルスへの感染症対策を徹底しながら、園外との交流を増やしてきた。そのため、園外への散歩に出た際に声掛けをもらい、園児と地域の方との触れ合いが生まれた。地域との交流が全くなかった去年に比べると、少しずつではあるが、交流できる機会が増えてきて、子どもたちも楽しみにしている。	コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、少しずつ地域の方と交流できる機会が増えてきている。しかし、回数が少ないためより深い関わりができないのが現状である。そのため、少しでも多くの機会を設けたいと思う。また、様々な方と交流をすることで、子どもたちの経験を増やしていきたい。		
公民館(地域) 昨年度に引き続き、積極的な活動が難しい1年であったが、感染予防をしつつ、園内で取組が行えるような工夫や子どもたちが楽しめる内容で行われた。子どもたちが、地域の方から伝統行事等について学ぶことで、地域についての関心を少しながら高められた。	コロナ禍により、途切れてしまった活動等を途絶えさせるのではなく、再開できるように方策を検討していく必要がある。また、こうした状況でも積極的な活動を目指し、園と地域互いの状況が知れる工夫をしていきたい。		

**今年度の取組内容**  
**会議で協議した特徴的な事項(学校運営協議会)**

第1回学社融合推進協議会総会・部会

- 各園・学校のスクールプランを説明し、学社融合推進協議会総会で承認を得た。
- 「ふるさと新庄部会」「防災安全部会」「学力子育て部会」で情報交流をした。
- 昨年度開催できなかった講演会を、今年度は是非開催したい。

第2回学社融合推進協議会総会・部会

- 総会・部会で現状について、情報交流をした。
- コロナ禍の状況でも、感染症対策をしながら研修会などの相互公開を進めていく。

新庄幼稚園学社融合推進委員会(会則11条に則った新庄幼稚園単体の委員会)

- 園児数が減少する中で、新入園児確保の取組について相談した。
- 新庄幼稚園の教育環境や教育内容の良さをもっと知ってもらうようにする必要がある。
- 現在の社会情勢では、入園前に自宅で待機している園児が激減している。

学社融合推進協議会 子育て教育講演会

- スクールカウンセラー上野氏の子育て講演、38名の参加
- 子育ての中で子どもへの関わり方についてご示唆いただいた。

---

**グラウンドゴルフの方との交流**

◎ねらい  
・グラウンドゴルフを通して地域の方との関わりを楽しむ。

サークルの方々が練習している時に、子どもたちが園外に出てお散歩に行けば、『どこへ行くん？』と声掛けをいただきました。子どもたちは、「おさんぽ！いってきまーす！」と触れ合う機会がありました。

サークルの方々との交流会があることを知り、楽しみにする。

どんな道具が必要かを友達と話し合いながら考える。

必要な物を用意して交流会ができるように準備する。

自分たちで準備を進めて、来てくださるのを楽しみにする。

楽しみにしていたことを言葉で伝える。

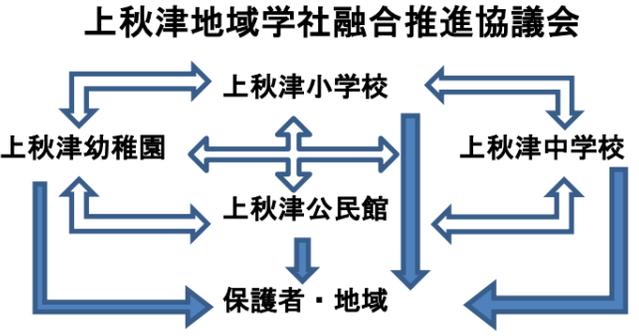
持ち方や打ち方を教えていただきながら、グラウンドゴルフに挑戦し、「できた！」という達成感を感じ、地域の方と触れ合う。

○次年度に向けて  
今年度は、昨年に比べて地域の方と触れ合う機会を少し持てた。しかし、行事に参加していただける機会がなく、より深い関わりができなかった。社会の状況を考えてながら行事や普段から幼稚園と地域とのつながりを大切にしていきたい。



学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>三栖地域は、梅やみかんなどの栽培が盛んな地域である。しかし、近年は新興住宅やマンション等が増え、農家の数も減少してきている。そうした中、保護者・地域の方々は園の活動に協力的である。本園では、友達とのつながりを大切に保育を充実させ、地域の方々のやさしさや温かさにふれることで「人が好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。</p>			
目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と触れ合い、人のやさしさや温かさに触れ、人と関わる喜びや楽しさを味わう。</li> <li>・日常的な温かい関係作りができ、地域に支えられ、地域に根づいた園経営を目指していく。</li> <li>・地域と連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子どもを見守っていく意識を高める。</li> </ul>	
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 推校園 進校・ 協推・ 議協 会議 会	会 長 （ 公 民 館 長 ）	副 会 長 （ 町 内 会 長 ）	委 員          事 務 局
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係者</li> <li>・保護者</li> <li>・校園長</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館主事</li> <li>・小学校教頭</li> <li>・小学校学社融合担当職員</li> </ul>	
		保護者 三栖公民館 三栖小学校 衣笠中学校	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
成果		課題	
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「衣笠山登山」では、公民館文化委員さんや三栖町内会の皆様にご協力いただき実施できた。</li> <li>・「おたまじゃくしとり」や「梅取り体験」でも、地域の方々にご協力いただいた。また、防火パレードでは地域の皆様に沿道から拍手をしていただいたり、手を振ってもらったりして子どもたちは地域に見守られているという気持ちを持つことができた。</li> <li>・公民館主事さんには、行事ごとに園のお手伝いをさせていただき、園内の様子も見ていただけた。</li> <li>・「えんだより」「ホームページ」「公民館報」で、保護者・地域へ園の様子を発信できた。また、公民館への作品展示も良い機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症が終息すれば、中学校との交流を復活させたり地域の皆様に来園していただく機会を増やしたりしていきたい。</li> <li>・子どもたちの心に残る、子どもたちに地域の良さが伝わるような行事等になるように、内容の充実を図っていきたい。</li> </ul>	
公 民 館 （ 地 域 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣笠山登山を通して、三栖地域のシンボルである衣笠山の歴史や地域の魅力を伝えることができただけでなく、子どもたちと地域の方々の世代間交流ができた。</li> <li>・三栖公民館のロビーにおいて月替わりでロビー展を開催したことで、日常的に地域の方々に園児の作品を見てもらえる機会ができ、幼稚園の活動を知ってもらえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業に協力いただいている人材の高齢化が進んでおり、担い手が減少しているため、地域人材の発掘、育成が必要である。</li> </ul>	

<p>今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</p> <p>○キャリア教育について 「具体的な将来の夢について考えさせてやってほしい」という、主に小学校への意見であったが、幼稚園においては保育の中や遊びの中でその機会を設けるようにしている。例えば、年少さんは「お店屋さんごっこ」だったり、年長さんは「自分たちのまちづくり」だったり、いろいろな仕事を楽しめるようにしている。このことについて、小学校につなぐ手立てがあるか考えていきたい。</p> <p>○開かれた園づくりについて ・昨年度提案いただいた「公民館への作品展示」については、毎月公民館、幼稚園、小学校・中学校が順に展示している。どの展示も、また玄関の小学生の展示案内も好評であるという意見もいただいた。 ・民生委員、町内会の役員、保護司会、児童養護施設、児童相談所等にも子どもたちの様子を見ていただく機会を設定してほしいという意見があった。今後、考えていく必要がある。</p> <p>○園児募集について 委員さんに、園児募集ポスターの貼る場所を増やしていただいた。</p>
<p>特徴的な協働活動</p> <p>～衣笠山に登ろう～ 地域のシンボル、園歌にも出てくる衣笠山に年に一度登るこの行事は、定着してきている。今年も、事前に三栖町内会・公民館文化委員の皆様が登山道や山頂付近の草刈り、整備をしてくれたおかげで気持ちよく登ることができた。 当日は、保護者と一緒に公民館文化委員さん方が子どもたちと手をつないで登ってくれた。また、救護車や荷物運搬車も出してくれた。途中で子どもたちは木の実を拾ったり、眼下に広がる三栖地域のことを教えてもらったりしていた。山頂では、田辺湾から白浜方面まで見える素晴らしい景色を見ながら、みんなで園歌を歌った。その後、公民館長さんから衣笠城についてのお話をいただいた。お弁当の後、おやつもいただき、楽しく過ごして下山した。子どもたち、保護者にとって、豊かな自然に触れるとともに三栖地域のことを学ぶ良い機会になった。また、地域の方々の温かさにも触れることができた衣笠山登山だった。</p>
 <p>「あつ、あそこに幼稚園と中学校が見えるね。」</p>
 <p>♪にこにこにっこり えがおでね きぬがさやまが おひさまが…♪</p>
 <p>「昔この地域にお城が四つありました。」</p>

学校・園名	田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 本園は旧田辺市の北東部、高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して様々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少し、今年度の本園の保護者においては一世帯となっている。昔から教育熱心な地域で、幼稚園教育にも理解があり物心両面において温かい支援をいただいている。昨年度はコロナ禍において多くの行事が中止を余儀なくされたが、今年度は感染防止措置を取りながらできる範囲で実施している。預かり保育については100%の出席率となっている。			
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで取り組んできた地域とのつながりを深めていけるように感染防止対策を取りながら行事等を実施できるようにする。</li> <li>・絵本タイムの支援活動を行う。（お話の会・絵本タイム支援）</li> <li>・安心ネットワーク活動による高齢者との交流を行う。</li> <li>・老人保健施設「あきつ」との交流を図る。</li> <li>・豊かな自然を活用し、動植物に触れるなどして情操を養う。</li> </ul>		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
上秋津地域学社融合推進協議会 		あきつの運営委員会 上秋津地区民生児童委員 社会福祉協議会 上秋津公民館	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
成果		課題	
園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において園児がマスクを着用したり手指消毒に努めるなどして感染防止対策を講じることで外部の人材にも来園していただき活動することができた。</li> <li>・安心ネットワーク活動では、独居老人や配慮を要する高齢者に手作りメッセージをプレゼントすることができ、とても喜んでもらったことで、園児たちも成就感を味わうことができた。</li> <li>・防火パレードをする中で、地域の方々が沿道に出てきてくれ、励ましの声をかけていただいたことで充実感を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は未就園児の保育にも公民館主事に手助けをしていただくことができた。また、絵本タイムとして園児への読み聞かせもしていただくことができた。この活動を継続し、より積極的な関わりがもてるように園での活動内容を工夫していきたい。</li> <li>・上秋津町内の老人会が解散されたことで、園児に関わる昔遊び等の高齢者との交流については、公民館主事との連携が必要になってくると思われる。</li> </ul>	
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、「夏まつり」や「敬老会」などの事業が実施できなかった。しかし、実施可能な活動に関しては、感染防止対策を講じた上で、地域の方との交流は継続することができた。</li> <li>・11月に上秋津公民館で行った「上秋津子ども作品展」に園児の作品を展示した。地域の方に、幼稚園の取組を知ってもらえる良い機会になったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と幼稚園の課題を共有し、課題解決に向け、お互いに協力する体制を継続していきたい。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響による行事等の中止や園児数の減少により、幼稚園との関わりが少なくない地域の方も増加している。そのような方にも幼稚園の取組を知ってもらうことができるよう、行事や広報活動を工夫して行っていきたい。</li> <li>・現在行っている活動を継続し発展させるため、幼稚園に関わってくださる人材を発掘する。</li> </ul>	

今年度の取組内容 会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合推進協議会では、本年度も昨年同様にコロナ禍の対応をしていくこととなった。そのため、春祭りや夏祭りは中止することとなった。幼稚園としても参加していく意向であったが、「よさこい」の踊りを披露する場が少なくなった。</li> <li>・地域を挙げての「見守り活動」についても、子どもたちが元気に挨拶ができていたり、地域の方が進んで沿道に立ってくれていたり大変充実した活動となっていると話し合われた。</li> <li>・幼稚園としては、地域の方々に知っていただくことで交流が図れるものと考えているので、できるだけ地域に根差した幼稚園をめざしたいと方向性について話をさせていただいた。</li> </ul>	
特徴的な協働活動	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第2週の月曜日に「絵本タイム」を設定し、地域の方に読み聞かせをしていただいている。公民館主事に連絡調整をしていただくとともに主事にも読み聞かせをしていただいている。園児たちはとても楽しみにしており、読み手に近寄って聞こうとしている。こうした中で交流が図れている。（左の写真）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館主事には、園での活動に積極的にかかわっていただいている。未就園児の参観保育でも、大きなシャボン玉の中に入る実験をしていただき、園児たちも何度も挑戦していた。他地区の公民館主事にも協力していただいた。（右の写真）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏千家の長尾宗静師範にお越しいただき、「お茶会」を行っている。真・行・草の作法を学びながらお茶をたてたり、お運びを行ったりしている。また、年度末には修了証と言える「おしるし」を授与していただいている。普段は落ち着いて活動できない子ども、お茶会の際は作法に則り活動できていた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が町のために活動する内容は限られているが、その中の1つに秋の防火週間における「防火パレード」が挙げられる。田辺消防署の職員にご指導いただき、町内を歩く沿道付近に住まわれている方が出てきてくれ、園児たちに声をかけてくださっていた。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に支えられ、菜園で夏野菜・冬野菜を育て、収穫した。園近くのミカン畑では、袋被せ体験もさせていただいた。</li> </ul>
	

学校・園名	田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
<b>学社融合における学校・地域の様子</b> 「地域とともにある学校 学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めている。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切に取組を深める中で、地域の方と園児が交流する機会や体験的な活動が充実しつつある。菜園活動の指導や園内活動の援助、地域学習の支援、自然体験活動の場の提供などたくさんの支援と協力をいただいているところである。			
目 標	学校・園・地域 ・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。		
<b>校（園）区の推進組織（組織体制図）</b> 		<b>支援者及び支援組織</b> ・中芳養地域の方 ・中芳養公民館 ・中芳養小学校 ・中芳養町内会 ・中芳養中学校 ・老人会「芳寿会」 ・JA紀南芳養谷支所 ・未就園児の家庭	
<b>成果と課題（学校・公民館からの視点）</b>			
<b>成果</b> ○コロナ禍の中、地域の方との交流の場は持てなかったのが、園外保育を増やし、中芳養の自然を五感で感じたり、特産物の収穫を楽しんだりすることができた。また、文化や伝統に触れる機会を通して、中芳養を知ることやこころよく園児を迎えてくれた方に親しみを持ち、より地域が好きな子どもたちに育ってきている。 ○安心して親子で遊べる場ということで、園庭開放、未就園児交流に取り組んでいる。参加者は日に日に増えている。		<b>課題</b> ○昨年度に引き続き、コロナ禍の中、地域の方との交流の場は持てず、大変残念であった。 ○地域の老人クラブ芳寿会さんとの交流活動ができていない状況であるので、新型コロナの感染状況も踏まえながら、交流活動を再開させながら、活動内容なども検討していきたい。 ○地域の幼稚園として、愛され信頼される幼稚園の運営や保育に努めるとともに、今後も広く知ってもらえるような工夫を考えていきたい。	
学校	・園児たちの日頃の活動の成果を、毎月の公民館報、12月の中芳養合同作品展で地域に向けて発信することができた。 ・地域の方々と交流することにより、園児たちの心の豊かさを育むことができた。		
公民館（地域）	・地域・幼稚園の課題を共有し、協力して課題解決に取り組んでいきたい。 ・より多くの方々に、園児たちの日頃の取組に関心をもってもらい、地域で育てていくという意識を高めていきたい。		

<b>今年度の取組内容</b> <b>会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）</b>	
○子どもたちの生活の状況を共通理解した。 〈生活状況調査による率が低い〉 ・将来に夢を持っている ・人のためになりたい ・塾に通っていない ・地域行事への参加（高いが最近下がってきている） ・読書をする 《課題》 ・ケータイスマホの、家での約束がない。あっても守らない。 ・ゲームを4時間以上する率が県平均より高い。 ・「自分に自信がある」は少し低い。自己肯定感が低い子が少し多い。 ・勉強する時間が少ない傾向がある。  幼稚園、小学校、中学校、それぞれの子どもの生活についての現状を出し合い共通認識を行った。今の子どもたちは忙しい時間を過ごしていること、協議会委員のわたしたちの子ども時代とは、色々な面においても大きな変化がある。今の子どもたちが過ごしている時代のことが少し理解できた。 園や学校として、また地域として子どもたちの地域での生活が豊かになるよう、できることから取組を進める事ができればとの協議となった。	
<b>特徴的な協働活動</b>	
《伝統に親しむ》 ○泉養寺へ園外保育 住職さんから、色々なお話を聞きました。鐘もつかせていただきました。	
《地域の特産体験》 梅の収穫体験にチャレンジしました。その後、幼稚園で梅ジュースを作りました。とても楽しかったです。梅ジュースは美味しかったです。	